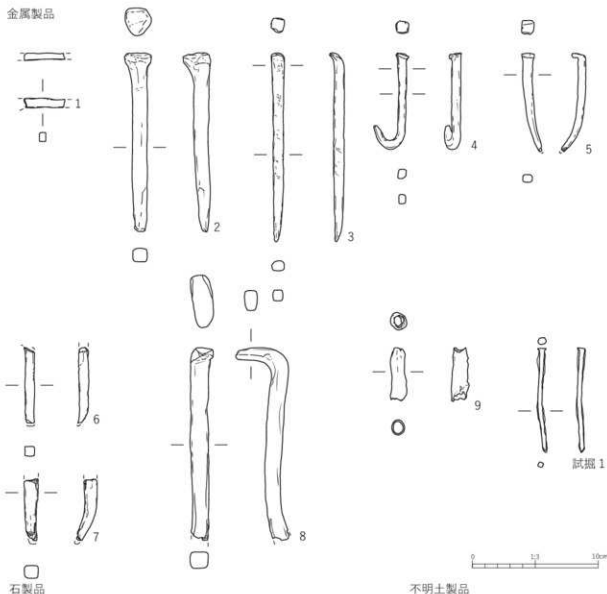
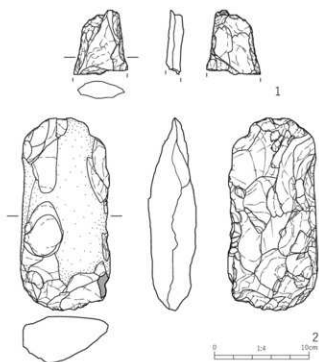


金屬製品

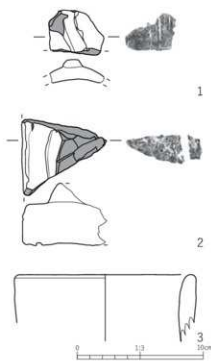


試掘1

石製品



不明土製品



第229圖 金屬製品、石製品、不明土製品

第18表 軒瓦瓦観察表

形式・小字種 地上・地下層 地上層 地下層	動物種・ゾリッド・混合種・ゾリッド 地上層 地下層 地上層 地下層	残存部		法量		個数		動土		支那産	瓦五層 凸面・凹面 側面	
		支那産	瓦五層	瓦五層	瓦五層	瓦五層	瓦五層	瓦五層	瓦五層			
1	1	E06	2/3	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
2	1	S005 E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
3	1	E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
4	1	E05d	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
5	1	E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
6	1	S001 E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
7	1	E05c	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
8	1	S001 E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
9	1	E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
10	1	E06 Aトロンナ	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
11	1	E05d	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
12	1	S001 E06c	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
13	2	SX1 30 E06 30	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
14	2	SX1 30 E06 30	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
15	2	S006	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
16	2	SX1 E06 Fトロンナ	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
17	2	E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4
18	2	SX1 E06	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4	1/4

型別・小分類	地上通物・アリッド・アリッド 地上通物で表記のないものは全 て地上通物	地上通物・アリッド/組合通物・ アリッド	文種別	残存部	水石部	柱	法量		積造		動土	文種別	丸瓦部	凸面 凹面 側部			
							瓦葺	瓦葺	葺	葺					瓦葺	瓦葺	
19	2	E66	外3 1/3	外区	中房	瓦葺	瓦葺	22~33	—	22.8	葺	土色積	土色積	10/367.1 底白	葺・黒・白色積込入 白色粘土・アークス積込入	毎日(葺)	不明
20	2	SK02 E6	外3 1/3	中房	瓦葺	—	—	—	葺	18.0	葺	2.5/37.1	2.5/37.1	2.5/37.1	葺	不明	
21	2	SK1 06	外3 1/2	外区	—	1.2	—	1.2	葺	25.1	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
22	2	SK1 06	外3 3/4	中房	瓦葺	1.6	2.3	—	葺	47.4	葺	10/367.1	10/367.1	10/367.1	葺	毎日(葺)	不明
23	2	SK01 E66	外3 1/4	外区	—	1.6	—	1.6	葺	13.1	葺	7.5/37.1	7.5/37.1	7.5/37.1	葺	毎日(葺)	不明
24	2	SK01 E66	外3 1/8	中房	瓦葺	1.8	—	1.8	葺	9.9	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
25	2	SK1 3M	中房	中房	瓦葺	1.8	1.8	—	葺	17.2	葺	2.5/37.1	2.5/37.1	2.5/37.1	葺	毎日(葺)	不明
26	2	E65	外3 1/3	外区	—	1.0	2.1	—	葺	18.9	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
27	2	E66	外3 1/26	外区	—	1.8	—	1.8	葺	7.0	葺	10/367.1	10/367.1	10/367.1	葺	毎日(葺)	不明
28	2	E65	外3 1/2	外区	—	—	—	1.3	葺	37.0	葺	2.5/37.1	2.5/37.1	2.5/37.1	葺	毎日(葺)	不明
29	2	E6	外3 1/2	外区	—	—	—	1.2	葺	1.2	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
30	2	東洋深淵	外3 1/2	外区	—	—	—	0.8	葺	7.4	葺	2.5/37.1	2.5/37.1	2.5/37.1	葺	毎日(葺)	不明
31	3	SK07 E65	外3 1/1	外区	—	2.4	1.1~3.2	2.3	葺	70.3	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
32	3	E66	外3 1/2	外区	—	1.6	2.0	—	葺	44.5	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
33	3	E66	外3 1/4	中房	瓦葺	1.4	1.4	—	葺	13.0	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
34	3	E65	外3 1/6	中房	瓦葺	1.6	1.2	—	葺	29.6	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明
35	3	SK05 E66	外3 1/4	外区	—	1.8	2.2	—	葺	42.9	葺	葺	葺	葺	葺	毎日(葺)	不明









型式・小分類	出土遺物・フリット/組合遺物・フリット 出土部位で表記のないものは全 て土層 出土	文様図	残存部	水石部	注	法量		単位		構成		動土	文様図	九瓦面 凸面 四角 側面
						形状	長さ	幅	厚さ	面・点	面・点			
75 二 1 ①	E6f	1/10 中層次	1/12	17.0	14.2	—	—	54.8	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
76 二 1 ①	E6d	1/4 中層次	1/4	18.2	13.1	6.8	—	27.1	還元	軟	軟	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
77 二 1 ①	E6d	1/4 中層次	1/4	19.4	16.8	7.4	1.0~2.0	7.4	還元	硬	硬	10YR7/3 に赤い鉄質	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
78 二 1 ①	E6f	1/10 中層次	—	18.0	15.0	7.0	—	22.5	還元	軟	軟	9Y7/1 に赤い鉄質	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
79 二 1 ①	E6c	1/12	1/12	16.2	12.0	—	—	10.3	還元	硬	硬	2.5Y5/4~ 1.5Y5/4に赤い鉄質	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
80 二 1 ①	Aトロンチ 器土層	1/10 中層次	1/10	18.0	15.0	7.0	—	70.9	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
81 二 1 ①	SH02 IV	1/4	1/4	17.6	14.6	6.7	—	126.8	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
82 二 1 ①	E6f	1/4	1/4	18.8	15.6	7.4	1.3~2.0	176.1	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
83 二 1 ①	Aトロンチ 器土層	1/6	—	17.6	14.4	—	—	70.6	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
84 二 1 ①	器土層	1/10 中層次	1/10	18.0	15.0	7.0	—	20.1	還元	硬	硬	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
85 二 1 ①	E6d	1/12 中層次	1/12	16.6	13.6	—	—	26.1	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
86 二 1 ①	E6f	1/4	1/4	17.2	15.0	6.8	—	426.6	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
87 二 1 ①	E6f	1/4	1/4	17.8	15.0	6.9	—	226.5	還元	硬	硬	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ	黒・白色砂混入。 自然磁土でマーブル状に散入。 外縁部は、外区内外縁部ナデ 外縁部は、外区内外縁部ナデ
88 二 1 ①	SH03 E6f	1/6	1/6	16.8	14.2	7.1	—	24.4	還元	硬	硬	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
89 二 1 ①	E6f	1/6	1/12	16.6	14.8	—	—	174.9	還元	硬	硬	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
90 二 1 ①	E6f	1/6	1/6	18.0	15.3	7.1	—	170.2	還元	軟	軟	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
91 二 1 ①	E6f	1/6	1/6	18.7	15.4	6.8	—	206.5	還元	硬	硬	10YR6/4~ 10YR4/1に赤い鉄質 に赤い鉄質	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。
92 二 1 ①	E6f	1/4	1/4	17.8	15.0	7.0	—	186.6	還元	軟	軟	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。	鉄多量混入、白色砂、 黒土(3mm程度あり)混入。 外区外縁部、内区と外区との 区別が不明。



型式・小分類	出土遺物・フリット/組合遺物・フリット 出土部位で表記のないものは全 て土層/層	出土 部土	遺存部	形状		重量		測定		加工		文目録	九瓦器 凸面・凹面 標記
				外径	内径	中径	高さ	厚	底	底	底		
114	二 1 不明	E6d	中層1/4層	—	—	6.6	—	—	—	—	—	—	—
115	二 1 不明	E6d	外区1/10層	1700	1150	—	—	—	—	—	—	—	—
116	二 1 不明	S801	内・外区1/10 中層大	170	1150	8.0	—	—	—	—	—	—	—
117	二 1 不明	E6e	中層1/4層	—	—	10~12	—	—	—	—	—	—	—
118	二 1 不明	E6d	内区1/10層	—	—	6.8	—	—	—	—	—	—	—
119	二 1 不明	E6e	内区1/21 中層大	—	—	15.2	6.6	0.8	—	—	—	—	—
120	二 1 不明	E6c	内区1/21 下層片	180	—	1.3	—	—	—	—	—	—	—
121	二 1 不明	E6e	中層大	—	—	7.0	0.7	—	—	—	—	—	—
122	二 1 不明	E6e	内区1/21 下層片	—	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—
123	二 1 不明	E6e	中層大	160	—	—	—	—	—	—	—	—	—
124	二 1 不明	E6e	内区1/21 中層大	—	14.8	0.8	—	—	—	—	—	—	—
125	二 1 不明	E6d	内区1/21 中層大	—	—	6.0	—	—	—	—	—	—	—
126	二 1 不明	E6d	内区1/21 中層大	—	11.5	7.0	—	—	—	—	—	—	—
127	二 1 不明	E6e	内区1/21 中層大	—	—	6.8	1.8	—	—	—	—	—	—
128	二 1 不明	E6d	内区1/21 中層大	—	11.0	1.3	—	—	—	—	—	—	—
129	二 1 不明	E6e	内区1/21 中層大	—	18.4	13.0	1.4	—	—	—	—	—	—
130	二 1 不明	群A層	内区1/21 中層大	—	—	6.4	1.6	—	—	—	—	—	—
131	二 1 不明	E6e	内区1/21 中層大	—	15.0	—	0.8	—	—	—	—	—	—
132	二 1 不明	E6c	中層大	18.2	11.0	—	—	—	—	—	—	—	—



型式・小分類	出土遺物・フリット/組合遺物・フリット 出土部位で表記のないものは全 て土質	文様面	残存部		法量		構成		動土		文様面	丸瓦部 凸面 凹面 裏面
			丸瓦部	文様面	外径	内径	厚	重量 (g)	断面形状	色		
131	二不明	外区 底唇一部破 片	丸瓦部	外区 中野 丸瓦部	18.6	15.0	1.9~2.4	軟	25337/4	土色顔	10337/3	欠損
132	二不明	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	13.4	10.4	2.7	軟	2537/3	茶・黒・灰・白色顔 灰白 (1.3mm程度多量)	2537/1	面ナデ (底唇残)
133	二不明	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.2	1.2	0.2	硬	N3/	茶・白色顔少量混入	2537/1	ナデ (底唇残)
134	二不明	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.8	1.8	2.0~	硬	N6/	白色顔少量混入	欠損	ナデ (底唇残)
135	二不明	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.4	1.4	2.0~2.6	硬	10332/1	茶・白色顔混入	33306/6	面ナデ (底唇残)
136	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.1	1.1	14.4 11.0 5.0	1.6~1.8	25335/8	茶・黒・灰・白色顔 灰白 (ナデ)	33306/6	面ナデ (底唇残)
137	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.2	1.2	14.4 11.0 3.6	2.0+	25336/1	茶・黒・灰・白色顔 灰白 (ナデ)	7536/1	面ナデ (底唇残)
138	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	2.3	2.3	14.4 10.8 5.2	2.0+	325/1	茶・灰・白色顔・石灰 ナデ少量混入	536/1	面ナデ (底唇残)
139	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.3	1.3	14.4 11.2	3.3~3.5	2537/1	灰・白色顔・石灰 ナデ少量混入	7537/1~ 7533/1	面ナデ (底唇残)
140	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.3	1.3	14.6 11.0	1.8+	537/1	茶・黒・灰・白色顔少量混入	10337/6	面ナデ (底唇残)
141	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	2.3	2.3	13.4 11.2 5.0	2.5+	336/1	茶・黒・灰・白色顔少量混入	7536/1	面ナデ (底唇残)
142	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.5	1.5	14.6 11.0	1.8+	33306/6	茶・灰・白色顔少量混入	10335/1	面ナデ (底唇残)
143	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.3	1.2	13.8 11.0 5.3	3.5	25361/1	茶・白色顔・石灰 ナデ少量混入	25361/1	面ナデ (底唇残)
144	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.4	1.2	11.6	2.7	N5/	茶・白色顔・石灰 ナデ少量混入	N5/	面ナデ (底唇残)
145	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.5	1.5	14.6 11.2 5.1	4.8	25336/8	茶・黒・灰・白色顔 灰白 (ナデ)	25336/8	面ナデ (底唇残)
146	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.0	1.0	13.0	4.6	23361/1	茶・黒・灰・白色顔 石灰・ナデ少量混入	536/1	面ナデ (底唇残)
147	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.0	1.0	12.4	4.5	N6/	茶・黒・灰・白色顔 石灰・ナデ少量混入	N6/	面ナデ (底唇残)
148	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.8	1.8	15.0 1.0 5.0	1.5+	25335/8	茶・白色顔・ナデ少量混入	33306/6	面ナデ (底唇残)
149	三	丸瓦部	丸瓦部	丸瓦部	1.0	1.0	11.6	0.8+	33311	茶・白・茶色顔混入 ナデ少量混入	33306/6	面ナデ (底唇残)





型式・小分類	出土遺物・フリット・組合遺物・フリット 出土部位で表記のないものは全出土部	残存部	文様面	法量	測定		重量 (g)	形状・色好 等・不況	内面色調		胎土		文様面	九瓦面	九瓦面 凸面・凹面 側面
					外径	内径			外径	内径	色調	色調			
184 四 2	E65d	—	外区1/100 片	—	124	—	18+	—	542	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入	欠損	
185 四 2	重A層	外区1/120 片	—	—	—	—	17+	—	336	還元	軟	赤・白	赤・白色粗粒混入		
186 四 3	E66	1/2	外区1/2 片	15.6 16.0	10.5 10.2	2.1 2.2	1.5	—	534.5	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
187 四 3	重A層	外区1/12	外区1/12 片	16.0	—	—	13.9(9)	—	1137	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
188 五	E6e SK03 1W	—	外区1/2 片	19.4	16.6	11.6	1.8	2.2	957.6	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
189 五	E6e	—	外区1/4 片	18.8	16.0	—	1.5	—	867	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
190 五	E6d	—	内区1/153 F	18.0	13.4	—	1.6	—	118.0	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
191 五	E6e	—	外区1/223 F	18.3	—	—	1.6	—	792	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒多量混入		
192 五	E65d	—	内区1/8 片	—	14.0	—	1.6	—	871	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒多量混入		
193 五	重A層	—	内区1/153 F	—	—	—	1.6	—	454	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒混入		
194 五	SK05 E6e	—	1/4	18.8	14.0	10.4	2.0	1.8	923.5	還元	硬	赤・白	赤・白色粗粒多量混入		
195 五	SK05 E6e	—	1/1 西区割部	19.0	—	—	13.9(9)	2.1	1277.1	還元	軟	赤・白	赤・白色粗粒多量混入		

第19表 軒平瓦観察表

通称・ タイプ	型式	製法 (製造)	残存状況		寸法 (mm)				重量		内面塗色		外面塗色		胎土	成形	断面	凸面	側面形状	
			瓦当 長さ	瓦当 厚	瓦当 長さ	瓦当 厚	重量 g	瓦当 長さ	瓦当 厚	瓦当 長さ	瓦当 厚	瓦当 長さ	瓦当 厚	瓦当 長さ						瓦当 厚
E-54 E-56a	四重	A	左側1/4	全長 27.8	28.1	4.5	17.6	20	2250.0	酸化 黒	7.5323/1 N7	7.5326/4 N7	107.06/4 N5/	107.06/4 N5/	白粉少量混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、側面面取	瓦切
E-6	四重	A	右側4/5	11.3	25.8	4.7	14.0	23	910.3	酸化 黒	7.5323/1 N7	7.5326/4 N7	107.06/4 N5/	白粉少量混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、縁部向き (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、側面面取	瓦切	
S-03	四重	A	左側2/5	9.2	15.8	5.1	—	3.2	672.6	酸化 黒	2.973/1 N1	2.973/1 N1	147.91/1 N1	黒・白色混入	粘土・ 黒色	—	毎日、ナデ (側面部)	ナデ (瓦当縁部)、側面面取	瓦切	
E-54	四重中央	A	中央1/5、上段風文・ 下段風文、凸面欠	8.5	15.2	2.4	—	1.8	216.9	酸化 黒	2.973/1 N1	2.973/1 N1	147.91/1 N1	黒・白色混入	粘土・ 黒色	—	毎日、ナデ、側面面取	ナデ (瓦当縁部)、 側面面取	瓦切	
E-54	三重	A1	右側1/2、右側面欠	40.7	15.0	4.4	20.0	1.8	2900.0	酸化 黒	9.14/1 N1	10.974/4 N1	107.07/4 N5/	茶・白色混入、 白粉土・ヤブ4枚	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、右側縁部、横首、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)、 側面面取	瓦切	
E-54	三重	A1	左側2/4、横文一部欠	15.0	28	5.0	8.0	1.3	1300.0	酸化 黒	9.14/1 N1	7.5327/6 N5/	7.5327/6 N5/	黒・茶、横紋混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)、 側面面取	両手	
D-6	三重	A1	右側2/3	16.5	23.5	5.3	—	2.4	1267.5	酸化 黒	9.14/1 N1	10.974/4 N1	107.07/6 N5/	黒・白色混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
D-6c	三重	A1	右側1/3	12.5	14.0	3.7	5.8	2.3	299.0	酸化 黒	9.14/1 N1	9.14/1 N1	107.07/6 N5/	黒・白色混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ハコナデ (瓦当縁部)、 側面面取 (向き)、横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-54	三重	A1	右側1/3、上段風文	25.5	11.5	4.5	10.2	2.0	1030.9	酸化 黒	2.976/1 N1	2.976/1 N1	147.91/1 N1	黒・白色混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-54	三重	A1	左側1/2、上段風文	11.5	17.2	4.0	8.0	2.5	569.5	酸化 黒	2.976/2 N1	2.976/2 N1	147.91/1 N1	黒・茶、白色粒多量混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	横首、布目 (中)、ナズリ (側面)、 側面面取、赤褐色	横首、 側面面取	瓦切	
E-56a	三重	A1	右側1/2	10.6	14.8	4.3	12.4	1.7	600.0	酸化 黒	9.5/1 N5/	9.5/1 N5/	375/1 N5/	黒・茶、白色粒多量混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 側面面取、赤褐色	ナズリ、ヨコナデ (瓦当縁部)、側面面取	瓦切	
E-56	三重	A1	右側2/5	10.6	16.0	4.8	13.0	2.0	538.5	酸化 黒	7.5323/1 N7	7.5326/4 N7	107.06/4 N5/	黒・茶、白色粒多量混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 側面面取 (向き)、横首、赤褐色	縁部向き、ナズリ (側面部)	瓦切	
E-6	三重	A1	右側2/5、上段風文一部欠	15.5	14.5	4.7	13.3	1.1	335.5	酸化 黒	N7/ N7	N7/ N7	147.91/1 N1	黒・茶、白色粒混入、 白粉土・ヤブ4枚に混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	横首、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	ナズリ、ヨコナデ (瓦当縁部)	瓦切	
S-03	三重	A1	右側1/5	12.0	7.7	2.7	—	2.0	190.0	酸化 黒	9.14/1 N1	9.14/1 N1	147.91/1 N1	黒・白色混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ヨコナデ (瓦当縁部)、 横首、側面面取、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-6	三重	A1	左側1/2、上中段風文 凸面欠	10.5	16.4	4.1	2~10	1.8	301.0	酸化 黒	9.35/1 N5/	9.35/1 N5/	375/1 N5/	黒・白色粒混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 側面面取	ナズリ (側面部)、 ヨコナデ	瓦切	
E-54	三重	A1	左側1/8	7.6	7.4	3.3	9.0	2.0	247.8	酸化 黒	9.35/1 N5/	9.35/1 N5/	375/1 N5/	黒・白色粒混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-54	三重	A1	右側1/6、上段風文	8.0	6.8	4.8	4.7	2.1	300.2	酸化 黒	9.35/1 N5/	7.5327/6 N5/	7.5327/6 N5/	黒・茶、白色粒混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、側面面取 (向き)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-6	三重	A1	中央1/6、側面欠	6.7	5.5	2.8	1.7	2.0	110.4	酸化 黒	9.35/1 N5/	7.5327/6 N5/	7.5327/6 N5/	黒・白色粒混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-54	三重	A2	右側2/5、上中段風文 凸面欠	12.0	13.2	4.1	13.0	1.9	551.5	酸化 黒	N7/ N7	N7/ N7	147.91/1 N1	黒・茶、白色粒混入、 白粉土・ヤブ4枚に混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、側面面取 (向き)、 横首、赤褐色	縁部向き、ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-6	三重	A2	右側1/5、上段風文一部欠	6.5	7.5	4.0	3.2	1.5	131.5	酸化 黒	9.35/1 N5/	9.35/1 N5/	375/1 N5/	黒・茶、白色粒混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	横首、布目 (右)、横首、 横首、赤褐色	ナズリ→ナデ (瓦当縁部)	瓦切	
E-5c	三重	A2	右側1/3、下段風文一部欠	7.2	12.0	3.5	7.0	1.6	247.2	酸化 黒	9.35/1 N5/	23.97/4 N5/	23.97/4 N5/	黒色粒混入、 茶・ヤブ4枚の白 粉土・ヤブ4枚に混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ヨコナデ (瓦当縁部)、 側面面取、 横首、赤褐色	縁部向き→ヨコナデ	瓦切	
E-6	三重	A2	中央1/5、側面面欠	7.5	7.5	4.8	7.1	1.8	226.1	酸化 黒	N5/ N5/	N5/ N5/	147.91/1 N1	黒・白色粒混入、 白粉土・ヤブ4枚に混入	粘土・ 黒色	粘土・ 赤褐色	毎日、ナデ (瓦当縁部)、 横首、赤褐色	平行向き→ナデ (瓦当縁部)	瓦切	



通物 タイプ	形式	構造 (部位)	残存状況			寸法 (mm)			重量 g	組成		動土	成形	凹面	凸面	表面状態				
			瓦当面	瓦当部	瓦当部	瓦当部	瓦当部	瓦当部		瓦当部	瓦当部						瓦当部	瓦当部		
E4	E4d	三重	B2	中央上, 4. 両側面欠	15.3*	8.2*	3.6	5.5	1.9	301.5	高さ	厚	瓦	内部色黄 土色緑 土色黄	NS/ 緑	黒色粘多量混入	粘土・ 緑色	毎日、林床工具の跡土 (瓦当縁部)、横脊取、赤切取	縁部跡、基部取	—
E4	E4b	三重	B2	中央上10. 両側面欠	11.0*	5.3*	3.4	6.7	2.1	231.6	高さ	厚	瓦	NS/ 緑	5V6-2 緑	白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	—	
E4	E4c	三重	B2	右側面3	10.3*	10.4*	3.2	3.5	1.8	311.0	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	灰・白色粘混入	粘土・ 緑色	縁部跡き→ヨコナテ	—	
E4	E4d	三重	B2	中央上1. 上段弧欠、側 面欠	5.5*	8.1	3.0*	4.3	1.5*	111.2	高さ	厚	瓦	NS/ 灰白	5V7/1 灰白	黒色粘混入	粘土・ 緑色	縁部跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4d	三重	C	中央上3. 両側面欠	11.6*	10.6*	3.4	9.6	2.0	510.0	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	灰・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	—	
E4	E4d	三重	C	左側面6. 上段弧欠	13.6*	11.2*	3.5	—	2.5	325.5	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	C	中央上5. 下段弧欠	13.7*	12.2*	3.6	6.0	3.0	383.0	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4c	三重	C	左側面2. 凸面一部跡欠	11.3*	13.2*	3.3	—	1.8	271.5	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	二重	B	左側面10. 側面9	9.4*	3.1*	3.7	6.0	1.7	206.1	高さ	厚	瓦	5V7/1 灰	5V7/1 灰	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4c	三重	A	右側面5. 側下段の弧欠一 部欠、凸面欠	12.9*	11.8*	2.4*	4.3	1.4*	214.0	高さ	厚	瓦	NS/ 灰	5V6-2 灰	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	A	右側面5. 下段弧欠、凸 面欠	6.2*	6.9	4.2*	6.7	2.4	291.7	高さ	厚	瓦	10Y2/1 黒	10Y2/1 黒	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	A	左側面1. 上段弧欠一部・ 上段弧欠、凹面欠	7.1*	6.7*	2.5*	4.8	1.1*	113.0	高さ	厚	瓦	5V7/1 灰白	5V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	A	中央上3. 上段弧欠、側 面欠、凹面欠	6.2*	8.4*	2.6*	7.5	0.9*	105.8	高さ	厚	瓦	5V7/1 灰白	5V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4c	三重	A	中央上3. 上段弧欠、側 面欠	4.2*	10.0*	2.3*	2.2	2.0*	73.1	高さ	厚	瓦	7V3/1 黒	7V3/1 黒	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	A	中央上1. 中瓦弧欠及残 存。側面欠、凹面一部 跡欠	10.8*	8.2*	3.5*	6.2	3.5*	533.5	高さ	厚	瓦	2V7/1 灰白	2V7/1 灰白	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E4	E4b	三重	B	左側面4. 下段弧欠	10.3*	11.8*	2.4*	8.7	1.8	271.8	高さ	厚	瓦	10Y2/1 黒	10Y2/1 黒	赤・白色粘多量混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
S05	S05	三重	不明	左側面1. 平瓦部欠	3.1*	11.0*	3.6	—	1.2	122.7	高さ	厚	瓦	5V7/1 灰白	5V7/1 灰白	赤色粘混入、一部白色粘 土・黄緑土	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E6	E6	三重	B	右側面7. 下段弧欠	8.6*	4.1*	2.3*	5.2	2.5	187.5	高さ	厚	瓦	7V7/1 灰白	7V7/1 灰白	赤・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
D5a	D5a	三重	B	中央上5. 下段弧欠、凸 面・側面欠	7.0*	9.5*	1.6*	18.7	0.1*	181.7	高さ	厚	瓦	NS/ 灰	NS/ 灰	赤・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E6d	E6d	三重	B	右側面3. 下段弧欠、凸 面欠	9.5*	10.7*	3.3*	1.2	2.0*	356.5	高さ	厚	瓦	10Y2/1 灰白	10Y2/1 灰白	赤・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E6	E6	三重	B	左側面5. 上中段弧欠、 凹面欠	10.0*	6.6*	2.3*	1.0	0.7*	286.5	高さ	厚	瓦	10Y2/1 灰白	10Y2/1 灰白	赤・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E6	E6	三重	B	右側面1/103下段片	5.9*	2.5*	4.0	—	3.5	56.2	高さ	厚	瓦	10Y2/1 灰白	10Y2/1 灰白	赤・白色粘混入	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	
E6	E6	三重	不明	右側面3. 弧欠残片。上段 弧欠、右側面欠、凹面 部欠	9.2*	12.8*	3.8*	9.6	1.7*	690.5	高さ	厚	瓦	7V3/1 灰	7V3/1 灰	赤・白色粘多量混入 白色粘土・黄緑土	粘土・ 緑色	平白跡き→ヨコナテ	基部取	

遺構・ アトリッド	型式	範囲 (方位)	残存状況			寸法 (cm)			重量		材質		土色	表面色	胎土	成形	西面	凸面	側面形状
			瓦面	瓦面	瓦面	長さ	幅	厚	g	内面	土色	土色							
66	E56	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	23	23+	386.0	酸化	23Y7.3/1 土色	土色	黒・赤・灰・白色・ 白色胎土	一枚つくり 口縁部	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
67	E54	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.5	2.7+	181.9	酸化	23Y7.3/1 土色	土色	黒・赤・灰・白色・ 白色胎土	一枚つくり 口縁部	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
68	E55	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	8.5	2.8+	181.9	酸化	N7/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
69	S807 E5c	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	8.0	7.4+	213	酸化	23Y7.3/4 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
70	E58c	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.7	6.5+	203	酸化	23Y7.3/4 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
71	E5c	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.5	7.7+	184.1	酸化	N5/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
72	E5c	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	3.2	9.7+	63.2	酸化	3Y8/2 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
73	E56	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.7	9.4+	101.7	酸化	3Y7/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
74	E5d	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	4.8	5.5+	84.1	酸化	7.5Y6/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
75	E5d	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	4.1	4.7+	30+	酸化	2.5Y5.1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
76	E5c	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.0	4.1+	40.3	酸化	7.5Y7.2/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
77	S808 E5b	四葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	3.8	4.8+	35.8	酸化	N7/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
78	E5d	四葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.8	7.0+	26	酸化	N5/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
79	E5c	四葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	6.0	5.6+	83.0	酸化	10Y2/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
80	E6	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	5.5	5.6+	80.2	酸化	7.5Y8/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
81	E5d	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	13.4	8.6+	378	酸化	3Y1/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
82	E5d	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	10.5	6.3+	22+	酸化	N5/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
83	E5d	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	8.8	9.0+	103.3	酸化	2.5Y7.3 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
84	S807 E5b	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	4.3	8.2+	86	酸化	N5/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城
85	E56 E5b	三葉小	B 中	瓦面	全瓦	長さ	幅	厚	5.7	7.1+	5.5	酸化	10Y2/1 灰	灰	黒・赤・灰・白色胎土	粘土・赤・ 粘土	厚城 (毎日)	厚城 (毎日)	厚城





機頭分類	出土遺物・タリッド (遺骨を含む)	出土 統合・編定	保存部 全体状況(割合)	全長 (*) (最大)	厚	残存状況・法量 (mm・重量 (g))			破綻	形状	凸面構造	凹面構造	側面構造	土色・土質 (層)	出土	
						残存部	法量部	重量 (有残)								
49 無段 T B2	E6c	A トレンチ	保護部 1/8	164±	1.8	34.2	5.5	—	540.9	還元	粘土・ 燧石	粘土・ 燧石	粘土・ 燧石	粘土・ 燧石	N5/ 灰	黒・灰・白色砂混入
50 無段 T B2	A トレンチ		保護部 1/8	143±	2.8	—	—	—	725.0	還元	粘土・ 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N4/ 灰	黒・白色砂混入	
51 無段 T B2	E6c		保護部 1/6	143±	1.8	13.0	6.5	—	286.0	還元	粘土・ 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5YR6/8 燧石	黒・赤・白色砂混入	
52 無段 T B3	E6c		保護部 1/3	250±	1.6	16.0	7.8	—	—	還元	粘土・ 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5Y5/4 灰	黒・赤・白色砂混入	
53 無段 T B3	E65d		有残部 1/1A	200±	1.8	—	—	—	579.0	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	7.5N4.2 灰	白色砂混入	
54 無段 T B3	E6c	E6c E6c	保護部 1/3	263±	1.6	15.2	6.2	—	735.0	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N5/ 灰	赤・白砂混入 白色1mm程度	
55 無段 T B3	E65d	E65c	保護部 1/3	223±	1.4	—	—	6.5	386.0	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N5/ 燧石	黒・白色砂混入	
56 無段 T B3	E55d		保護部 1/3	247±	1.7	16.8	9.6	—	960.1	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	7.5N2/1 燧石	黒・赤・白色砂混入	
57 無段 T B3	E65d		保護部 1/4	170±	1.9	15.2	8.8	—	698.9	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5YR6/8- 燧石	赤・白色砂混入	
58 無段 T B3	S801 (E6c)		保護部 1/3	248±	1.8	17.0	9.2	—	717.5	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	7.5YR7/3 燧石	黒・赤砂混入	
59 無段 T B3	E6c		保護部 1/6	113±	1.3	—	11.8	6.3	356.6	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	2.5YR4/6 燧石	赤・白色砂混入 白色粘土・アーズ&スに混入	
60 無段 T B3	E6c		保護部 1/2	110±	1.1	—	12.0	6.4	274.5	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N1/ 灰	黒・白色砂混入	
61 無段 T B3	S801		保護部 1/2	202±	1.2	—	10.0	3.2	331.9	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	2.5YR6/8 燧石	赤・白色砂混入 アーズ&スに白砂混入	
62 無段 T B3	E65d		保護部 1/12	90±	1.8	—	12.0	6.0	233.3	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	無残部	白色砂混入	
63 無段 T B3	E65c		保護部 1/5	163±	1.3	17.0	8.8	—	311.5	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5YR6/8 燧石	黒・赤・灰・白色砂混入	
64 無段 T B3	E55d		保護部 1/6	100±	2.0	—	14.4	6.8	286.2	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5YR6/8 燧石	黒・赤・灰・白色砂混入	
65 無段 T B3	E65c		保護部 1/6	183±	1.8	—	10.0	—	472.9	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N5/ 燧石	黒・白色砂混入	
66 無段 T B3	E65d		保護部 1/6	187±	1.3	14.4	6.5	—	431.0	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	2.5YR2/1 燧石	黒・白色砂混入 アーズ&スに白砂混入	
67 無段 T B3	S801		保護部 1/70	123±	1.8	—	8.4	—	201.1	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N5/ 燧石	黒・白色砂混入	
68 無段 T B3	S807		保護部 1/12	108±	1.7	16.0	8.2	—	353.3	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	N5/ 燧石	黒・赤・白色砂混入 アーズ&スに白砂混入	
69 無段 T B3	E6c		保護部 1/15	192±	2.1	14.8	6.7	—	696.0	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	7.5Y5/1 燧石	黒・赤・白色砂混入	
70 無段 T B3	E65c		保護部 1/6	83±	2.0	0.5	7.5	—	171.5	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	5YR6/8 燧石	黒・赤・白色砂混入 白色砂混入	
71 無段? O 1	E65d	E6c	保護部 1/3	215±	1.8	17.8	7.6	—	728.9	還元	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	粘土・燧石 燧石	2.5Y5/2 燧石	黒・赤・白色砂混入 白色粘土・アーズ&スに混入	



機種分類	分類2 (*)	機上設備・オプショナル (※を含む)	機体各部 全体の機体適合				機体重量 (kg)				機成	凸面機型	四角機型	側面機型	正面機型	土色輪 (脚)	機上	
			胴体部	尾翼部	翼部	脚部	主翼部	尾翼部	胴体部	脚部								機成
72	無段 0.1	E5d	広胴部 1.4	—	8.4	—	—	430.1	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
73	無段 0.1	E5d	有翼部 1.4	—	—	—	—	450.0	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
74	無段 0.1	E6	機体部 1.6	—	9.8	3.6	—	291.7	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
75	無段 0.1	E5d	機体部 1.8	—	7.8	—	—	380.0	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
76	無段 0.1	SX07 D5d	機体部 1.2	—	10.6	4.2	—	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
77	無段 0.1	SX05	機体部 1.2	—	—	—	—	307.6	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
78	無段 0.1	E5d	機体部 1.2	—	12.0	1.6	17.0	9.0	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
79	無段 0.1	E6	機体部 1.6	—	—	—	13.4	6.7	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
80	無段 0.1	E5d	機体部 1.3	—	24.0	1.4	12.8	7.7	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
81	無段 0.1	SX05	機体部 2.0	—	—	—	10.6	4.8	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
82	無段 0.1	E5d	機体部 1.3	—	22.2	1.5	—	8.6	3.1	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
83	無段 0.1	E5d	機体部 2.5	—	28.2	1.0	13.2	7.4	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
84	無段 0.1	SX05	機体部 1.4	—	22.3	1.4	15.0	8.0	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
85	無段 0.1	E5d	機体部 1.5	—	17.5	1.6	—	—	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
86	無段 0.1	E5d	機体部 1.5	—	21.0	1.8	—	8.0	4.7	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
87	無段 0.1	E5d	機体部 1.0	—	3.0	1.0	—	—	4.3	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
88	無段 0.1	E5d	機体部 1.6	—	15.0	1.1	—	9.2	4.8	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
89	無段 0.1	E6	機体部 1.8	—	14.0	1.3	—	11.0	4.9	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
90	無段 0.1	E6	機体部 1.4	—	17.1	0.9	12.8	6.4	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
91	無段 0.1	E5d	機体部 1.3	—	21.9	1.0	—	10.0	4.7	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
92	無段 0.1	E5d	機体部 1.12	—	8.5	1.6	16.0	8.6	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成
93	無段 0.1	SX01	機体部 1.6	—	11.0	1.0	—	—	—	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成	機上・機上 機成

通物分類	通物番号	出土遺構・タリマノ (遺構番号)	出土 統合・編定	出土遺構・タリマノ 全体(遺構番号)	残存状況・法量 (m・重量 (g))				通感 面・長さ 横・高さ 幅・厚さ	形状	凸面溝	凹面溝	彫刻調整	彫刻調整 種類	彫刻調整 位置	土色釉 (層)	胎土	
					全長 (最大)	幅	法量部	残存部 (残長)										重量
94	無段 0 B1	SX01	E5c	法量部 1/6	9.5+	1.0	—	10.0	5.5	—	152.2	軟	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	無ナテ	10YR5.2 灰白	紫・灰色多量混入
95	無段 0 B1	E5c	E5c	法量部 1/10	14.2+	1.3	—	—	—	—	183.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR4.2 灰	紫・灰色多量混入	
96	無段 0 B1	SX07	E5c	法量部 1/6	13.0+	1.2	11.4	7.8	—	—	209.4	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	7.5YR5.3 灰	紫・灰色多量混入	
97	無段 0 B1	SX01	E5d	法量部 1/4	10.5+	1.0	—	9.8	4.5	—	228.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	7.5YR5.3 灰	紫・灰色多量混入	
98	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/4	13.5+	1.5	—	—	—	—	467.7	軟	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	2.5Y5.2 灰	紫・白色多量混入	
99	無段 0 B1	E5d	E5d	中央部 1/6	12.9+	1.5	—	—	—	—	316.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	2.5Y5.2 灰	紫・白色多量混入	
100	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/8	13.0+	1.5	17.0	8.4	—	—	213.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.2 灰	紫・白色多量混入	
101	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/6	10.3+	1.5	—	—	—	—	143.5	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.2 灰	紫・白色多量混入	
102	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/6	14.4+	1.2	—	12.0	5.0	—	231.1	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	10YR6.1 灰	紫・白色多量混入	
103	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/6	13.2+	1.7	14.0	6.0	—	—	380.5	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	10YR5.4 灰	紫・白色多量混入	
104	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/8	10.6+	2.0	—	9.4	—	—	265.3	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.2 灰	紫・白色多量混入	
105	無段 0 B1	E5d	E5d	法量部 1/10	12.1+	1.5	—	—	—	—	211.9	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.2 灰	紫・白色多量混入	
106	無段 0 B2	E5d	E5d	法量部 1/1	34.0	1.3	17.0	8.4	7.8	5.4	—	—	—	—	—	—	灰・白→紫混入	
107	無段 0 B2	E5d	E5d	法量部 2/3	30.8+	1.4	—	11.6	5.2	—	677.7	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.5 灰	紫・白色多量混入	
108	無段 0 B2	E5d	E5d	法量部 1/5	10.5+	1.9	16.7	8.7	—	—	—	—	—	—	—	紫・灰色多量混入		
109	無段 0 B2	E5d	E5d	法量部 1/8	10.8+	1.9	—	9.0	—	—	220.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入	
110	無段 0 B2	E5d	E5d	法量部 1/5	11.3+	1.5	—	9.5	4.3	—	463.2	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入	
111	無段 0 B3	E5d	E5d	法量部 1/8	14.0+	1.8	18.0	10.2	—	—	444.7	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入	
112	無段 0 B3	E5d	E5d	法量部 1/8	13.0+	1.4	13.0	8.4	—	—	340.3	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入	
113	無段 0 B3	E5d	E5d	法量部 5/6	37.0+	1.1	8.8	17.3	8.6	4.2	—	1200.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入
114	無段 0 B3	E5d	E5d	法量部 3/4	22.2	1.4	15.4+	8.5	8.5	4.1	—	1005.9	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入
115	無段 0 B3	E5d	E5d	法量部 1/2	24.2+	1.5	17.2	6.0	—	—	1400.0	硬	粘土・ 褐色	ナテ (障子)	無ナテ	5YR5.4 灰	紫・白色多量混入	

期別 分期	出土遺物・オリーブ 土器(包含名含む)	男女器 全体の共存割合	残存状況・位置・重量 (g)				構成 品類・良好 品数・片数	成形	凸凹調整	凹削調整	磨削調整	土色(層)	出土		
			厚 (最大)	底層部	残層部 (有残)	重量									
116	無段 0 B3	E5d	快取部内側 1/2	—	10.2	5.3	—	44.2	還元	超	粘土器・良好 品数=1片	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
117	無段 0 B3	E6a	E5d	快取部 1/2	—	14.0	5.8	—	387.5	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
118	無段 0 B3	E6b	E5d	快取部 1/2	7.4	—	—	304.5	還元	軟	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人			
119	無段 0 B3	E5d	E6b	快取部 1/4	—	11.0	5.5	—	197.5	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒・白色粘土人 多量混入		
120	無段 0 B3	S301	E6b	中央部内側 1/6	—	—	—	280.8	還元	軟	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒・白色粘土人			
121	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部内側 1/2	16.2	6.7	—	200.7	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人			
122	無段 0 B3	E6b	E6b	快取部内側 1/3	—	10.4	5.4	—	21.2	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	白色粘土人		
123	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部内側 1/4	2.2	—	10.05	4.2	30.0	還元	超	粘土器・良好 品数=1片	白色粘土人		
124	無段 0 B3	E6b	E6b	左側部、両部欠 損	16.5+	1.0	—	—	300.0	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	赤・灰色粘土人		
125	無段 0 B3	E5d	E5d	中央部 1/3	14.0+	1.4	—	—	331.9	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
126	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部 1/4	20.5+	1.4	—	6.8	316.3	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
127	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部 1/2	—	8.8	4.4	—	220.9	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
128	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部内側 2/3	3.0	1.6	16.7	7.5	118.4	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
129	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部内側 1/2	10.5+	1.2	—	11.0	6.2	—	267.0	還元	軟	粘土器・良好 品数=1片	
130	無段 0 B3	E5d	E5d	快取部 1/8	11.0+	1.4	—	—	202.7	還元	超	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人		
131	無段 0 B3	E6b	E5d	快取部 1/4	11.8+	2.0	—	10.2	6.0	—	644.2	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
132	無段 0 B3	E5d	E6b	中央部 1/3	16.0+	2.0	17.8	8.5	—	—	667.0	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
133	無段 0 B3	E5d	E5d	右側部 両部欠損 1/2	24.8+	1.7	—	—	—	—	672.5	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
134	無段 0 B3	E6b	E6b	中央部内側 1/3	20.3+	1.6	—	—	—	—	472.6	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
135	無段 0 B3	E5d	E6b	快取部内側 1/2	13.5+	1.9	15.4	7.0	—	—	858.5	還元	良好	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
136	有段 T 1	E6b	E6b	右側部 1/3	13.0+	1.8	—	11.5	5.7	5.5	685.6	還元	硬	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人
137	有段 T 1	E5d	E5d	右側部 1/8	17.0+	1.2	—	9.5	4.8	4.3	612.2	還元	軟	粘土器・良好 品数=1片	黒・黒色粘土人



第21表 平瓦観象表

観象 番号	観象 分類	出土遺構・グリッド 区分(発掘区)	発見 位置・層位	観象名 全体の残存割合	残存状況・位置 (m・重量 (g))		形状	地蔵 種・縁・良好 部・欠片	重量	厚	高	傾度 (%)		凸陥	凹陥	土色粘	観象 説明
					縦長	傾度						傾度	傾度				
1	平瓦 T 1	A6	E6	伝馬部	28.1+	25.6	6.5	2.6	—	2.0	20.00	—	—	—	—	10YR7/4-10YR6/6	黒・茶色粘土人。底に有機物残人。
2	平瓦 T 1	A6	E6	伝馬部	28.4+	—	23	25.5	—	2.0	16.00	—	—	—	—	2.5Y7/4-2.5Y2/1	黒・茶・白色粘土人。底に有機物残人。
3	平瓦 T 1	SX01	E6	伝馬部	18.2+	13.1+	—	24	—	1.7	50.00	—	—	—	—	7.5Y7/1-7.5Y2/1	黒・茶・白色粘土人。底に有機物残人。
4	平瓦 T 1	A6	E6	伝馬部	22.2+	15.4+	5.4	2.6	—	2.2	50.00	—	—	—	—	10YR8/2-10YR2/1	黒・茶・白色粘土人。底に有機物残人。
5	平瓦 T 1	SX01	E6	中央(扉部欠)	18.5+	—	—	—	—	—	68.10	—	—	—	—	10YR2/1	黒・茶色粘土人。
6	平瓦 T 1	A6	E6	伝馬部	11.0+	—	—	19.5+	—	2.2	40.00	—	—	—	—	10YR3/1	黒・白色粘土人。
7	平瓦 T 1	SX01	E6	中央(扉部欠)	10.1+	—	—	12.5+	—	1.7	27.20	—	—	—	—	10YR3/1	黒・茶・白色粘土人。
8	平瓦 T 1	SX01	E6	中央(扉部欠)	13.0+	—	—	—	—	—	21.20	—	—	—	—	10YR6/3	黒・茶・白色粘土人。
9	平瓦 T 1	SX01	E6	伝馬部(扉部欠)	7.7+	—	—	5.3+	—	1.2	96.5	—	—	—	—	10YR6/1	黒・茶・白色粘土人。
10	平瓦 T 1	SX01	E6	中央(扉部欠)	10.5+	—	—	—	—	2.0	95.0	—	—	—	—	5YR6/1	黒・茶・白色粘土人。
11	平瓦 T 1	SX01	E6	中央(扉部欠)	10.3+	—	—	—	—	—	89.0	—	—	—	—	10YR6/2	黒・茶・白色粘土人。
12	平瓦 T 1	SX01	E6	伝馬部	27.5+	—	—	—	—	1.8	67.0	—	—	—	—	10YR6/2	黒・茶・白色粘土人。
13	平瓦 T 1	SX01	E6	伝馬部	32.5+	7.5+	—	1.4	—	—	98.4.5	—	—	—	—	10YR6/1	黒・茶・白色粘土人。
14	平瓦 T 1	SX01	E6	伝馬部	14.0+	—	—	—	—	1.9	286.0	—	—	—	—	10YR6/1	黒・茶・白色粘土人。
15	平瓦 T 1	D66	E6d	伝馬部	34.0+	—	—	2.0	21.4+	6.5	1.9	1300.0	—	—	—	10YR6/1-10YR6/6	黒・茶・白色粘土人。底に有機物残人。
16	平瓦 T 1	E6d	—	伝馬部	30.0+	—	—	—	—	5.5+	—	—	—	—	—	10YR6/1-10YR6/6	黒・茶・白色粘土人。
17	平瓦 T 1	E6	—	伝馬部	19.3+	—	—	—	—	7.5+	—	—	—	—	—	5Y6/1-5Y2/1	黒・茶・白色粘土人。
18	平瓦 T 1	SX05	—	伝馬部	30.7+	18.2+	—	2.1	—	—	1044.6	—	—	—	—	10YR6/1-10YR6/6	黒・茶・白色粘土人。
19	平瓦 T 1	D66	E6d	伝馬部	20.5+	20.3+	—	—	—	1.8	61.2	—	—	—	—	2.5Y6/1-2.5Y2/2	黒・茶・白色粘土人。
20	平瓦 T 1	E6	—	伝馬部	17.0+	13.5+	—	2.3	—	—	847.5	—	—	—	—	7.5YR6/1	黒・茶・白色粘土人。
21	平瓦 T 1	E6d	—	伝馬部	19.5+	—	—	11.0+	—	—	661.0	—	—	—	—	5Y6/1	黒・茶・白色粘土人。
22	平瓦 T 1	E6c	—	伝馬部	14.0+	15.0+	—	1.7	—	—	534.0	—	—	—	—	5Y6/1	黒・茶・白色粘土人。
23	平瓦 T 1	E6	—	伝馬部	15.7	8.5	—	2.0	—	—	558.0	—	—	—	—	7.5YR6/6	黒・茶・白色粘土人。
24	平瓦 T 1	D66	—	伝馬部	12.0+	15.0+	—	2.2	—	—	684.0	—	—	—	—	5Y6/1	黒・茶・白色粘土人。
25	平瓦 T 1	SX07	—	中央(扉部欠)	9.0+	—	—	—	—	2.421	—	—	—	—	—	5Y6/1	黒・茶・白色粘土人。
26	平瓦 T 1	SX07	—	伝馬部	8.5+	6.0+	—	1.9	—	—	106.7	—	—	—	—	10YR6/3	黒・茶色粘土人。









種別 番号	分類	出土遺物 (写真名)	出土 状況・埋没	発見 場所 全体の保存割合	保存状況・法量 (cm・重量 (g))	高さ 長さ	厚さ 幅	重量	材質	用途・良好 度・不良	形状	凸凹調整	凹調整	土色	土色	出土 状況
98	平瓦 T	E6c	表土	広瀬部 1.6	130+ —	130+ —	—	590g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	白粉の土色調整 良好	黒土	黒色調整層
99	平瓦 T	E6e	表土	1.0部 1.0部	110+ —	—	97	861g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	N1/ N2	黒・灰色調整層	黒色調整層
100	平瓦 T	E6e	表土	1.0部	120+ —	—	153+	535g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	N5/ 底	黒・灰色調整層 白色粘土・ワグク層	黒・灰色調整層 白色粘土・ワグク層
101	平瓦 T	E6c	表土	1.8部	142+ —	—	95+	442g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	N5/ 底	黒・白色調整層	黒・白色調整層
102	平瓦 T	E6d	表土	1.8部	163+ —	—	26 31.1+	1900g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	2.5V166.6	黒・白色調整層 黒・白色調整層 赤褐色調整層 白色粘土・ワグク層	黒・白色調整層 黒・白色調整層 赤褐色調整層 白色粘土・ワグク層
103	平瓦 T	E6e	表土	4.5部	270+	167+	—	2500g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR68.8	黒・灰色調整層	黒・灰色調整層
104	平瓦 T	E6e	表土	1.6部	164+	15.8	—	954g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR47.1 灰白	黒・灰色調整層 ワグク層	黒・灰色調整層 ワグク層
105	平瓦 T	E6b	表土	1.5部 1.2部	101+	—	72	265.7g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.1 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
106	平瓦 T	E6d	表土	1.7部	172+	—	187+	301.1g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	N1/ 底	黒・白色調整層	黒・白色調整層
107	平瓦 T	E6d	表土	1.6部	172+	—	—	309.1g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR47.8 灰	黒・灰色調整層	黒・灰色調整層
108	平瓦 T	E6d	表土	1.7部	172+	—	—	309.1g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	2.5V7.1 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
109	平瓦 T	E6d	表土	1.5部 1.5部	115+	—	125+	325.5g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.1 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
110	平瓦 T	E6d	表土	1.5部 1.5部	115+	—	—	166.5g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	2.5V7.3 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
111	平瓦 T	E6e	表土	1.0部 1.0部	135+	13.5+	—	303.1g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
112	平瓦 T	E6e	表土	1.2部	132+	—	—	326.9g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	N7/ 底	黒・白色調整層	黒・白色調整層
113	平瓦 O	E6b	表土	1.2部	132+	—	—	245.2g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
114	平瓦 O	E6b	表土	1.2部	132+	—	—	245.2g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
115	平瓦 O	E6c	表土	1.5部	225+	22.5+	—	1348.5g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
116	平瓦 O	E6d	表土	1.4部	190+	83+	—	943.5g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
117	平瓦 O	E6e	表土	1.6部 1.6部	215+	—	—	699.0g	還元 軟	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
118	平瓦 O	E6e	表土	1.6部 1.6部	386	27.8 5.9 23	234	6.6 14	3650.0g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
119	平瓦 O	E6e	表土	1.2部	293+	34.3 8.8 3.5	—	3350.0g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
120	平瓦 O	E6d	表土	1.8部	142+	—	—	722.5g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層	黒・白色調整層
121	平瓦 O	E6d	表土	1.10部 1.10部	100+	10.0+	—	995.0g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層
122	平瓦 O	E6e	表土	1.3部	150+	28.7 8.2 2.9	—	3200.0g	還元 硬	粘土・灰 質	縁切・縁 切	縁切・縁 切	縁切・縁 切	10YR65.4 灰	黒・白色調整層 ワグク層	黒・白色調整層 ワグク層

種別(分類) 番号	出土遺物・グランド コンクリート (含む埋合)	出土 混合・埋合	存在 状態 全体の保存割合	残存状況・法量 (g)			形状	成色	凸部溝数	凹部溝数	製造 時期 推定 理由	土色 釉	動土			
				長さ	幅	厚										
123 平瓦 C	E5d	E5d	3.5	30.0	—	—	65+	—	1.2	128.0	釉化 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	凸部の色調優先 凸部の色調優先	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂混入
124 平瓦 O	E6	E6	1.15以下	14.4	—	—	84+	—	2.6	818.5	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
125 平瓦 C	E5d	E6	1.15以下	34.6+	23	7.3	27	—	—	2050.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
126 平瓦 C	不明	不明	1.2	27.5+	25.5	—	1.8	—	—	1428.5	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
127 平瓦 C	E5d	E5d	1.6	14.0+	—	—	20.5+	—	—	600.4	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
128 平瓦 C	E6	E6	1.2	14.5+	—	—	14.5+	—	—	732.0	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
129 平瓦 C	E6	E6	1.2	18.5+	—	—	13.6	—	—	1033.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・白色砂混入 黒・白色砂混入・チャート
130 平瓦 C	E6e	E6e	1.4	17.2+	—	—	—	—	—	608.5	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色・石膏・ チャート混入多量混入
131 平瓦 C	E6	E6	1.6	16.0+	—	—	8.0+	—	—	477.0	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
132 平瓦 C	E6	E6	1.15以下	15.0	7.0+	—	1.6	—	—	334.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
133 平瓦 C	E5c	E5c	1.12	13.0+	—	—	7.0+	—	—	240.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
134 平瓦 C	S007	S007	1.15以下	8.0+	6.5+	—	2.4	—	—	168.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色・石膏・ チャート混入多量混入
135 平瓦 C	E5d	E5d	1.4	12.2+	—	—	20.0+	—	—	680.0	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
136 平瓦 C	E6	E6	1.4	17.5+	—	—	12.3+	—	—	703.0	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
137 平瓦 C	E6	E6	1.4	18.2+	—	—	6.0+	—	—	994.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
138 平瓦 C	S006	S006	1.4	14.5+	—	—	12.2+	—	—	461.5	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
139 平瓦 C	E6	E6	1.6	12.2+	—	—	6.7+	—	—	273.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
140 平瓦 C	E6	E6	1.6	14.5+	—	—	9.5+	—	—	438.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
141 平瓦 C	S006	S006	1.2	8.4+	8.0+	—	1.9	—	—	198.7	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
142 平瓦 C	S001	S001	1.12	14.3+	11.3	—	2.6	—	—	567.5	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
143 平瓦 C	S005	S005	1.17	10.6+	—	—	1.9	—	—	449.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
144 平瓦	E6	E6	1.15以下	9.5+	8.0+	—	2.5	—	—	205.0	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
145 平瓦	S005	S005	1.15以下	3.3+	—	—	—	—	—	55.9	還元 軟	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入
146 平瓦	E5d	E5d	1.15以下	18.0	—	—	—	—	—	144.0	還元 硬	粘土層 埋合部	平白向き	平白向き	平白向き	黒・紫・灰・白色砂混入 黒・白色砂多量混入

第22表 道具観察表

母銭 番号	柄切 分組	出土遺跡/グランド	柄切部		柄切状況、法量 (mm)・重量 (g)			底面		底面形状	凸部形状	凹部形状	柄面 調整	柄面 調整	土色納	動土	特記事項
			位置部 幅	厚	最大 幅	最大 厚	位置部 厚	位置部 最大	位置部 最大								
1	柄切瓦 E6	左側柄切 1/1	442	36.4	20	—	1.8	2500	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N6 灰	黒・白色砂混入	
2	柄切瓦 E6	柄切・裏面1/1 Aトレンチ	301	22.3	18	—	1.8	1430	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N5 灰	黒・赤・白色砂混入	左側柄切部 の裏面
3	柄切瓦 E6	左側柄切部3 右側柄切部2	403+	15.0+	2.5	—	2.1	571.1	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N6 灰	黒・白色砂混入	柄切部
4	柄切瓦 E6	E6	138+	—	—	—	1.5	216	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	374/1 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部
5	柄切瓦 E5d	柄切部、裏面1/4、平瓦面1/4	207+	—	—	—	20	71	14	760	還元	粘土・灰 褐色	柄切部	柄切部	7576/1 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部
6	柄切瓦 E5d	1/1 正面部一部欠	192+	14.1	22	3.8	2.1	76.5	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	7576/1 灰	黒・白色砂混入	
7	柄切瓦 E5d	左側柄切・左側1/4 柄切部欠	148+	—	—	—	2.1	47.2	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N6 灰	黒・赤・白色砂混入	
8	柄切瓦 E6	右側柄切・右側 柄切部欠	239+	—	—	—	20	90+	20	271.0	還元	粘土・灰 褐色	柄切部	柄切部	N7 灰	黒・赤・白色砂混入	
9	柄切瓦 E5d	左側柄切部、右側 柄切部、背面欠	195+	—	—	—	22+	—	—	28	65.4	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	N3 灰	黒・赤・白色砂混入	
10	柄切瓦 E5d	柄切部 右側欠	118+	97+	1.7	—	1.5	48.7	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N5 灰	黒・赤・白色砂混入	
11	柄切瓦 E5d (裏半瓦)	左側柄切・右側 柄切部欠	246+	68+	1.7	7.8+	1.8	86.3	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N3~N6 灰	黒・赤・白色砂混入	
12	柄切瓦 E5d	右側柄切部 柄切部欠	108+	5.5	1.6	5.5	1.8	141.4	還元	不明	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N3 灰	黒・赤・白色砂混入	
13	柄切瓦 E5d	左側柄切部 柄切部欠	74+	10.6	1.6	9.1	1.7	174.8	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	100/1 灰	黒・赤・白色砂混入	
14	柄切瓦 E5d	左側柄切部・右側部 柄切部欠	176+	16+	2.1	182+	1.9	620.5	還元	粘土・灰 褐色	柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	7576/2 灰	黒・赤・白色砂混入	
15	柄切瓦 E6	平瓦2/3 右側部欠	397	12.1	14	7.0	1.2	1050.0	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	N1/ 灰	黒・白色砂混入	左側部 の裏面
16	柄切瓦 Aトレンチ	右側柄切・左側部破片 柄切部欠	82+	10.0+	20	9.5+	1.7	290.7	還元	粘土・灰 褐色	柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	577/2 灰	黒・赤・白色砂混入	
17	柄切瓦 E6	左側柄切・右側部破片 柄切部欠	108+	—	—	—	2.1	—	—	1.8	132.2	還元	柄切部	柄切部	576/6 灰	黒・赤・白色砂混入	
18	柄切瓦 E6	左側柄切・右側部破片 柄切部欠	90+	28+	20	7.0+	1.6	156.7	還元	粘土・灰 褐色	柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	737/3 灰	黒・赤・白色砂混入	
19	柄切瓦 E6d	左側柄切部・右側部 柄切部欠	197+	—	—	—	1.7	113.5+	2.1	460.5	還元	柄切部	柄切部	柄切部	N7/ 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部
20	柄切瓦 E65d	左側柄切部・右側部破片 柄切部欠	116+	—	—	—	1.5	7.2	1.8	214.5	還元	柄切部	柄切部	柄切部	N7/ 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部
21	柄切瓦 E6	左側柄切部 柄切部欠	108+	—	—	—	1.4	10.0	1.5	210.9	還元	柄切部	柄切部	柄切部	2577/3 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部
22	柄切瓦 E6	平瓦1/2 柄切部破片の背欠	252+	11.8	1.2	—	1.1	883.5	還元	粘土・灰 褐色	平片向き 柄切部	柄切部	柄切部	柄切部	2577/3 灰	黒・赤・白色砂混入	柄切部

## 第6章 遺物

第23表 鷓尾観象表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	地蔵	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
1	ASH18 SK01 E66	覆土1層	不明	5.6	5.4	2.3	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	ナズリ	へう状工具 によるナズ	灰黄褐色	
2	ASH18 瓦J01 E45c	葺a層	不明	6.7	3.3	4.6	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	へう状工具によるナズ	欠失により不明	灰黄褐色	
3	明科庵寺 第1-2次	-	構部	11.3	28.9	3.1	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	へう状工具によるナズ +へう状工具による止段 +整理上による円文の跡文 +へう状工具による半弧の確 支	へう状工具 によるナズ	灰黄褐色	金研4回-7 明科歴史 6304
4	板瓦古窯址	1号住居	胴部上方-頂部	18.6	15.3	7.8	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	縦方向のナズリ +骨柱	布目肌	灰褐色	金研2回-3 明科1998 2804%54
5	板瓦古窯址	1号灰草	胴部上方-頂部	15.9	21.2	6.8	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	工具によるV字状のナズ	工具によるナズ	灰黄褐色	金研3回-4 明科1998 未掲載
6	板瓦古窯址	1号灰草	胴部下方	18.1	10.8	2.6	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	工具によるナズ +竹管押圧による円文 +へう状工具による沈線	工具によるナズ	灰黄褐色	金研3回-5 明科1998 未掲載
7	板瓦古窯址	1号灰草	胴部-胴部右側面 平円形通し穴	32.3	34.0	34.4	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具によるナズ	工具によるナズ	灰黄褐色	金研4回-6 明科1998 写真

※ 法量は残存している部分を計測

第24表 鬼瓦観象表

No.	遺構等	層位等	種別	長* (cm)	幅* (cm)	厚* (cm)	地蔵	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
1	ASH18 瓦J01 E4b	葺a層	頂部	19.3	12.6	4.2	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し +面取+指頭圧痕	ナズ +指頭圧痕	灰黄褐色	金研鬼瓦2022 1304-33
2	ASH18 瓦J01 E4c	葺a層	目	13.1	12.1	5.9	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し	ナズ	灰褐色	金研鬼瓦2022 1304-34 取上%14
3	ASH18 瓦J01 E4d	葺a層	口-唇	11.6	10.1	3.1	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し	ナズ	灰褐色	金研鬼瓦2022 1304-35
4	ASH18 Aトレンチ	葺a層	傾下	6.6	4.5	3.4	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し +面取	ナズ	灰褐色	金研鬼瓦2022 1304-36
5	ASH18 瓦J01 E4e	葺a層	目	7.9	4.5	2.4	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し +面取	欠失により不明	灰褐色	金研鬼瓦2022 1304-37
6	ASH18 瓦J01 E3b	葺a層	傾	4.6	5.5	2.8	須忠質	やや不貞 (籠)	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し +工具ナズ	欠失により不明	灰褐色	
7	ASH18 SK07	覆土1	目	2.9	3.7	2.2	須忠質	硬質	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し	欠失により不明	灰色	
8	明科庵寺 第3次 C-4	(葺a層)	目	3.1	6.1	3.0	須忠質	硬質	粘土板	粘土継ぎ付 +工具による押出し	欠失により不明	灰色	明科2000a 3404-3

※ 法量は残存している部分を計測

第25表 土器類観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	括弧の特長			備考				
									外面	内面	底部					
													外面	内面	底部	
1	Eh5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	口縁～底部	12.6	実測	5.8	実測	3.8	定形	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	回転赤切(摩耗)	灯明皿 分析試料 01
2	Ea5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	口縁～ 底部下手	14.6	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
3	Eh5d Fa5d	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	口縁～ 底部上手	14.2	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
4	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	口縁～ 底部下手	11.6	復元	不明	—	2.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
5	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	口縁～ 底部上手	11.0	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
6	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～ 底部下手	11.4	復元	不明	—	2.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		
7	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～ 底部上手	11.2	復元	不明	—	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		
8	Ea5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	実測	12.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
9	Eh5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
10	Eh5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
11	Eh5d	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	実測	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
12	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.8	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
13	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	4.3	実測	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
14	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	6.2	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
15	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	6.0	復元	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
16	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	4.8	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
17	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	6.0	復元	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
18	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
19	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
20	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部下手～ 底部	不明	—	5.8	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
21	Ea5c Eb5c	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部上手～ 底部	不明	—	6.1	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
22	Eh5c Ea5d	Ⅱa層	土師器	坏A 灯明皿	底部上手～ 底部	不明	—	6.2	実測	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
23	障土	(Ⅱa層)	土師器	坏A 灯明皿	底部上手～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
24	Ea5c	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.6	復元	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
25	Eh5c	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
26	Eh5c	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
27	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.0	実測	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
28	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	6.4	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
29	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	実測	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
30	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
31	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
32	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
33	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
34	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.2	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
35	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.4	復元	1.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
36	Ea5d	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.9	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
37	AHレンテ	Ⅱa層	土師器	坏A	底部下手～ 底部	不明	—	5.1	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
38	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～底部	13.2	復元	7.8	復元	4.9	定形	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
39	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～ 底部下手	14.4	復元	不明	—	3.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
40	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～ 底部下手	13.4	復元	不明	—	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿
41	Eb6	Ⅱa層	土師器	坏A	口縁～ 底部下手	11.6	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		灯明皿

## 第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)			底径 (cm)			器高 (cm)			技法の特徴			備考	
						口径	復元	不明	口径	復元	不明	器高	残存	外面		底径			
														外面	内面				
42	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	128	復元	不明	—	26	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
43	Aトレンナ	Ⅱa層	土師器	埴 A	口縁～ 体部下半	130	復元	不明	復元	40	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
44	Ea5c	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下～ 底部	不明	—	6.6	復元	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
45	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	底部	不明	—	8.8	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
46	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	底部	不明	—	10.0	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
47	Aトレンナ	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	10.4	復元	2.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (糸切)					
48	Ea5c	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下～ 底部	不明	—	7.0	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (摩耗)					
49	Ea5c	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	7.6	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明 (糸切)					
50	Eb5d Ea5c	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	8.4	復元	1.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
51	Ea5c	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手 底部	不明	—	7.6	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り					
52	Ea5d	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	6.0	復元	1.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)					
53	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	3.2	復元	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)					
54	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	1.8	復元	—	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)				
55	Eb6	Ⅱa層	土師器	埴 A	体部下手～ 底部	不明	—	1.4	復元	—	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
56	鎌上	(Ⅱa層)	土師器	ⅡA 灯明皿	口縁～体部 下半	9.8	復元	不明	—	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				灯明皿	
57	Ea5c Ea5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 灯明皿	体部下手～ 底部	不明	—	4.6	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				灯明皿	
58	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	口縁～底部	13.0	実測	5.2	実測	4.5	完形	ロクロナデ	ロクロナデ+	回転糸切り					
59	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	口縁～底部	13.0	実測	3.8	実測	3.7	完形	ロクロナデ	ロクロナデ+	糸切の不明 (摩耗)				灯明皿	
60 口縁	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部下	13.2	復元	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)				灯明皿	
60 底部	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	体部下～ 底部	不明	—	5.0	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)				灯明皿	
61	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	12.4	実測	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	不明				灯明皿	
62	Eb5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	11.4	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	不明				灯明皿	
63	Eb5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	口縁～ 体部上半	11.0	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明				灯明皿	
64	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部上半～ 底部	不明	—	6.0	実測	4.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	回転糸切り					
65	Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	5.0	実測	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	糸切の不明 (摩耗)					
66	Ea5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	5.0	実測	0.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	回転糸切り					
67	Ea5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	5.2	実測	0.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	糸切の不明 (摩耗)					
68	Ea5d Ea5c	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	6.2	実測	0.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り					
69	Ea6 Ea5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	7.4	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り					
70	不明	(Ⅱa層)	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	5.6	復元	1.2	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)					
71	Eb6	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿	体部下手～ 底部	不明	—	6.4	復元	1.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切の不明 (摩耗)				灯明皿	
72	Eb5d Eb6	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A 灯明皿?	体部下手～ 底部	不明	—	6.6	実測	1.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				灯明皿	
73	Ea6	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	7.2	実測	1.8	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り					
74	Eb6	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	3.4	実測	2.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	回転糸切り					
75	Ea5d	Ⅱa層	土師器	ⅡA 黒色土器 A	体部下手～ 底部	不明	—	不明	—	1.5	残存	ロクロナデ	ロクロナデ+	回転糸切り					

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			備考			
									外面	内面	底部				
76	Eb6	Ⅱa層	土師器	甌A	脚部	不明	—	13.4	復元	5.2	残存	ロクロナテ ロクロナテ	ナナ?		
77	E5c	Ⅱa層	土師器	高外脚部 黒色土器	脚部	不明	—	不明	—	7.6	残存	ナナ	ナナ +シボ? + (黒色 幾 種)	ナナ? ミギキ?	(式蹟)
78	Eh5d	Ⅱa層	軟質の 須臾器	坏	体部下平~ 底器	不明	—	16.0	復元	1.5	残存	ロクロナテ+ 回転 ヘラケズ?	ロクロナテ	回転ヘラケズ?	蓋の可能 性あり 金属積層 あり
79	Eh5c	Ⅱa層	須臾器	坏蓋A	蓋部	不明	—	—	—	1.8	残存	ロクロナテ+ ヘラケズ?	ロクロナテ	—	
80	Eb	Ⅱa層	須臾器	坏蓋A	体部~口縁	9.0	復元	—	—	1.3	残存	ロクロナテ+ 不明 (ケズ?)	ロクロナテ+ 自然釉	—	
81	Ea5d	Ⅱa層	須臾器	坏蓋B	蓋部	12.0	復元	—	—	1.7	残存	ロクロナテ+ 回転 ヘラケズ?	ロクロナテ	—	
82	Ec5d	Ⅱa層	須臾器	坏蓋 (不明)	体部下平~ 底器	不明	—	8.4	復元	1.4	残存	ロクロナテ+ 回転 ヘラケズ?	ロクロナテ	—	
83	Eh5d	Ⅱa層	須臾器	脚/蓋 (特殊)	脚部/蓋部	12.8	復元	不明	復元	1.5	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	—	
84	Ec6	Ⅱa層	須臾器	脚/蓋 (特殊)	脚部/蓋部	17.6	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
85	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A 灯明皿	口縁~底部	14.1	復元	6.4	実測	3.9	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	軟質須臾 器灯明皿
86	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~底部	13.0	復元	6.4	実測	3.9	定形	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
87	Eb6	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~ 体部下平	14.2	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
87	Eb6 底部	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	復元	6.0	復元	1.3	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
88	Eb6 口縁	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~ 体部上半	14.6	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
88	Eb6 底部	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	6.0	実測	2.1	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
89	Ea5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~ 体部下平	13.8	復元	不明	—	3.2	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
90	Ea5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~ 体部下平	13.4	復元	不明	—	3.6	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
91	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A	口縁~ 体部上半	13.4	復元	不明	—	4.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	
92	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A 灯明皿	口縁~ 体部上半	14.8	復元	不明	—	2.1	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	軟質須臾 器灯明皿
93	Ec5d	Ⅱa層	須臾器	坏 灯明皿	口縁~底面	13.2	復元	8.0	復元	2.5	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	軟質須臾 器灯明皿
94	Eb6 E5c	Ⅱa層	須臾器	坏A 灯明皿	体部下平~ 底器	不明	—	7.4	実測	3.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転ヘラケズ? + 工具ナテ	灯明皿
95	Ec5c E5a-F6	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	4.0	実測	1.3	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転ヘラケズ?	
96	Ec5d	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	10.0	復元	1.4	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転ヘラケズ? + 工具ナテ	
97	Eh5d	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	4.6	復元	0.9	残存	ロクロナテ+ 回転 ヘラケズ?	ロクロナテ	回転ヘラケズ?	
98	Ea5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	6.3	復元	1.3	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切? +ヘラケズ? +ナテ	
99	Eh5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	5.8	復元	1.6	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	糸切不明 +ヘラケズ? +ナテ	
100	跡土	(Ⅱa層)	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	6.2	復元	1.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	静止糸切?	
101	Ea5a	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	5.6	実測	1.3	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
102	Eh5d	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	7.0	復元	1.1	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
103	Ea5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	6.6	復元	0.95	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
104	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	6.4	復元	1.2	定形	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
105	Eh5d	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	7.0	復元	1.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
106	Ec5c	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	4.4	復元	2.0	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
107	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏A	体部下平~ 底器	不明	—	4.8	復元	0.9	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転糸切?	
108	Eb6	Ⅱa層	須臾器	坏 (不明)	底部 (一部下平)	不明	—	5.0	実測	0.75	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	回転ヘラケズ?	
109	Ec6	Ⅱa層	須臾器	坏B	口縁~底面	17.6	復元	12.8	復元	7.6	定形	ロクロナテ	ロクロナテ	回転ナテ?	
110	Ec5d	Ⅱa層	須臾器	坏B	口縁~ 体部下平	15.0	復元	不明	—	2.5	残存	ロクロナテ	ロクロナテ	不明	

## 第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)			底径 (cm)			器高 (cm)			技法の特長			備考	
						口径	口径	口径	底径	底径	底径	器高	器高	器高	外面	内面	底部		
111	E6	Ⅱa層	須恵器	坏B	口縁～ 体部下半	13.0	復元	不明	—	2.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
112	E6b E6c E6d	Ⅱa層	須恵器	坏B	体部下半～ 底部	不明	—	8.8	復元	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	回転ヘラケズリ+	高台廻り付けの			
113	E6b	Ⅱa層	須恵器	坏B	体部下半～ 底部	不明	—	11.4	復元	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	回転糸切リ	+ナデ?			
114	E6b E6d	Ⅱa層	須恵器	坏B	体部下半～ 底部	不明	—	10.3	復元	2.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	回転ヘラケズリ+	高台廻り付けの			
115	E6bd E6c	Ⅱa層	須恵器	鉢B(はつ)	口縁～ 体部上半	22.8	復元	不明	—	7.3	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	(自然釉)				
116	E6b	Ⅱa層	須恵器	鉢B(はつ)	口縁～ 体部上半	20.4	復元	不明	—	2.7	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
117	E6c	Ⅱa層	須恵器	鉢B(はつ)	口縁～ 体部上半	20.8	復元	不明	—	1.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
118	E6d	Ⅱa層	須恵器	鉢B(はつ)	体部上半～ 下半	不明	—	不明	—	5.4	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
119	E6bd	Ⅱa層	須恵器	鉢C	体部下半～ 底縁、蓋縁	不明	—	8.4	実測	4.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	磨正糸切リ				
120	E6bc	Ⅱa層	灰釉陶器	碗A	口縁	13.6	復元	不明	—	2.0	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	灰釉				
121	E6b	Ⅱa層	灰釉陶器	碗A	口縁～ 体部下半	13.6	復元	不明	—	3.7	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	灰釉				
122	E6bd E6d	Ⅱa層	灰釉陶器	碗A	体部上半～ 体部下半	不明	—	不明	—	4.4	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	施釉	(ハヤ塗布)			
123	不明	Ⅱa層	灰釉陶器	碗A	体部	不明	—	不明	—	2.9	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	灰釉				
124	E6bd	Ⅱa層	灰釉陶器	碗A	体部下半～ 底縁	不明	—	不明	—	1.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
125	E6bd	Ⅱa層	土師器	羹A	体部下半～ 底部	不明	—	8.1	実測	4.5	残存	工具ナデ	工具ナデ	木裏直					
126	E6bd	Ⅱa層	土師器	羹A	体部下半～ 底部	不明	—	7.6	復元	3.3	残存	ナデ	ナデ	木裏直					
127	E6bd	Ⅱa層	土師器	羹A	体部下半～ 底部	不明	—	9.0	復元	4.1	残存	工具ナデ	工具ナデ	木裏直					
128	E6bd	Ⅱa層	土師器	羹A	底部	不明	—	8.2	復元	2.0	残存	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	木裏直					
129	E6c	Ⅱa層	土師器	小型羹A	体部下半～ 底部	不明	—	4.4	復元	2.5	残存	ナデ	ナデ	ナデ					
130	E6	Ⅱa層	須恵器	長筒甕	体部下半	不明	—	13.4	復元	2.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	(摩耗)				
131	Aトレンチ F6 E6bd E6c	Ⅱa層	須恵器	多口甕	口縁～ 体部上半	6.8 (小口)	復元	不明	—	12.5	残存	ロクロナデ +ヘラケズリ	ロクロナデ +自然釉	不明					
132	E6c	Ⅱa層	須恵器	甕(不明)	体部下半～ 底部	不明	—	9.6	復元	3.3	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	回転ヘラケズリ				
133	E6	Ⅱa層	須恵器	坏 模範転用 灯明具	体部上半～ 底部	不明	—	9.6	実測	8.3	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ?				模範から 灯明具へ 転用	
134	E6	Ⅱa層	須恵器	羹A	口縁～ 体部下半	29.0	復元	不明	復元	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
135	E6b E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	口縁～胴部	36.6	復元	不明	—	4.9	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
136	E6b	Ⅱa層	須恵器	羹A	胴部～ 体部上半	不明	—	不明	—	7.6	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
137	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部上半 (解)	不明	—	不明	—	2.0	残存	タタキ	ハケナデ	不明					
138	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	胴部～ 体部上半	不明	—	不明	—	3.0	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
139	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	胴部～ 体部上半	不明	—	不明	—	2.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					
140	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部	不明	—	不明	—	11.1	残存	タタキ +自然釉	当て具直	不明					
141	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部	不明	—	不明	—	7.9	残存	タタキ +工具ナデ	当て具直	不明					
142	E6b Aトレンチ	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部	不明	—	不明	—	12.7	残存	タタキ	ナデ	不明					
143	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部下半～ 底部	不明	—	15.2	復元	3.2	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	回転 (回転?) ヘラケズリ?				
144	不明	Ⅱa層	須恵器	羹A	体部下半～ 底部	不明	—	13.0	復元	7.4	残存	タタキナデ	横ナデ	ナデ					
145	E6bd	Ⅱa層	須恵器	羹A	胴部～ 体部上半	不明	—	不明	—	3.3	残存	ロクロナデ+	ロクロナデ+	不明	自然釉				羹D? 凸帯付四耳 甕
146	E6b E6d	Ⅱa層	須恵器	羹D 凸帯付四耳 甕	体部上半	不明	—	不明	—	4.7	残存	ナデ	ナデ	不明					
147	E6bd	Ⅱa層	須恵器	鉢A	口縁	30.0	復元	不明	—	3.1	残存	ロクロナデ	ロクロナデ	不明					



No.	遺構等	層位等	類別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特長			備考							
									外面	内面	底部								
148	SK01 (E6c)	覆土 6層	軟質の須恵器	皿 C	口縁～底部	15.5	復元	7.5	実測	3.7	完形	ワコナデ+ 回転(ヘラケズ)	ワコナデ ワコナデ 回転(ヘラケズ)	ワコナデ ワコナデ 不明	回転(ヘラケズ)	金属模倣			
149	SK01 (E6c)	覆土 6層	軟質の須恵器	皿 C	口縁～底部	18.1	復元	7.7	実測	4.1	完形	ワコナデ ワコナデ	ワコナデ ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣		
150	SK01 (E6d E6e)	覆土 6層	軟質の須恵器	杯	口縁～ 体部上半	—	不明	—	3.5	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣		
151	SK01 (E6d E6e)	覆土 6層	軟質の須恵器	杯	口縁～ 体部上半	不明	不明	—	3.2	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣		
152	SK1 (E6d)	覆土 6層	軟質の須恵器	杯	口縁～ 体部上半	不明	不明	—	4.0	4	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣		
153	SK1 (E6e)	覆土 6層	軟質の須恵器	杯	口縁～ 体部上半	不明	不明	—	3.1	4	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣		
154	SK01 (E6c)	覆土 6層	須恵器	羹	体部	不明	不明	—	5.1	残存	タタキ +ナデ	当て具直	不明	不明	不明	不明			
155	SK01 (E6c)	覆土 6層	須恵器	羹	体部	不明	不明	—	4.2	残存	タタキ	当て具直	不明	不明	不明	不明			
156	SK01 (E6d)	覆土 3層	軟質の須恵器	杯 A	口縁～底部	12.6	復元	7.2	実測	4.7	完形	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣	
157	SK01 (E6d E6e)	覆土 3層	軟質の須恵器	高杯	杯部下半～ 頸部上半	不明	不明	—	4.9	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ+	ワコナデ+	ワコナデ+	不明	金属模倣	
158	SK01 (E6d E6e)	覆土 3層	軟質の須恵器	鉢 (鉢c)	頸部～ 体部下半	不明	不明	—	11.7	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	不明	金属模倣?	
159	SK01 (E6e)	覆土 3層	須恵器	杯 B	口縁～底部	15.6	復元	8.6	復元	4.1	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	金属模倣	
160	SK01 (E6d)	覆土 3層	土師器	羹	体部下半～ 底部	不明	不明	—	5.8	復元	2.45	残存	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	不明	不明	不明	金属模倣
161	SK01	覆土 不明	土師器	細の瓶口	口縁～体部	7.0	復元	不明	—	5.4	残存	工具ナデ	工具ナデ	—	—	—	—		
162	SK01 (E6b)	覆土	土師器	杯 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	5.0	実測	0.8	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
163	SK01 (E6b)	覆土	土師器	杯 A 黒色土器 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	6.0	復元	1.0	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
164	SK01 (E6b)	覆土	土師器	杯 A 黒色土器 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	4.0	実測	1.0	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
165	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯蓋	蓋部	不明	不明	—	1.9	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	不明		
166	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯蓋	蓋部	14.8	復元	不明	—	1.3	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明		
167	SK01	覆土	須恵器	杯蓋	体部	不明	不明	—	1.5	残存	ワコナデ+	ワコナデ+	ワコナデ+	不明	不明	不明	不明		
168	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 A 灯明皿	体部上半～ 底部	不明	不明	—	6.8	復元	2.4	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	灯明皿
169	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	5.7	復元	1.1	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
170	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 A 灯明皿	体部下半～ 底部	不明	不明	—	5.8	復元	1.2	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	軟質 須恵器 灯明皿
171	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	口縁～ 体部下半	12.0	復元	不明	復元	2.3	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明		
172	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	口縁～ 体部下半	9.8	復元	不明	—	2.9	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明		
173	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	体部下半～ 底部	不明	不明	—	8.5	復元	1.3	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
174	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	体部下半～ 底部	不明	不明	—	8.0	復元	1.3	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
175	SK01 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	体部下半～ 底部	不明	不明	—	7.8	復元	1.6	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
176	SK01 (E6b-F6)	覆土	須恵器	杯 B	体部下半～ 底部	不明	不明	—	8.2	復元	1.2	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
177	SK01 (E6b-F6)	覆土	灰陶器	碗 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	7.6	復元	1.8	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
178	SK02 (F6)	覆土	土師器	小型羹	体部下半～ 底部	不明	不明	—	8.0	復元	2.0	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
179	SK05 (E6b)	覆土	土師器	杯 A 黒色土器 A	口縁～ 体部下半	15.0	復元	不明	—	5.0	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明		
180	SK05 (E6b)	覆土	土師器	杯 A 黒色土器 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	6.2	復元	1.6	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
181	SK05 (E6b)	覆土	土師器	杯 A 黒色土器 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	7.4	復元	1.4	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
182	SK05 (E6d)	覆土	須恵器	鉢 B(はつ)	口縁～体部	18.6	復元	不明	—	4.3	残存	ワコナデ+	ワコナデ+	ワコナデ+	不明	不明	不明		
183	SK05 (E6b)	覆土	須恵器	短須恵	体部下半～ 底部	不明	不明	—	6.4	復元	1.7	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
184	SK07 (E6b)	覆土	須恵器	杯 B	体部下半～ 底部	不明	不明	—	9.2	実測	1.8	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
185	南東深瀬	Ⅱ a- Ⅱ c 層	土師器	杯 A	体部上半～ 底部	不明	不明	—	6.4	復元	2.5	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
186	南東深瀬	Ⅱ a- Ⅱ c 層	土師器	杯 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	2.2	復元	1.2	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	
187	南東深瀬	Ⅱ a- Ⅱ c 層	土師器	杯 A	体部下半～ 底部	不明	不明	—	5.0	復元	1.1	残存	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	不明	不明	不明	

## 第6章 遺物

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特長			備考		
									外面	内面	底部			
188	南東深部	Ⅱa-Ⅱc層	土師器	環A 黒色土器A	体部下平～ 底部	不明	—	3.4	復元	1.0	残存	ロクロナデ ロクロナデ+ ミダキ +黒色焼酎	不明	
189	南東深部	Ⅱa-Ⅱc層	須恵器	壺	腹部	不明	—	不明	—	2.6	残存	ロクロナデ ロクロナデ	不明	
190	南東深部	Ⅱa-Ⅱc層	埴輪陶器	三羽向部 脱臼ノ 三足器	脚部	—	—	—	—	4.2	残存	土具ナデ +ヘラケツリ	—	金具三羽
1	板敷土器1	A-8西壁セクション	不明	軌首の須 恵器	高弁 脚部上手	不明	—	不明	—	3.7	残存	ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ (器ナデ摩滅)	金属模範 力	

第26表 瓦塔 第5次 (土師質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長 <sup>*</sup> (cm)	幅 <sup>*</sup> (cm)	厚 <sup>*</sup> (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
試掘1	Bトレンチ	検出	屋蓋部	6.4	5.8	丸瓦：1.4 平瓦：0.9	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋無 半蔵竹管状工具による 押し引き	垂本表現有、段有 へう状工具による 磨り出し (断面三角)	赤褐色	安部教委 3019a 4294-4
1	Ec 5c 原強区	Ⅱa層	基礎 初期の軸部 開口部	20.5	2.8	壱体：1.8 開口部：1.6 基礎：3.8	土師質	やや不良 (脱)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	開口部：角柱状に表現 壱体：へう状工具による 縦方向のナデ調整 基条：輪蓋状の表の 扉無、輪ずりの孔無、 底の無い筒状	へう状工具による 縦方向のナデ調整	赤褐色	
2	SK05 (Eb 6)	覆土 1層	屋蓋部	4.3	4.0	丸瓦：1.6 平瓦：1.0	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋有 半蔵竹管状工具による 押し引き	垂本表現有、段有 へう状工具による 磨り出し (断面三角)	暗赤褐色	
3	SK06 (Ed 6)	覆土 2層	屋蓋部 溝縁	7.0	5.5 溝縁：1.8	丸瓦：1.3 平瓦：0.9 溝縁：3.4	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	溝縁、丸瓦筋有 半蔵竹管状工具による 押し引き	溝蓋本表現有、段有 へう状工具による 磨り出し (断面三角)	赤褐色	
4	Ec 5c 原強区	Ⅱa層	屋蓋部 軸部	5.0	3.4 溝縁：1.0	壱体：0.8 溝縁：2.6	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	溝縁 へう状工具で切り出し した奥縁粘土を磨り 付け、工具による横方 向のナデ調整 工具によるナデ調整	溝蓋本表現有 へう状工具による 磨り出し調整無し	赤褐色	
5	F 6a	Ⅱa層	組物の一部か	2.8	5.3	壱体：0.8 組物：2.8	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	へう状工具で切り出し した奥縁粘土を磨り 付け、工具による横方 向のナデ調整	へう状工具による 縦方向のナデ調整	赤褐色	
6	Ec 6	Ⅱa層	組物の一部か	4.2	8.0	壱体：0.8 組物：2.9 組物：1.3	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	へう状工具で切り出し した奥縁粘土を磨り 付け、工具による横方 向のナデ調整	へう状工具による 縦方向のナデ調整	赤褐色	
7	Ec 5c 原強区	Ⅱa層	初期の軸部 軸部 開口部	6.7	8.5	壱体：1.3 開口部：1.7	土師質	やや不良 (脱)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	開口部：角柱状に表現 壱体：へう状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 縦方向のナデ調整	赤褐色	
8	Ec 5c 原強区	Ⅱa層	二層以上の 軸部 組物 (斗葺)	11.8	11.3	壱体：1.1 斗葺：3.7	土師質	やや不良 (脱)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	斗葺：底状粘土帯 壱体：へう状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 縦方向のナデ調整	赤褐色	
9	Ec 5c 原強区	Ⅱa層	基台か	1.2	6.0	1.2	土師質	硬	ナデ+面取り +ミダキ	ミダキ 溝に薄い面取り	縦面により不明 (空刷)	赤褐色	空部多含
板敷土器1	B-8 4-5 グリッド 1号原京	遺物 集積区	基台か	4.8	7.8	1.9	土師質	硬	ナデ+面取り +ミダキ	ミダキ 溝に面取り	ナデ (空刷)	赤褐色	空部多含

※ 法量は残存している部分を計測

第27表 瓦塔 第3次 (土師質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種別	長 <sup>*</sup> (cm)	幅 <sup>*</sup> (cm)	厚 <sup>*</sup> (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考	
									表	裏			
5	瓦筋01 C-4 グリッド	Ⅱa層	屋蓋部	6.1	3.4	丸瓦：1.7 平瓦：0.8	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋有 半蔵竹管状工具による 押し引き	垂本表現有、段有 へう状工具による 磨り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 3319-5
6	瓦筋01 C-4 グリッド	Ⅱa層	屋蓋部	5.1	4.1	丸瓦：1.6 平瓦：1.1	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋有 半蔵竹管状工具による 押し引き	垂本表現有、段有 へう状工具による 磨り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 3319-6
8	瓦筋01 C-4 グリッド	Ⅱa層	屋蓋部	3.9	3.3	丸瓦：1.4 平瓦：1.0	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋有 (摩耗強) 半蔵竹管状工具による 押し引き	垂本表現有、段有 (摩耗強) へう状工具による 磨り出し (断面三角)	暗赤褐色	明科教委 2000a 3319-8
9	PI1 C-4 グリッド	覆土	屋蓋部	4.3	2.6	丸瓦：1.0 平瓦：0.7	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋有 半蔵竹管状工具による 押し引き	溝蓋本表現有 へう状工具による 磨り出し調整無し	赤褐色	明科教委 2000a 3319-9
10	瓦筋01 C-4 グリッド	Ⅱa層- Ⅱb層 上層	屋蓋部	4.3	4.1	丸瓦：1.0 平瓦：0.8	土師質	やや不良 (脱)	粘土細貼付 +工具	丸瓦筋無 半蔵竹管状工具による 押し引き	溝蓋本表現有 へう状工具による 磨り出し調整無し	黄褐色	明科教委 2000a 3319-10
12	B-4-1 グリッド	—	二層以上の軸部 組物 (斗葺)	5.4	4.9	壱体：0.9 斗葺：2.8	土師質	やや不良 (脱)	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	斗葺：底状粘土帯 壱体：へう状工具による 縦方向のナデ調整	摩耗強 縦方向のナデ調整	赤褐色	明科教委 2000a 3319-12

※ 法量は残存している部分を計測

第28表 瓦塔 第1・2次 (須恵質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種類	長 <sup>*</sup> (cm)	幅 <sup>*</sup> (cm)	厚 <sup>*</sup> (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
64-1	明科焼寺 第1次	明科 石堂 昭和二十八年 一月	軸部 塼体	10.9	11.1	塼体:1.8 突起:2.9	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	工具によるナゲ調整 +角棒状粘土貼付 下部に四角状の凹凸	工具によるナゲ調整 屈曲	灰褐色	明科町史 6404-1
64-2	明科焼寺 第1・2次	明科 瓦	軸部 塼体	.86	13.8	塼体:1.9 突起:2.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	工具によるナゲ調整 +角棒状粘土貼付 上部に四角状の凹凸	工具による、ナゲ調整	灰褐色	明科町史 6404-2
64-3 (33-1)	明科焼寺 第1・2次 +第3次	明科石堂出土 昭和28瓦塔 No.3 B-4 No.7 B-4	屋蓋部 陶棟	14.9	43.0	丸瓦:3.3 平瓦:2.2 陶棟:5.1	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	角棒状粘土貼付 丸瓦列に節なし 平瓦表現あり	ヘラ状工具による ケズリ出しによる、 3段の溝巻表現 2段の巻本表現	灰褐色	明科町史 6404-3 3304-1
64-4	明科焼寺 第1・2次 (未掲載)	明科 石堂 昭和28瓦塔 C-3 Ⅱ a層	屋蓋部	11.3 +3.4	9.9	丸瓦:2.1 平瓦:1.8	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	棒状粘土貼付 丸瓦列に節なし 平瓦表現なし	巻本表現なし 木葉煎	灰褐色	明科町史 6404-4 3次未掲載
64-5	明科焼寺 第1・2次	石堂出土 昭和28瓦塔	屋蓋部 陶棟	12.1	15.3	丸瓦:2.2 平瓦:1.8 陶棟:3.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	棒状粘土貼付 陶棟表現 丸瓦列に節なし 平瓦表現なし	巻本表現なし 木葉煎	灰褐色	明科町史 6404-5
64-6	明科焼寺 第1次	明科石堂出土 A地区 一月瓦塔部分	基礎部	14.7	12.8	側溝:3.2 突起:2.4	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	粘土板貼付 +工具によるナゲ調整 鉄脚表現	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科町史 6404-6
64-7	明科焼寺 第1次	明科 石堂 昭和二十八年 (摩訶)	基礎部	13.3	13.5	塼体:3.5	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +工具	粘土板貼付 +工具によるナゲ調整	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科町史 6404-7

※ 法層は残存している部分を計測

第29表 瓦塔 第3次 (須恵質) 観察表

No.	遺構等	層位等	種類	長 <sup>*</sup> (cm)	幅 <sup>*</sup> (cm)	厚 <sup>*</sup> (cm)	焼成	成形	技法の特長		色調	備考
									表	裏		
34-1	第3次	C-4 No10 E-4 No75 E-4 No39	宝珠	16.6	直径20.6 の円形	3.6	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	工具によるナゲ調整 十字状に3段の裏子	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科2000a 3404-1
33-2	第3次	B-2 Ⅱ b層	軸部 斗拱	11.6	7.9	粘土板:2.2 粘土貼:1.9	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘土 貼付+工具	斗拱(組物)表現 空中粘土+凸スタンプ	調整痕	灰褐色	明科2000a 3304-2
33-3	第3次	C-4 Ⅱ a層, Ⅲ b層 上層	不明	5.3	3.9	1.8	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘土 貼付+工具	工具によるナゲ調整 側溝, 工具による弧状の 洗線	工具によるナゲ調整 +比喩 底部, 跡めに垂下	白灰色	明科2000a 3304-3
33-4	第3次	C-4 Ⅱ a層, Ⅲ b層 上層	軸部 塼体	3.9	4.1	1.3	須恵質 硬質	粘土板+ 工具	工具によるナゲ調整 窓の孔あり	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科2000a 3304-4
未掲載 -5	第3次	B-4 No18	軸部 塼体	6.8	6.7	塼体:1.7 粘土貼:2.9	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘土 貼付+工具	角棒状粘土 角棒状粘土貼付 +工具によるナゲ調整	工具によるナゲ調整 屈曲	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -6	第3次	B-4 No29	屋蓋部	4.4	5.0	丸瓦:2.5 平瓦:1.8	須恵質 硬質	粘土板の 繋ぎ合わせ +角棒状粘土 貼付+工具	棒状粘土貼付 丸瓦列に節なし 平瓦表現あり 軒丸欠損	ヘラ状工具による ケズリ出しによる、 段のある巻本表現	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -7	第3次	C-4 Ⅱ a層	屋蓋部 陶棟か 軸部 塼体か	7.5	3.6	塼体:1.5 粘土貼:1.9	須恵質 硬質	粘土板+ 角棒状粘土 貼付+工具	棒状粘土貼付 溝棟状の突起 側溝, 工具によるナゲ 調整	工具による ナゲ調整+弧状のナゲ 突起	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -8	第3次	B-4-8	軸部 塼体	6.4	4.8	1.8	須恵質 硬質	粘土板+ 工具	工具によるナゲ調整 +突起+上部に粘土貼付 側溝	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -9	第3次	B-4-14 No 74	軸部 塼体の 一部か 柱状	6.7	2.0	1.8	須恵質 硬質	角棒状粘土 貼付+工具	角棒状粘土貼付 側溝, 工具によるナゲ 調整	工具によるナゲ調整 +調整痕	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -10	第3次	B-4 Ⅱ b層	軸部 塼体の 一部か	5.4	20.0	2.3	須恵質 硬質	角棒状粘土 貼付+工具	角棒状粘土貼付 側溝, 工具による弧状の 洗線	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -11	第3次	C-4 Ⅱ a層	軸部 塼体の 一部か	2.7	3.5	1.7	須恵質 硬質	粘土板+ 工具	工具によるナゲ調整	工具によるナゲ調整	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -12	第3次	C-4-7 Ⅱ a層	屋蓋部 丸瓦	4.2	1.1	0.7	須恵質 硬質	棒状粘土貼付 +工具	棒状粘土貼付 丸瓦列に節なし	調整痕	灰褐色	明科2000a 未掲載
未掲載 -13	第3次	C-4 Ⅱ a層	屋蓋部 丸瓦	3.4	1.2	0.7	須恵質 硬質	棒状粘土貼付 +工具	棒状粘土貼付 丸瓦列に節なし	調整痕	灰褐色	明科2000a 未掲載

※ 法層は残存している部分を計測

## 第6章 遺物

第30表 金属製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	材質	最大長 (cm)	完/残	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	—	Ⅲ a層	刀子茎か	鉄	3.3	残	0.8	0.6	2.7
2	SK06	覆土2層	釘	鉄	14.2	完	1.2	1.1	43.8
3	Ec6	Ⅲ a層	釘	鉄	15.0	完	1.0	0.9	21.4
4	Ea6	Ⅲ a層	釘	鉄	7.7	完	0.6	0.8	11.6
5	Ec6	Ⅲ a層	釘	鉄	7.7	残	0.8	0.6	7.8
6	Ec6a	Ⅲ b層	釘	鉄	6.0	残	0.8	0.8	7.4
7	Eb6 (SK05)	Ⅲ b層	釘	鉄	4.9	残	1.1	1	10
8	SK05	覆土1層	籠か	鉄	15.3	残	1.5	1.3	72.3
9	SP01	覆土3層	不明	鉄	4.2	残	1.4	0.1	3.3
試掘1	試掘 Bトレンチ	検出	釘	鉄	8.2	完	0.8	0.5	5.0

第31表 石製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	石材	最大長 (cm)	完/残	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	Ec5d	Ⅲ a層	打製石斧	ホルンフェルス	6.7	残	5.7	1.8	71.0
2	Ec5d	Ⅲ a層	打製石斧	砂岩	20.4	完	9.5	4.9	1262.0

第32表 不明土製品観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	最大径			技法の特長			備考 色調			
						最大径 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	外面	内面	底部				
1	SK01 Ed6	覆土1層	土師質	不明	不明	3.6	残存	4.4	残存	1.6	残存	粘土細貼付 + 工具ナデ	工具ナデ	—	粘土帯 灰黄褐色
2	Eb5d	Ⅲ a層	須恵質	不明	不明	6.0	残存	6.7	残存	4.6	残存	粘土板貼付 + 工具ナデ	工具ナデ	—	突起部 灰黄褐色
3	Eb6	Ⅲ a層	土師質	不明	不明	13.8	残存	14.4	残存	1.3	残存	ナデ	ナデ	—	明褐色

## 第7章 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代（AMS測定）

株式会社加速器分析研究所

#### （1）測定対象試料

長野県安曇野市に所在する明科遺跡群明科廃寺（第5次発掘調査）の測定対象試料は、土器付着炭化物1点と炭化材3点の合計4点である（第35表）。土器付着炭化物（試料01）は、土師器坏の体部内部の付着物を採取した。なお、炭化材3点については同一試料の樹種同定が実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

#### （2）化学処理工程

- ① メス、ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- ② 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と第33表に記載する。
- ③ 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を発生させる。
- ④ 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- ⑤ 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- ⑥ グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### （3）測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）、<sup>11</sup>C濃度（<sup>11</sup>C/<sup>12</sup>C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### （4）算出方法

- ① δ<sup>13</sup>Cは、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第33表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- ② <sup>14</sup>C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。<sup>14</sup>C年代はδ<sup>13</sup>Cによって同位体効果を補正する必要がある。

補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34表に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- ③ pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい( $^{14}\text{C}$ が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第33表に、補正していない値を参考値として第34表に示した。
- ④ 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma=68.3\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma=95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線及び較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線(Reimer et al. 2020)を用い、OxCalv4.4較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## (5) 測定結果

測定結果を第33、34表に示す。

試料4点の $^{14}\text{C}$ 年代は、 $1460 \pm 20\text{yrBP}$ (試料04)から $1160 \pm 20\text{yrBP}$ (試料01)の間にある。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、最も古い試料04が591~640cal ADの範囲、最も新しい試料01が776~956cal ADの間に4つの範囲で示される。基本層序第Ⅲa層から出土した土器付着炭化物試料01と炭化材試料02は、おおむね近い値を示した。また、これら2点と基本層序第Ⅳ層出土の炭化材試料04との前後関係も層位の上下関係に整合する。

炭化材試料の炭素含有率はいずれも70%を超える十分な値であった。土器付着炭化物試料01は、採取する際に胎土の混入を避けることができず、炭素含有率が17%という低い値となった。このため、試料01については測定された炭素の由来に注意を要する。

第33表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-201576	試料01	グリット : Eb 5 c 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲa層 現場No : 115	土器付着炭化物	AaA	-28.72 ± 0.22	1,160 ± 20	86.59 ± 0.25
IAAA-201577	試料02	グリット : Ec 5 c 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲa層 現場No : 炭サンプル No.3	炭化材	AAA	-25.92 ± 0.21	1,210 ± 20	85.99 ± 0.25
IAAA-201578	試料03	グリット : Ec 5 d 遺構、層位 : SX01覆土第6層 現場No : 炭サンプル No.1	炭化材	AAA	-26.13 ± 0.19	1,430 ± 20	83.66 ± 0.24
IAAA-201579	試料04	グリット : Ea 5 d 遺構、層位 : 基本層序第Ⅲc層 現場No : 炭サンプル No.2	炭化材	AAA	-25.59 ± 0.21	1,460 ± 20	83.36 ± 0.25

[IAA 登録番号 : #A494]

第34表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-201576	1,220 ± 20	85.93 ± 0.25	1,156 ± 24	776calAD - 786calAD (7.6%) 832calAD - 851calAD (10.8%) 875calAD - 898calAD (20.5%) 920calAD - 956calAD (29.3%)	773calAD - 789calAD (9.8%) 823calAD - 977calAD (85.7%)
IAAA-201577	1,230 ± 20	85.83 ± 0.25	1,212 ± 23	786calAD - 832calAD (44.8%) 849calAD - 876calAD (23.5%)	708calAD - 723calAD (3.8%) 772calAD - 886calAD (91.6%)
IAAA-201578	1,450 ± 20	83.46 ± 0.23	1,433 ± 22	606calAD - 628calAD (45.4%) 634calAD - 645calAD (22.9%)	595calAD - 654calAD (95.4%)
IAAA-201579	1,470 ± 20	83.26 ± 0.25	1,462 ± 24	591calAD - 640calAD (68.3%)	571calAD - 646calAD (95.4%)

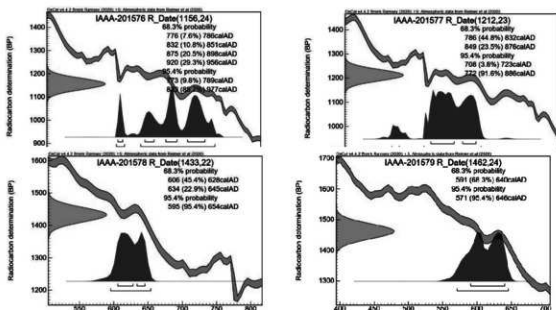
[ 参考値 ]

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal BP), *Radiocarbon* 62 (4), 725–757

Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19 (3), 355–363



第230図 暦年較正年代グラフ (参考)

## 2 樹種同定

### (1) 試料

長野県安曇野市に所在する明科遺跡群明科廃寺（第5次発掘調査）の試料は炭化材3点である（第35表）。なお、これらの同一試料を対象に放射性炭素年代測定が実施されている（別稿年代測定報告参照）。

### (2) 分析方法

試料を割り折りして新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の断面を作製し、落射顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって50～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴及び現生標本との対比によって行った。

### (3) 結果

第35表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版1に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

- ・コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

年輪のはじめに大型の道管が1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

- ・マツ属複雑維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxyylon* マツ科



仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道がみられる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

・ニレ属 *Ulmus* ニレ科

年輪のはじめに中型から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、1～5細胞幅ぐらいである。

第35表 明科遺跡群明科廃寺における樹種同定結果

試料名	採取場所	樹種
試料02	グリット：Ec 5 c 遺構、層位：基本層序第Ⅲa層 現場No：炭サンプルNo 3	コナラ属コナラ節
試料03	グリット：Ec 5 d 遺構、層位：SX01覆土第6層 現場No：炭サンプルNo 1	マツ属複維管束亜属
試料04	グリット：Ea 5 d 遺構、層位：基本層序第Ⅲc層 現場No：炭サンプルNo 2	ニレ属

#### (4) 考察

同定の結果、明科遺跡群明科廃寺の炭化材は、マツ属複維管束亜属1点、コナラ属コナラ節1点、ニレ属1点であった。

マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。ニレ属にはハルニレ、オヒョウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。

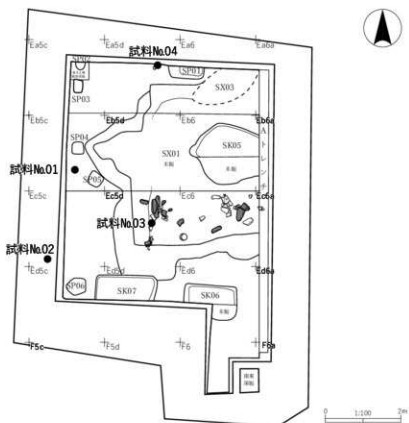
マツ属複維管束亜属は、木理はやや通直で、重硬で水湿によく耐え腐りにくい材である。杭の他に建築部材の中でも水湿の影響がある柱、礎板などに用いられる。コナラ属コナラ節は強靱で弾力に富み、建築部材としても用いられる木材である。長野県では柱や杭の利用例が多い。ニレ属のうち、ハルニレは重硬、オヒョウは強さ中庸で、アキニレはあまり強い材とは言えない。また、切削性や寸法安定性は不良で、色艶は冴えない。しかし、木目がケヤキに似るため、その代用材として容器や家具の部材として利用されることがある。また薪炭材として見た場合、アカマツ（マツ属複維管束亜属）は、火持ちは悪いが火力は強く、中世頃から窯業でよく用いられている。ナラ類（コナラ属コナラ節）は火持ちの良い薪炭材として現在は最も重宝される。そしてハルニレ（ニレ属）は、火力は弱いがいすでは火起こしに利用されるほど着火性が高く、火持ちがとても良い材である。

同定されたいずれの樹種も温帯に分布する樹木であった。マツ属複維管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがあり、生態的にアカマツ

であると考えられる。コナラ属コナラ節は陽当たりの良い山野に生育し、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。ニレ属はハルニレとオヒョウは山地に、アキニレは水辺等に生育する。いずれの樹木も当時遺跡周辺や近隣地域に分布し、遺跡周辺からか、流通によって近隣地域よりもたらされたと推定される。

#### 引用、参考文献

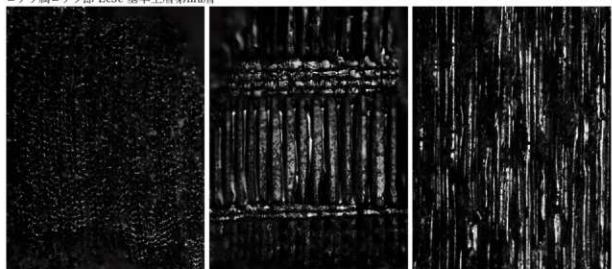
- 伊東隆夫、山田昌久（2012）木の考古学、雄山閣、p.449。  
 佐伯浩、原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、pp.20-48。  
 佐伯浩、原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、pp.49-100。  
 島地謙、伊東隆夫（1982）図説木材組織、地球社、p.176。  
 島地謙、伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296。  
 山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.242。



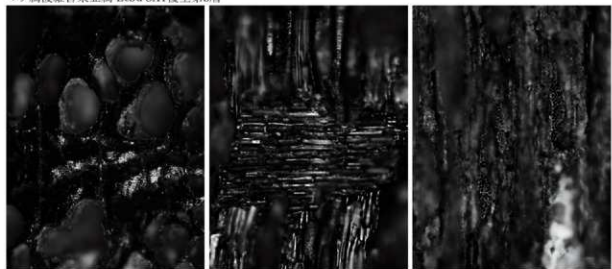
第231図 分析試料出土地点



横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm  
 コナラ属コナラ節 Ec5c 基本土層第IIIa層



横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm  
 マツ属複雑管束亜属 Ec5d SX1 覆土第3層



横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm  
 ニレ属 Ea5d 基本土層第IV層

第232図 炭化材の顕微鏡写真



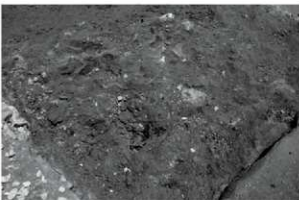
試料№01 Eb5c グリッド 第IIIa層 (南から)



試料№01 Eb5c グリッド 第IIIa層 (真上から、第213図1)



試料№02 Ec5c グリッド 第IIIa層 (南から)



試料№02 Ec5c グリッド 第IIIa層 (南西から)



試料№03 SX01 Ec5d グリッド 第6層 (南から)



試料№03 SX01 Ec5d グリッド 第6層 (南から)



SP01 断面 (南から)



試料№04 Ea5d グリッド 北壁 第IIIc層 (南から)

第233図 分析試料出土地点写真

## 第8章 調査の総括

明科庵寺第5次発掘調査では、個人住宅建設に伴い、面積40㎡の発掘調査を実施した。この調査の結果、瓦等の集積（瓦溜1）1か所、不明遺構（SX01、SX03）2か所、土坑7基（SK01～07）、ピット6基（SP01～06）を確認し、明科庵寺の時代の変遷を知る上で貴重な成果が得られた。

### 1 瓦

瓦の分類と出土状況から、明科庵寺との関係をまとめる。

明科庵寺の規模は、一辺約75m四方とすると、5,625㎡となる。本調査区は、この推定範囲の北西寄りに位置し、調査面積は40㎡で、全体の僅か1/140程度である。古代瓦はこの狭小範囲にある瓦溜を中心に出土した。総重量は約2.1tにおよび、信濃国分寺を除く県内の寺院では例のない数量であった。更にこの古代瓦には、軒丸瓦255点、軒平瓦146点のほか鴟尾、鬼瓦等の道具瓦が含まれ、地方古代寺院の様相を解明する数多くの情報をもたらした。

軒丸瓦は、12種類の瓦当文様が確認され、範型を含め13種類に分類した。従来の出土資料に今回の資料が加わったことによって、文様構成や成形法が補足され、分類を再整理することができた。更に、第一型式第2類が明科庵寺で最も古い段階となる型式であることを、出土層位によってより可能性が高まった。以下、軒丸瓦型式とそれに伴う瓦の変遷について3段階に区分してまとめとする。

軒丸瓦の型式変遷は、瓦当文様、成形技法分類と出土量、出土状況から大きく3つの画期が設定され、最終段階を3つの小画期として区分した。1段階は、第一型式第1・2類、2段階は第二型式1・2類、3段階は第三型式、第一型式第3・4・5類、第四型式第1・2・3類、第五型式となる。3段階は、文様構成と成形、接着法からi：第三型式と第一型式第4類、ii：第一型式第3・5類と第四型式、iii：第五型式という違いが見える。

第一型式第2類は、SX01第6層内から丸瓦と平瓦とともに出土した。SX01第6層では第一型式第2類以外に出土しなかったことから、最も古い段階の瓦として位置づけたい。第一型式第1類も文様構成、縦型一本づくり成形であることから、この2種類が1段階となる。この段階の丸瓦は、厚さ1.8cm以上、全長35cmほどの粘土板桶巻づくりの無段式である。丸瓦凸面は、平行叩きによって調整され、最終的にナデによって磨り消されている。側縁部は、凹面側に均一な面取り処理するものが少数あるが、大半は切断したままの形態である。平瓦は、端部内径25～26cm、全長35cm程度の台形状で、粘土板桶巻づくり、凸面は叩き目をヨコナデで磨り消している。側縁部は面取処理せず切断したままの形態となる。この形態が創建期の丸瓦と平瓦（＝SX01タイプ）である。軒平瓦は、SX01からの出土がなく形態は不明である。ただ、三重弧文軒平瓦の顎部形態C類の弧文施文と凸面の最終調整が丁家であることから同時期の可能性があると考えられる。

第二型式第1類は、調査区で最も多く出土した軒丸瓦であり、明科庵寺出土の全ての軒丸瓦の50%以上を占めている。第二型式は、径16～19cmで、第一型式1・2類の径13～16cmに比べると大型となり、瓦当面との接合方法は、接着式である。第一型式第1・2類と全く異なる系譜をもつ大型の軒丸瓦が生産されたことは、寺院造営が新たな段階に入ったことを示唆している。この第二型式は、現時点で系譜をたどることができず、明科庵寺独特の瓦当文様となっている。今後、類似する瓦を探りたい。この瓦

当と接着される丸瓦には、粘土帯を用いた成形技法（粘土帯巻桶巻づくり）が用いられ、凸面に綾杉叩き調整痕として残っているものが出現する。平瓦にも同様に粘土帯巻桶巻づくりと綾杉叩きがあり、同じ段階に共通する成形、調整法と考えられる。また、これらの丸瓦と平瓦は、側縁部に面取りする形態が多い。第二型式の出現する段階は、粘土帯巻桶巻づくりと綾杉叩きを用いる段階と捉えられる。瓦の胎土は、粗粒砂が少量混入し、軟質焼成で色調が褐色を帯びる瓦が多く、有段式丸瓦にも共通する要素でもある。軒平瓦は、綾杉叩き痕がある四重弧文、三重弧文である。

3段階は、成形技法と文様構成から3つに細分した。i：ホール形状の瓦当裏面に半円形の丸瓦を粘土によって接合する（接着式3）成形技法となる第三型式と第一型式第4類、ii：木型を用いずに、粘土紐の巻き上げによって円筒形をつくる一本づくり成形技法となる第一型式第3・5類、第四型式、iii：iiと同じ成形技法で、文様が直線と円による単純な幾何学文様となる第五型式である。

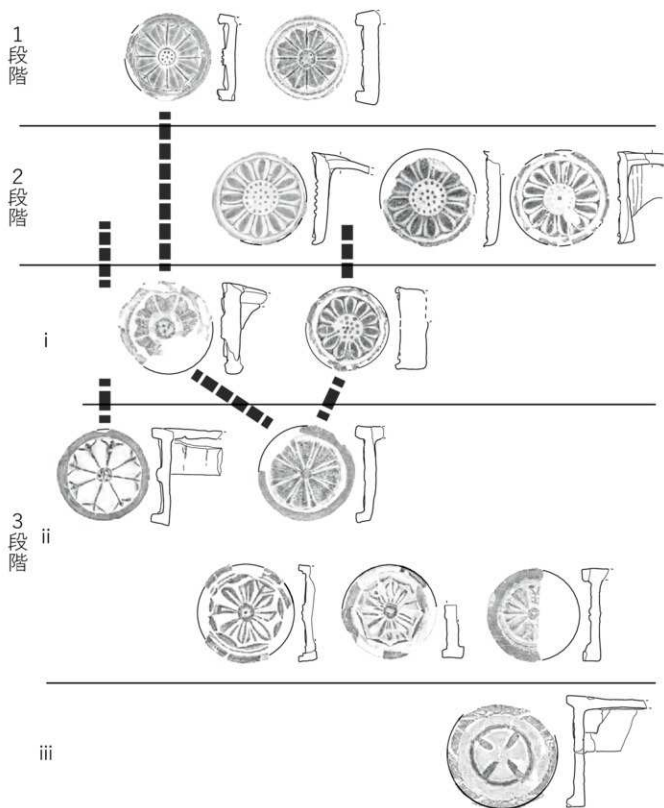
第三型式は、第二型式と同じ意匠であるが、内区の花弁、蓮子数を変えて文様を異にし、第二型式の法量を小型化している。第一型式第4類は、中房を高くし、花卉中央が凹む第一型式1・2類に類似する文様構成である。両者ともに内区文様が外縁より盛り上がる点が共通する。第一型式第4類は、板仮古窯址から2点出土していることから、2段階に続く型式と考えた。

第一型式第3・5類と第四型式第3類は、外区形状が同一で、胎土に粗砂が多く混入し瓦当表面のざらつきが著しい点が共通している。また、第一型式第5類と第四型式第3類の中房形状が同一であることから同じ系譜をもつ軒丸瓦の一群とした。第四型式第1・2類は内区外縁の文様構成と複雑な幾何学文様が共通する。蓮華文の意匠を残し、伝統的な成形技法を残す段階として捉えた。このi、ii段階の丸瓦は、前段階より小さく薄くなったと推測される。第五型式は、文様構成、成形技法、胎土ともに全てが他の型式と異なり、系譜が異なる。ただ、明科庵寺第3次発掘調査でも出土していることから、数量は少ないが一定数用いられた瓦と考えられる。

軒丸瓦の変遷を明科庵寺の変遷期と重ねると、1段階を創建期、2段階を修造期①、3段階を修造期②と位置付けることができる。軒丸瓦の型式別変遷と丸瓦と平瓦の変遷の概要を第36表にまとめた。

第36表 瓦の変遷概要

軒丸瓦		軒平瓦	丸瓦	平瓦	調整、胎土
1 創建 段階期	第一型式第2類 第一型式第3類 縦置き型一本づくり	三重弧文 額部C類	無段 粘土板桶巻づくり 側縁部面取なし	粘土板桶巻づくり 側縁部面取なし 一枚づくり	ナデ 平行叩き 縄目叩き 緻密粘土、白色粘土 ブロック混入少
2 修造 段階期 ①	第二型式第1類 第二型式第2類 接着式1、2	三重弧文 四重弧文 額部A、B類	無段、有段 粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸面側部面	粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 一枚づくり 凸面側部面取 凹凸側縁部面取	平行叩き 綾杉叩き 縄目叩き 格子叩き ナデ 黒、白色粗砂、 マール状白色粘土混 入増加
3 段階 修造期 ②	① 第三型式 第一型式第4類 接着式3	三重弧文 額部A、B類	無段、有段 粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸面側部面	粘土板桶巻づくり 粘土帯桶巻づくり 凹凸側縁部面取	平行叩き 綾杉叩き 縄目叩き
	② 第一型式第3類 第一型式第5類 第四型式第3類 第四型式第1・2類 一本づくり2				
	③ 第五型式 一本づくり2		粘土紐マキアゲ	黒、茶粗砂混入増加 離れ砂 ロクロナデ	



第234図 軒九瓦の変遷模式図

## 2 SX01 (地鎮)

第5章で詳述したように、SX01は人為的に掘下げた範囲、もしくは窪地状の自然地形を人為的に埋め戻した上で、三和土状の土層により整地している遺構である。

SX01からは、寺域整備に伴うと思われる整地層と、その下層から地鎮の可能性のある遺構が検出された。以下、SX01の性格について簡単に触れておきたい。

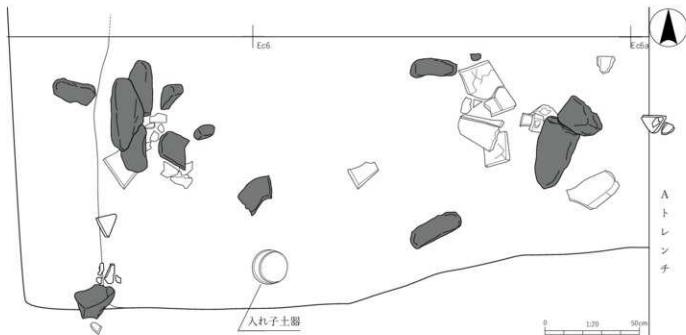
SX01は、廃絶期のものと思われる瓦溜01の下層にあることから、寺域の整備に伴うものと考えられる。これまでの発掘調査では明科廃寺の年代的な変遷が分かっていないが、今回のSX01調査により寺域の変遷の一端を把握できたことは大きな成果と考える。

覆土中からは多量の瓦が出土しているが、創建期の瓦である第一型式第2類の軒丸瓦とそれに伴う形態の丸瓦と平瓦で占められており、他の時期の瓦がみられないことが注目される。

覆土中からは、1期に帰属する土師器、須恵器及び軟質の須恵器が出土している。

明科廃寺の創建は7世紀末であり、出土遺物の年代がこれに近接していることからSX01の年代的な位置づけが問題となる。創建時に不要となった瓦等を用いて埋め戻した可能性も否定できないが、ここでは創建時より後の時代の寺域の整備に伴うものとして考えておきたい。

出土遺物としては、入れ子状の軟質の須恵器が遺構底面から出土している点が注目される(第235図)。入れ子状という出土状態から、意図的に置かれたものと考えられ、地鎮に伴うものであった可能性が指摘できる。



第235図 SX01入れ子土器出土状況

地鎮遺構の類例についてここで見ておきたい。

埋納を行う地鎮遺構の初見は、藤原宮ふじのらのみやにみられる。藤原宮大極殿院たいごくでんいんと藤原宮横大路よこおほみちから地鎮遺構が検出されている(青木敬氏の教示による)。藤原宮大極殿院では、大極殿院南面西回廊内にあたる土坑

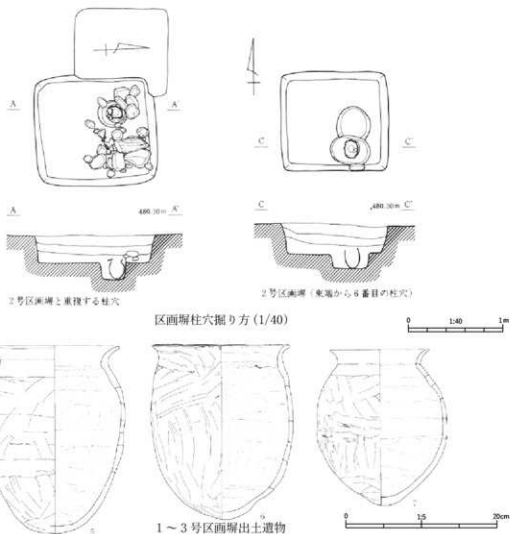


SX10713に、富本銭と水晶を納めた須恵器平瓶が置かれていた(奈文研2008)。藤原宮横大路では、路面上の土坑SK02から、土坑の底面近くに広葉樹の葉の痕が残り、土師器鍋、円形曲物、複弁八葉蓮華文の軒丸瓦(飛鳥寺XⅦ型式)がほぼ重なった状態で出土した(今尾1993、2008)。

文献からも、2度にわたり藤原宮で地鎮が執り行われたことが分かっており(『日本書紀』持統5年(691)10月甲子条、持統6年(692)5月丁亥条)、発掘調査成果とも一致している。律令国家が直接地鎮を執り行っている貴重な事例といえるが、この地鎮が藤原宮全体なのか、大極殿などの建物の地鎮なのかは検討を必要とする(奈文研2008)。

寺院内の建物に伴う地鎮遺構の類例は、興福寺<sup>こうふくじ</sup>、東大寺<sup>とうだいじ</sup>、元興寺<sup>げんこうじ</sup>、法華寺<sup>ほっけじ</sup>、坂田寺<sup>さかたでら</sup>、川原寺<sup>かわはらでら</sup>、豊浦寺<sup>とよのうら</sup>などが挙げられる。その出土状況から、塔や基壇、堂などの特定の建物に伴う地鎮遺構であり、8世紀中期頃の地鎮にあたる(奈文研1986、上村1999、興福寺2002、森2013)と考えられる。

寺域の地鎮の類例としては、法隆寺<sup>ほりゅうじ</sup>が挙げられる(法隆寺1980、森2013)。法隆寺では、昭和57年(1982)に行われた発掘調査により、土坑SK3600より地鎮遺構が確認された。前述の寺院のように地鎮遺構の上に建物跡がないため、西院伽藍造営時の整地の際に行った地鎮遺構とされる。土師器碗Cの中に和



第236図 杉崎廃寺地鎮遺構と地鎮具

同間席と金箔を置き、別の土師器椀Cで蓋をした状態で出土した。年代は、土師器椀Cと「法隆寺からんもんきんぱんぎにきよさくせいりょうの伽藍縁起併流記資料帳」などから、天平19年(749)より以前であることが分かっている(法隆寺1983)。

地方の古代寺院の地鎮の類例は少ないが、明科廃寺と関係性がうかがわれる飛騨の杉崎廃寺から地鎮遺構が確認されている(古川町教委1998)。伽藍域と僧房域を仕切る区画塀である掘立柱南北塀の二つの柱穴から甕が3点出土しており、地鎮遺構とされているが、(第236図)明科廃寺と同様、銅銭や水晶などの地鎮具の出土はみられない。杉崎廃寺の地鎮遺構は、確定的な施設ではない区画塀からの出土であるため、地鎮が寺域なのか、区画するどちらかの建物の地鎮なのか検討を必要とするが、第1期の掘立柱建物を切っていることから、第2期以降の区画施設と考えられ、地方の古代寺院において、寺院で地鎮が執り行われていたことを示す重要な類例である。

以上をまとめると、地鎮という行為が、7世紀末には出現し、寺院に関係する地鎮が8世紀中期以降にみられることがわかる。このことから、明科廃寺でも奈良時代に、地鎮が執り行われていた可能性が考えられる。SX01については、建物の遺構が見つかっていないため、寺域の地鎮の遺構の可能性が高いと思われる。ただ、これまでの調査では明科廃寺の寺域は明確になっておらず(第237図)、SX01周辺についても、寺域としての位置づけを今後の調査の中で明らかにしていく必要がある。



第237図 明科廃寺区画推定範囲

### 3 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具

明科座寺で灯明具がまとまって出土したのは、今回が初めてである。

瓦溜01（第Ⅲa層）出土土器には灯明具が35点と多く出土しており、全体の23%を占める。図化した灯明具の種別組成を第37表、器種組成を第38表に示したが、主に土師器及び黑色土器Aの坏が用いられている。

種別組成では、土師器が65.7%（23点）、黑色土器が20.0%（7点）を占める。器種組成では、土師器坏Aが60.0%（21点）、黑色土器A坏Aが20.0%（7点）である。器種ごとに灯明具の割合を見ると、土師器坏Aは37点（1～37）中21点（1～5、8～23 56.7%）、土師器皿Aが2点のうち2点（56、57 100%）、黑色土器A坏Aが15点（58～72）中7点（59～63、71、72 46.7%）となっている。また、坏状の器種が灯明具として使用され、碗状の器種には使用されておらず、須恵器の灯明具への使用は、軟質須恵器か、破損した後、受け皿としての二次使用に限られている。

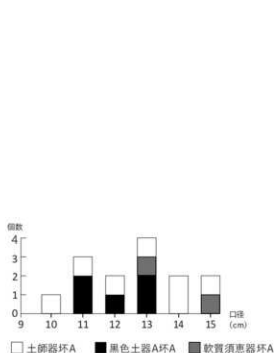
図化した35点のうち、口径が確認できる灯明具は、14点（1～5、56、59～63、85、92、93）と少なく、底径を確認できる資料は、25点である（1、8～23、57、59、

第37表 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具種別組成

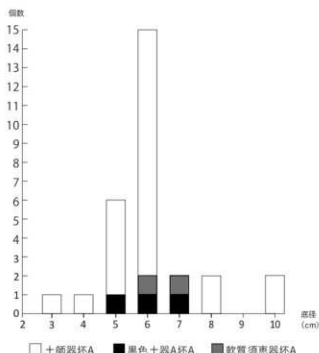
種別	点数	割合
土師器	23	65.7%
黑色土器A	7	20.0%
須恵器	2	5.7%
軟質須恵器	3	8.6%
総計	35	100.0%

第38表 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具器種組成

種別、器種	点数	割合
土師器坏A	21	60.0%
土師器皿A	2	5.7%
黑色土器A坏A	7	20.0%
須恵器坏A	1	2.9%
軟質須恵器坏A	3	8.6%
須恵器横瓶	1	2.9%
総計	35	100.0%



第238図 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具 口径

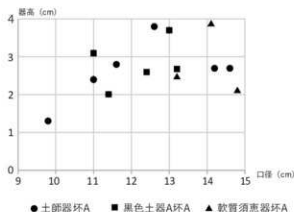


第239図 瓦溜01（第Ⅲa層）灯明具 底径

60、71、72、85、94、133)。底部の破片が多いが、これは、灯明皿として使用された場合、底部付近に煤が付着し、灯明具として認識されやすいことによるものと思われる。

口径は、土師器坏Aが5点(1~5)で11.0~14.6cm(平均12.8cm)、黑色土器A坏Aが5点(59~63)で11.0~13.2cm(平均12.2cm)、土師器皿Aが1点(56)で9.8cm、軟質須恵器坏Aが3点(85、92、93)で13.2~14.8cm(平均14.0cm)に分布する(第238図)。底部は、5.0~6.5cmに分布している(第239図)。

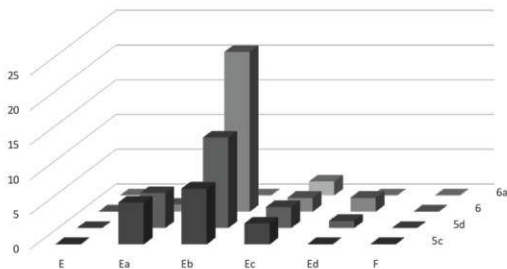
灯明具のうち、器高の確認ができた資料は土師器坏A、黑色土器A坏A、質須恵器坏Aの各1点、合計3点(1、59、85)のみで、1の土師器坏Aは3.8cm、59の黑色土器A坏Aは3.7cm、85の軟質須恵器坏Aは3.9cmを測る。口径、器高(残存含む)を確認できた14点を第240図に示した。



第240図 瓦溜01(第Ⅲa層)灯明具口径、器高分布図

瓦溜01(第Ⅲa層)出土の口径の確認できた土師器坏Aの7点(1~7)の分布範囲は、「小平1990」によると8~9期に収まる。黑色土器

A坏Aも、口径の確認できる黑色土器A坏Aの5点(59~63)の法量は、法量分化した6~8期の小型品に該当すると考えられる。土師器皿Aとした2点(56、57)の灯明具は、8~9期に収まる土師器坏Aの可能性が高い。軟質須恵器坏Aとした85、92、93は、7期に出現し8期に消滅する軟質須恵器の特長を持つ須恵器であり、口径の法量も7~8期の範囲内に分布する。94の須恵器坏Aは、底部に回転ヘラケズリを施す須恵器坏Aで、2~3期に比定されるが、割れ口付近に煤が付着していることから、破損後に灯明具の受け皿として転用されたものと思われる。133の須恵器横瓶も、1~8期に比定されるが、割れ口付近に煤が付着しているため灯明具として再利用され、煤の形状から灯明皿を重ねるための受け皿として転用されたと思われる。これらの特長から、瓦溜01(第Ⅲa層)から出土した灯明具は、8期に比定される。



第241図 瓦溜01(第Ⅲa層)灯明具出土位置分布図

灯明具の出土場所は、Eb6～Eb5cグリッドにかけて集中的に出土していることから、灯明会で灯明具として使用された後、一括して廃棄された可能性も指摘できる（第241図）。

## 4 成果と課題

今回の明科廃寺第5次発掘調査では、明科廃寺の時期的変遷を知る上で貴重な成果が得られた。

遺構に基づいて明科廃寺の創建期、修造期、廃絶期について述べてみたい。

### (1) 明科廃寺の創建期

明科廃寺第二型式第1類①の軒丸瓦は、桜坂古窯址と同范である。桜坂古窯址は、操業は7世紀後半から8世紀初頭とされ、明科廃寺と瀬古墳群とほぼ同時期の窯である（明科町教委1998）。修造期の瓦である第二型式第1類①の年代を桜坂古窯址の操業年代と考えた場合、創建期の第一型式第1・2類の時期は、7世紀後半に遡る可能性があるが、瓦を製作した窯が発見されておらず、今後の検討を要する。

### (2) 明科廃寺の修造

明科廃寺では、これまでの発掘調査により、何度か建物を建て替えた跡が確認されており（明科町教委2000a）（第11図）、修造期の瓦や修復瓦も出土している。今回の調査でも、8世紀前半から中期にかけての鉢や須恵器多口壺、三彩陶器の脚部、播鉢、盤などの仏具も出土しており、創建期後の寺院活用を確認することができた。

また、8世紀後葉の須恵質の瓦塔と9世紀前半の土師質の瓦塔の出土から、9世紀前半までは寺院としての機能が存続していた可能性が高い。

### (3) 寺院造営の全国的動向

寺院造営の流れについて簡単に触れておく。

『日本書紀』推古32年（624）9月甲戌条によると、この時期、全国に寺院は46か所存在したとする。まだ地方寺院の造営は少なかつたと思われる（三舟2003、梶原2017）。

『日本書紀』大化元年（645）8月癸卯条によると、孝徳天皇により仏教の興隆の詔が出され、評家の私寺として地方寺院の造営が開始される（三舟2020、荒井2017）。

天武天皇14年（685）3月壬申に「詔、諸国毎家、作仏舎、乃置仏像及経、以礼拝供養。」の詔が出され、全国に寺院造営を推奨する。

律令体制が整い、郡衙が成立する持統6年（692）には、『扶桑略記』持統6年（692）9月条によれば、全国に545か所の寺院が存在していたとする。この数は、全国の発掘調査からみても妥当な数だとされている（三舟2003、梶原2017）。

明科廃寺の創建時期は、出土遺物から7世紀末から8世紀初頭にあたる。全国的動向をみても大きな違いはない。地方寺院の修造期は、奈良時代の寺院合併令や国分寺建立の詔により、改築や修復が行われていく（梶原2017）。この時期から、寺院は法会の施行を中心として継続的な維持が図られるようになることとされる（梶原2017、荒井2017、藤本2020）。明科廃寺も9世紀前半まで維持されている。

### (4) 明科廃寺に関係した氏族

明科廃寺の創建に関わった氏族は、遺物などから、明科廃寺の造営と同時期の古墳である、瀬古墳群





調査地遠景（北から）



調査区遠景（北から）



調査地遠景（東から）



調査区遠景（東から）

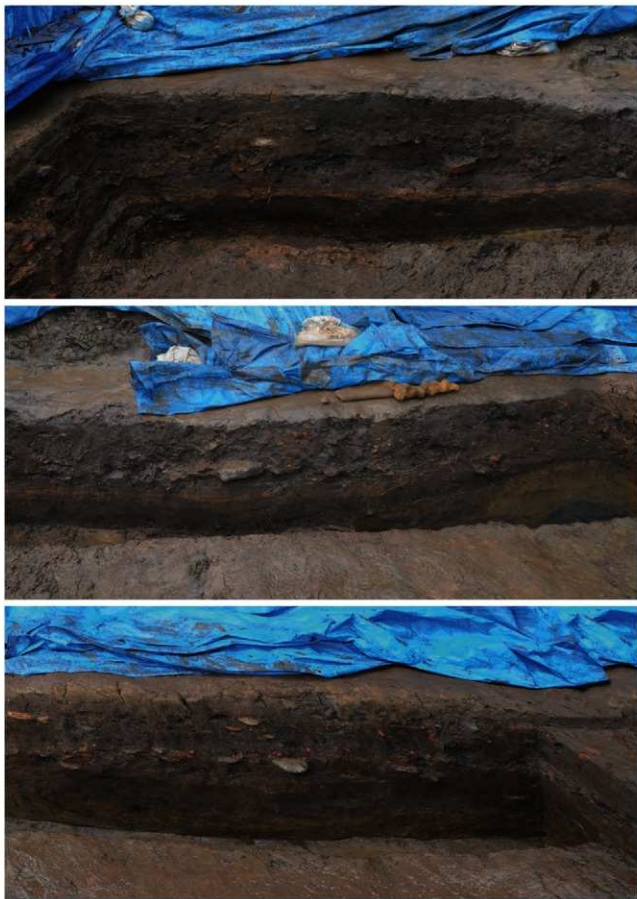




SX01遺物出土状況（東から）



SX01完掘（南から）



調査区東壁土層（西から）



調査前（北から）



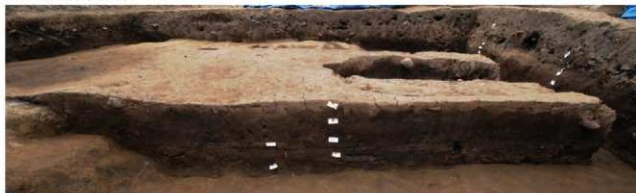
調査区西壁基本土層（東から）



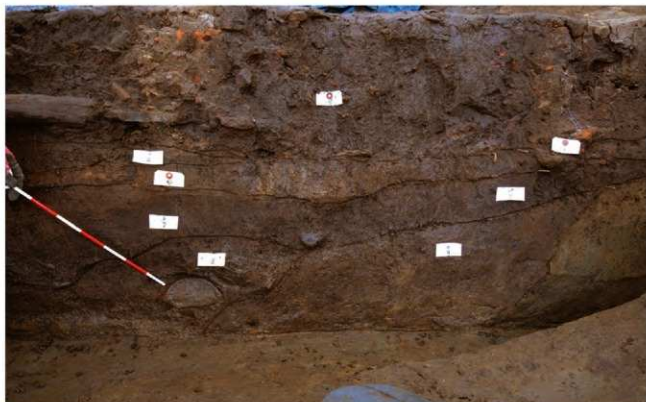
調査区西壁土層（東から）



SX01 北区断面（北から）



SX01 南区断面（南から）



SX01 東壁断面 第6・7層 (西から)



SK01・02・03・04 断面 (東から)



SK05 断面 (北から)



SK05 完掘 (西から)



SX03 北壁断面 (南西から)



SX03 完掘 (西から)



SK01・06 断面 (北から)



SK06 完掘 (北から)



SK07 断面 (北から)



SK07 完掘 (南から)



SP01 断面 (南から)



SP01 完掘 (北から)





第一型第1類 (1)



第一型第2類 (22)



第一型第2類 (15)



第一型第2類 (18)



第一型第2式類 (13)



第一型第3類 (31)



第一型式第 4 類 (41)



第一型式第 5 類 (44)



第二型式第 1 類①(52)



第二型式第 1 類①(55)

第二型式第 1 類②(99)



第二型式第2類 (134)



第三型式 (156)



第四型式第1類 (171)



第四型式第2類 (176)





第四型式第3類 (186)



第五型式 (188)



軒九瓦 第二型式第1類①(51) / 四重弧文軒平瓦 (1)



軒九瓦 第二型式第1類①(52) / 三重弧文軒平瓦 (7)



軒九瓦 第二型式第1類①(50)



SX01 出土瓦



SX01 軒丸瓦 第一型式第 2 類



SX01 平瓦



丸瓦



平瓦

丸瓦・平瓦調整痕



綾杉叩き (太)



綾杉叩き (細)



格子叩き



罫目叩き (太)



罫目叩き (細)



平行叩き (太)



平行叩き (細)



叩き板工具痕



罫目叩き (斜位)



ケズリ



ナデ 1



ナデ 2

丸瓦・平瓦成形



粘土帯繋ぎ痕



粘土帯繋ぎ痕 指ナデ

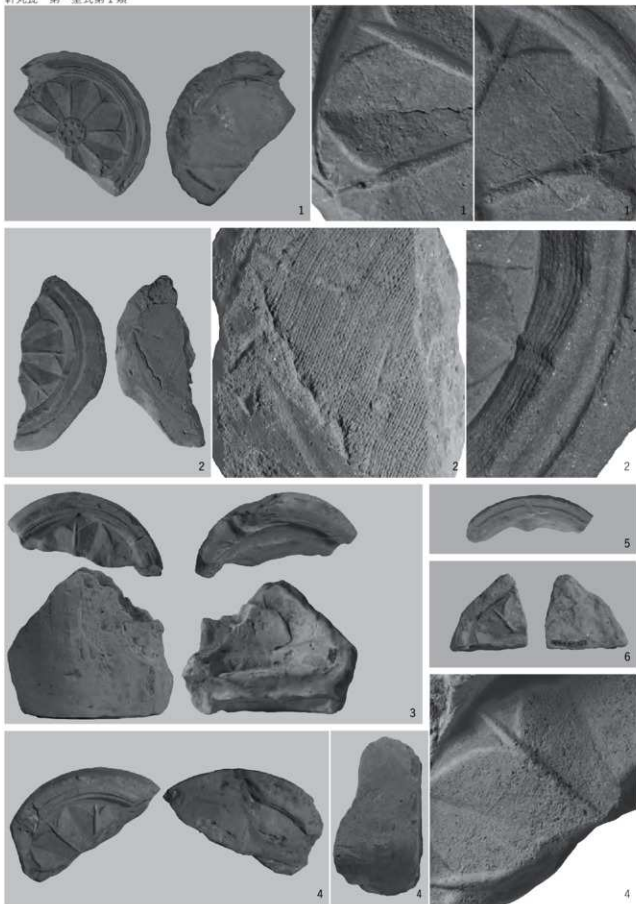


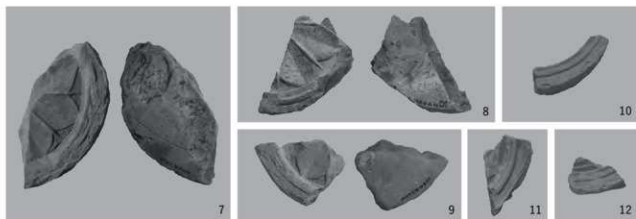
粘土板繋ぎ痕 1



粘土板繋ぎ痕 2

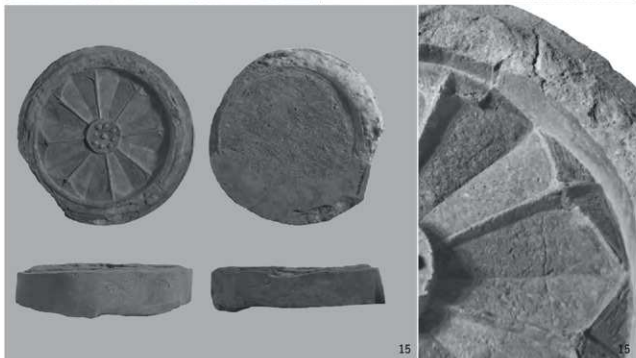
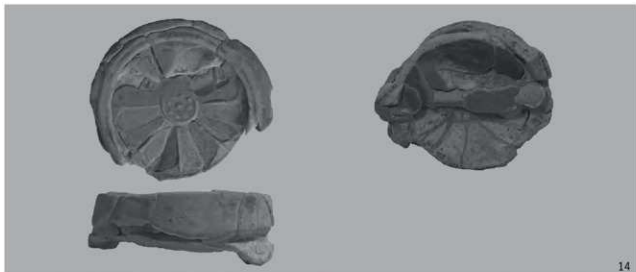
軒九瓦 第一型式第1類

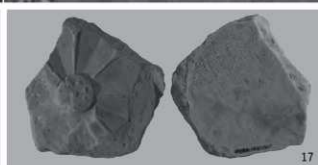
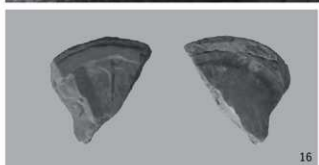
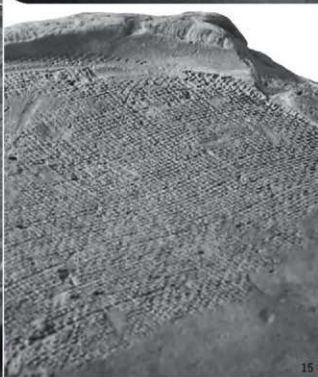


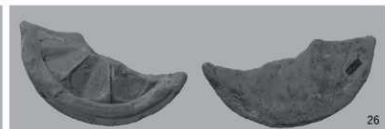
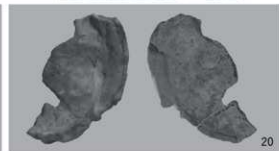
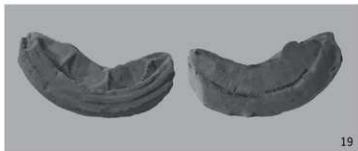
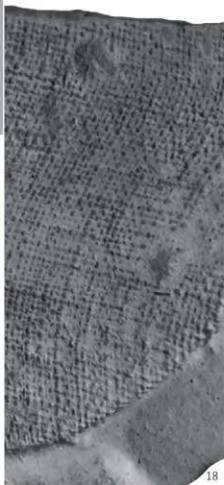
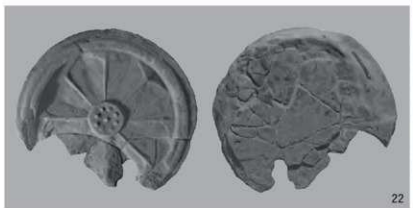
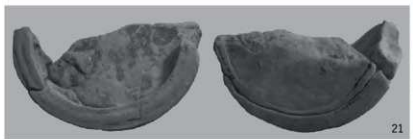


軒九瓦 第一型式第2類



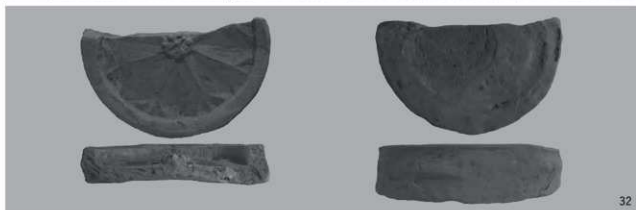


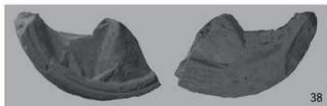
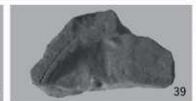
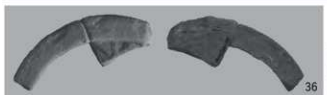
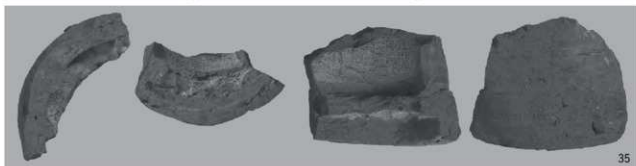
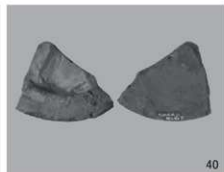






軒九瓦 第一型式第3類

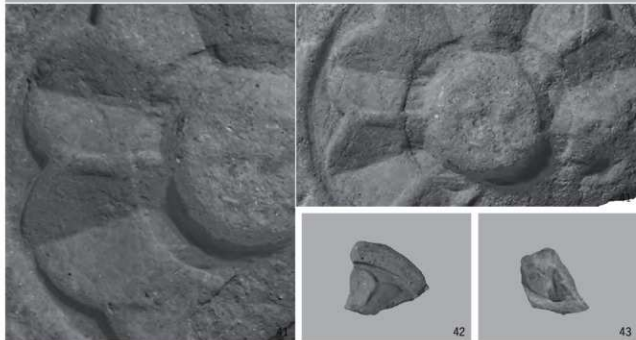




軒丸瓦 第一型式第 4 類



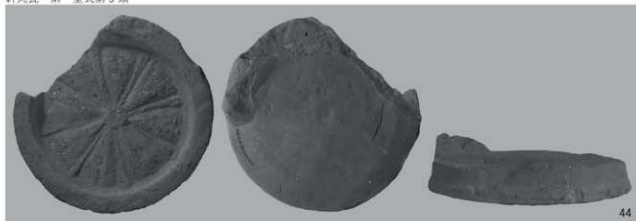
41



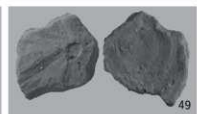
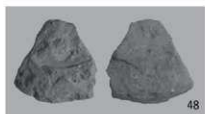
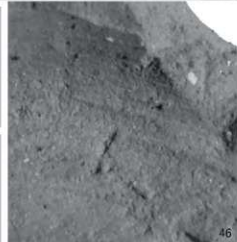
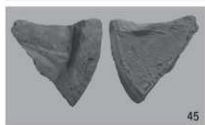
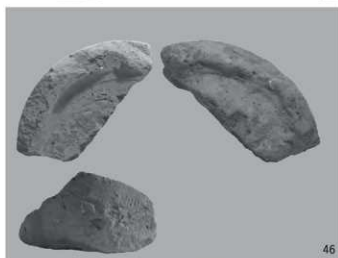
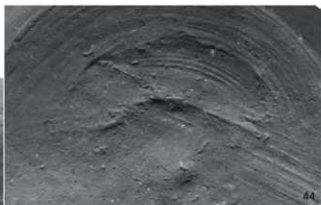
42

43

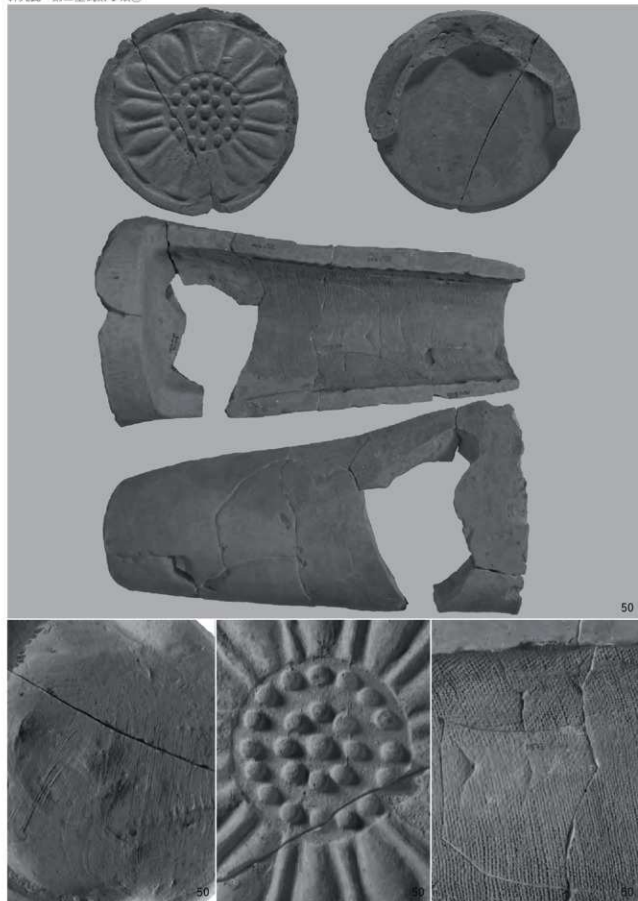
軒丸瓦 第一型式第 5 類



44



軒瓦 第二型式第1類①



50

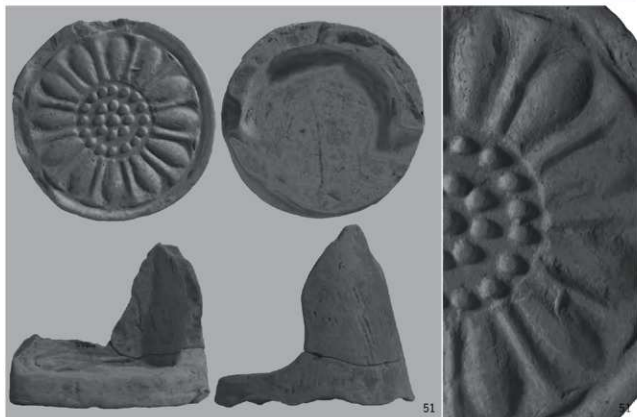
50

50

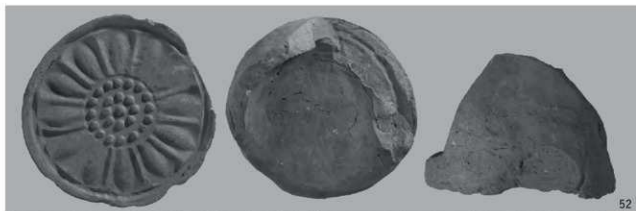
50



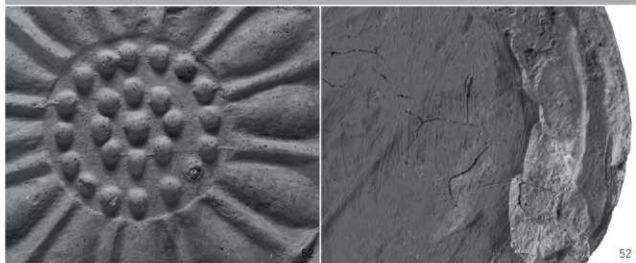
50



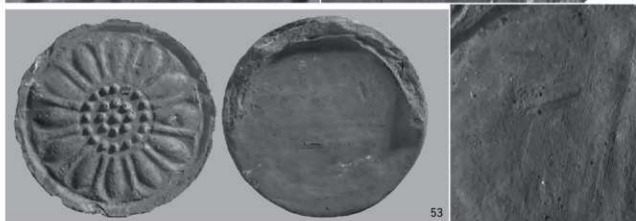
51



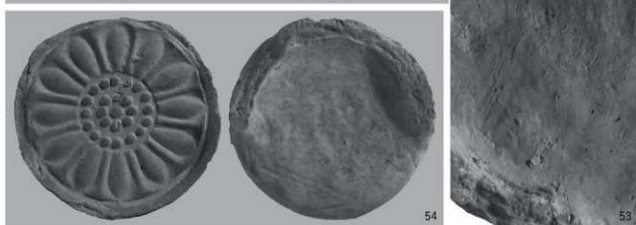
52



52



53



54

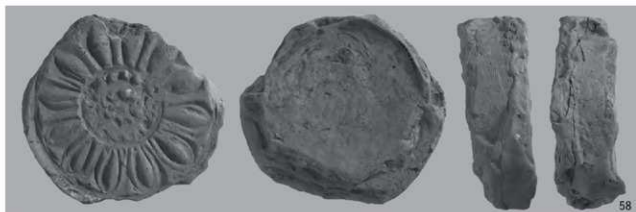
53







57



58



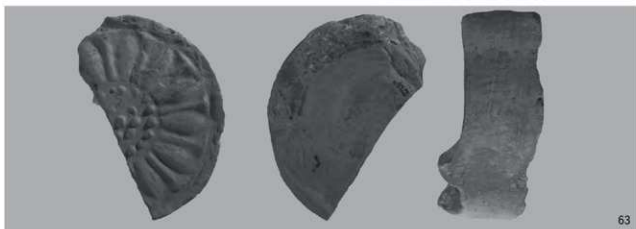
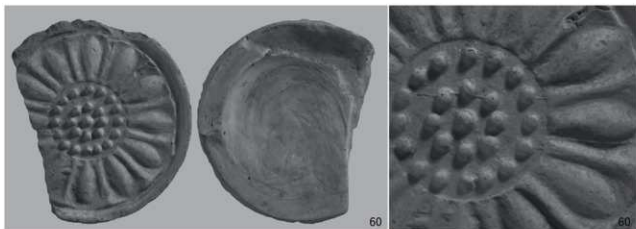
58

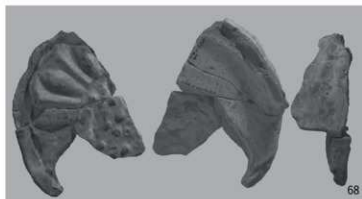
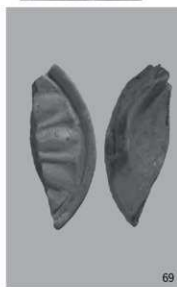
58

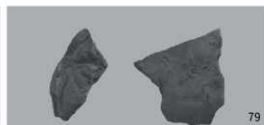
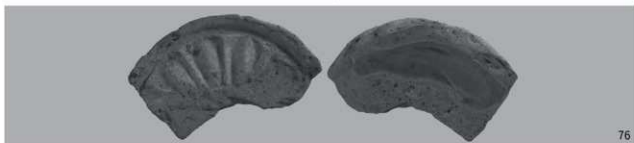
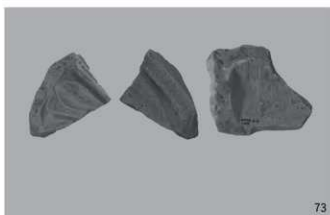
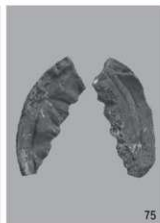
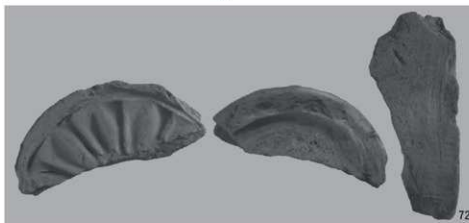
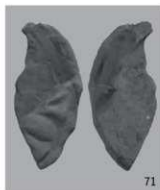
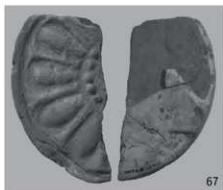
58

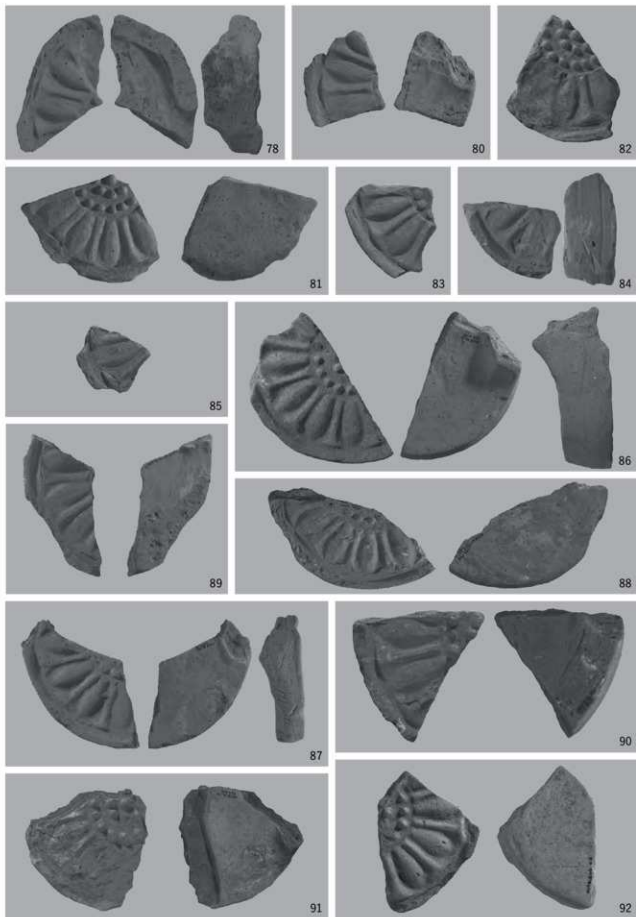


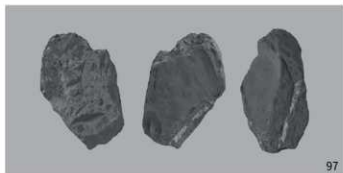
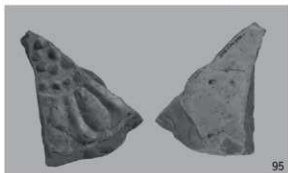
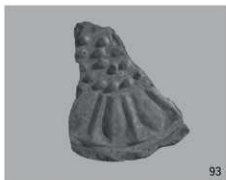
59



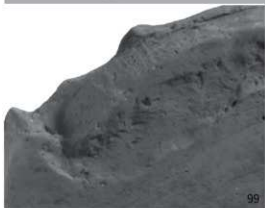




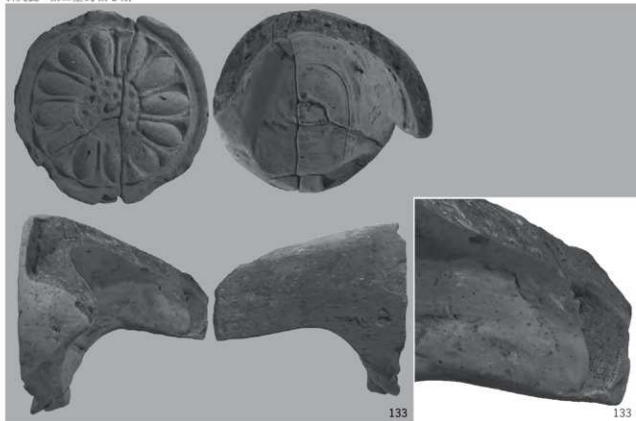




軒瓦 第二型式第1類②



軒九瓦 第二型式 第2類

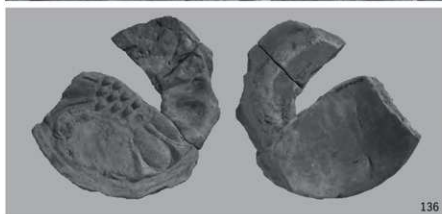




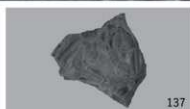
135



135



136



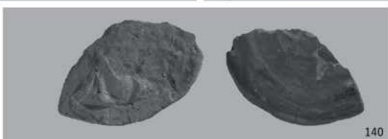
137



138



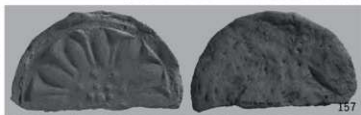
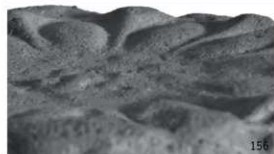
139

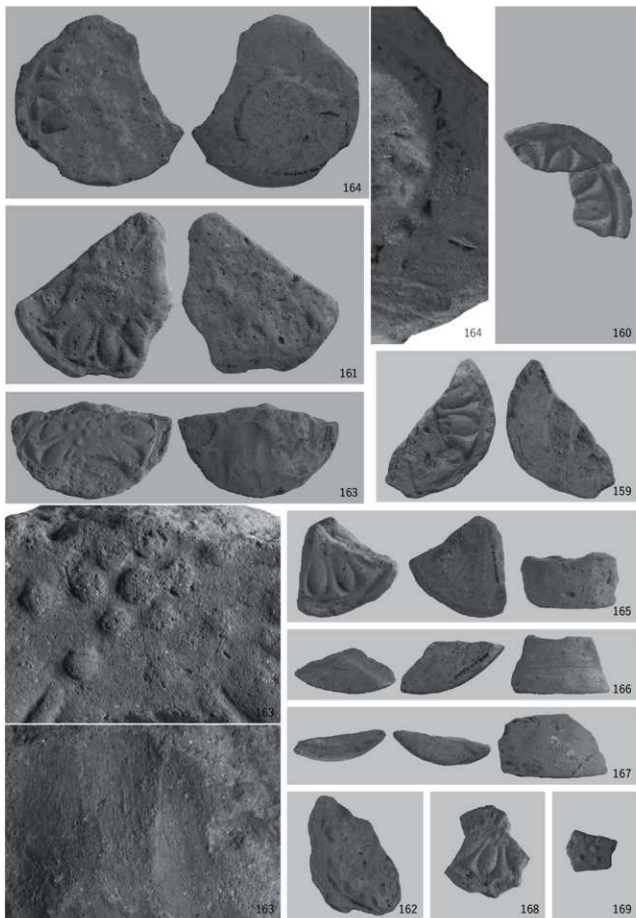


140

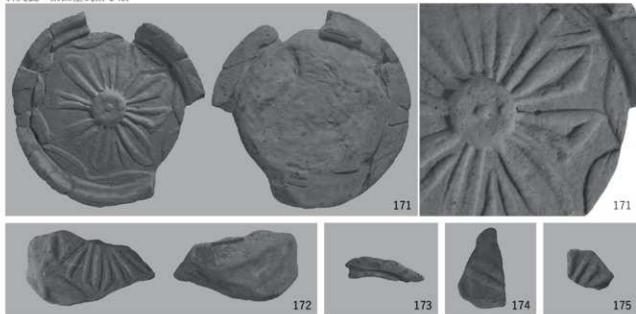


軒九瓦 第三型式

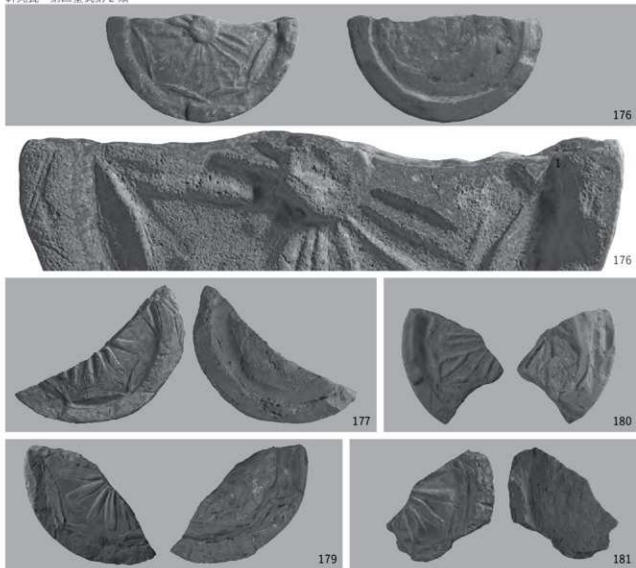




軒九瓦 第四型式第1類

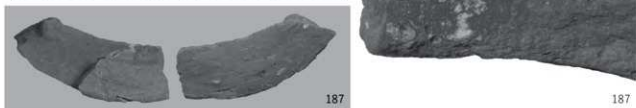
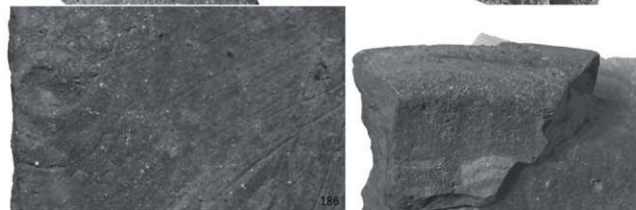
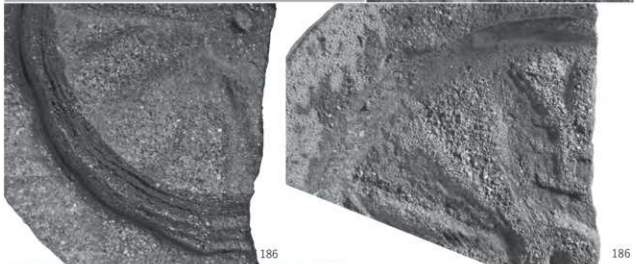
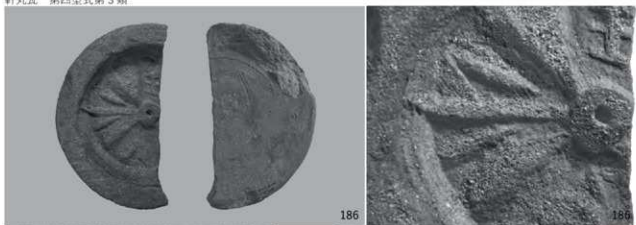


軒九瓦 第四型式第2類

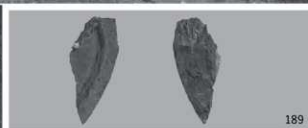
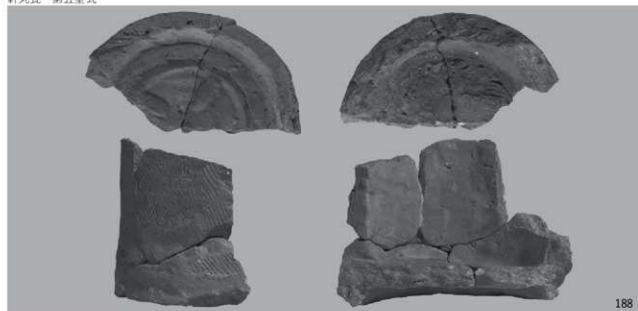


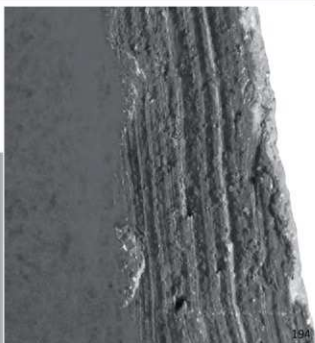
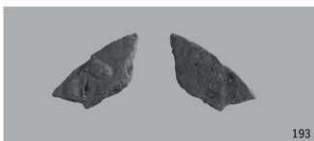
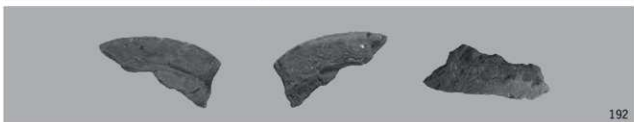
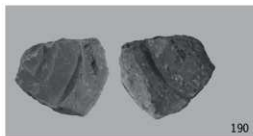


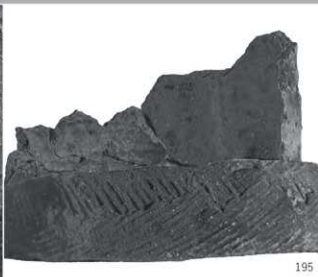
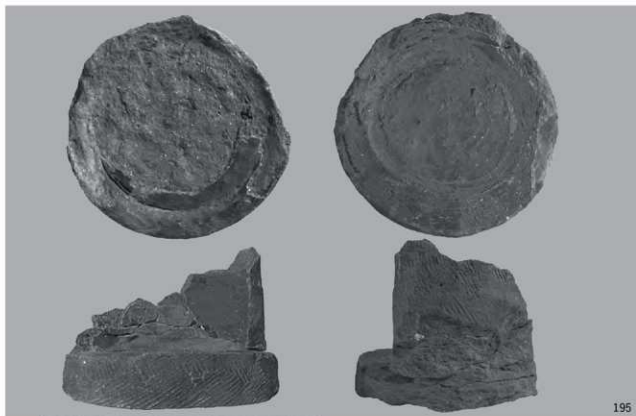
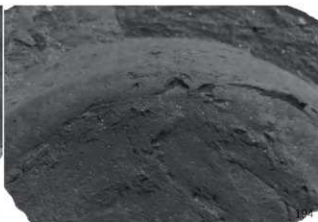
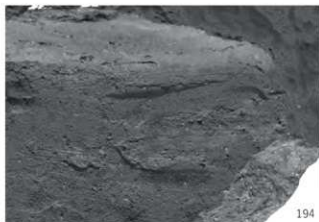
軒九瓦 第四型式第3類



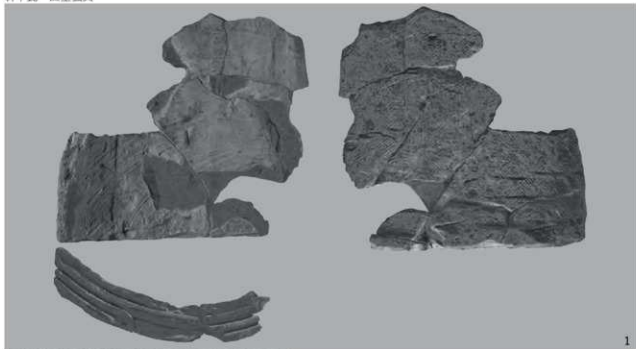
軒瓦 第五型式



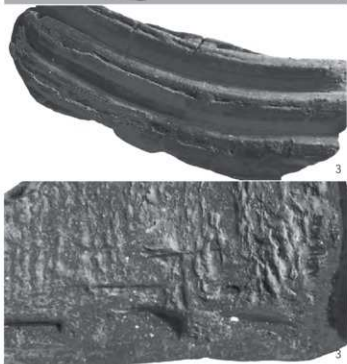




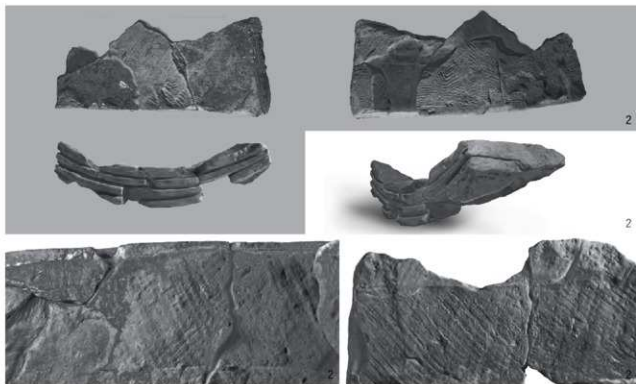
軒平瓦 四重弧文



額部貼付力キ目痕



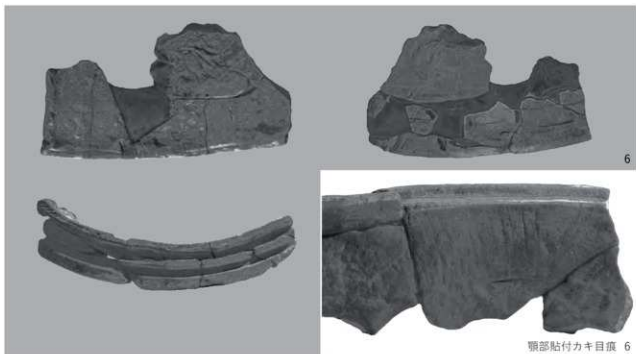




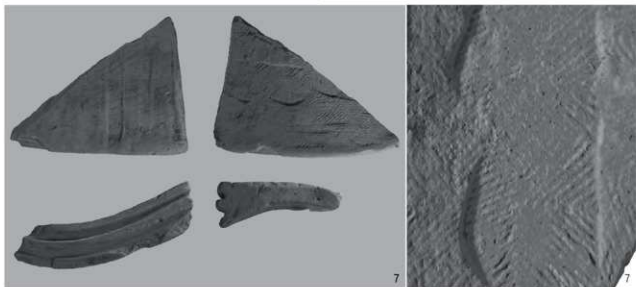
軒平瓦 三重弧文 A1 類

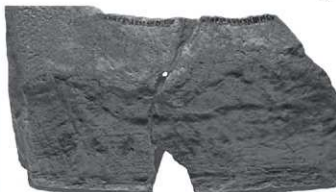
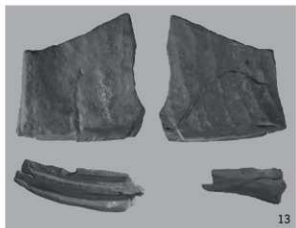
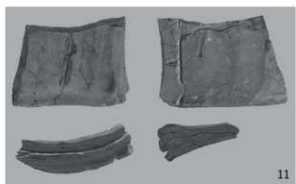
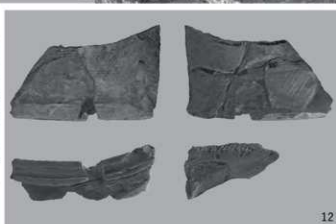
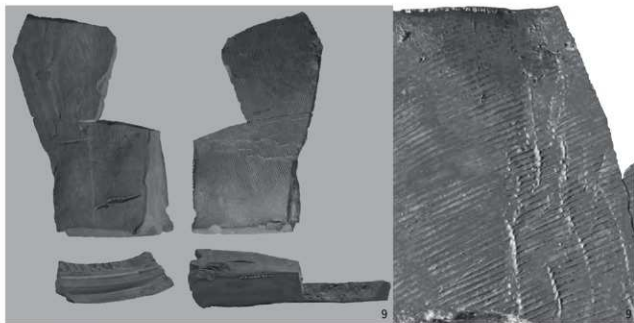
額部貼付カキ目痕



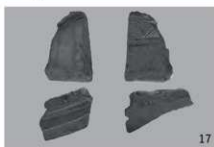
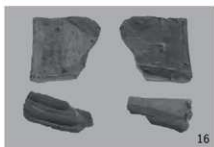
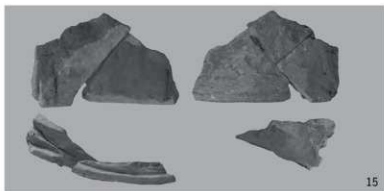
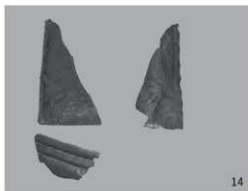


顎部貼付カキ目痕 6

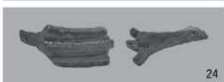
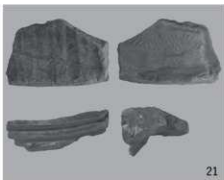
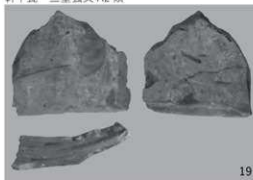




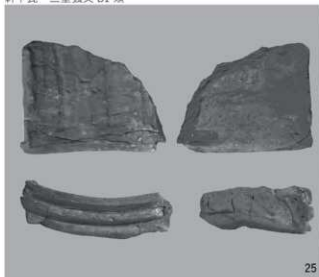
顎部貼付力牛目廣 12

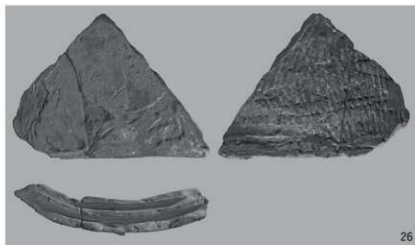


軒平瓦 三重弧文A2類



軒平瓦 三重弧文B1類





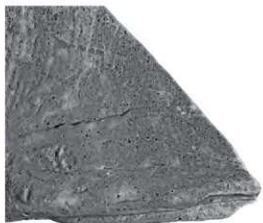
26



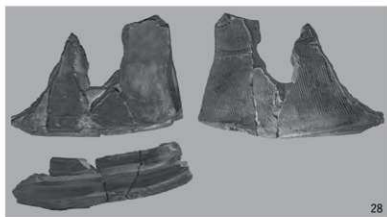
30



27



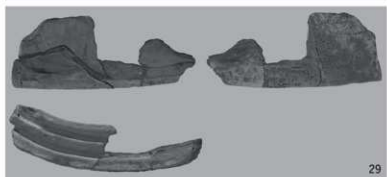
27



28



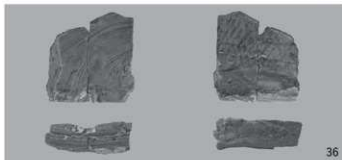
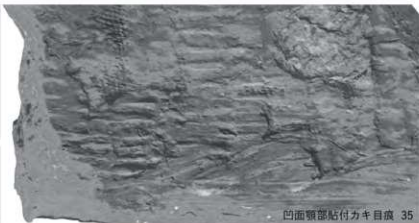
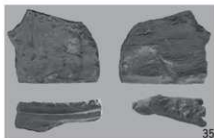
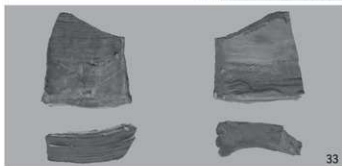
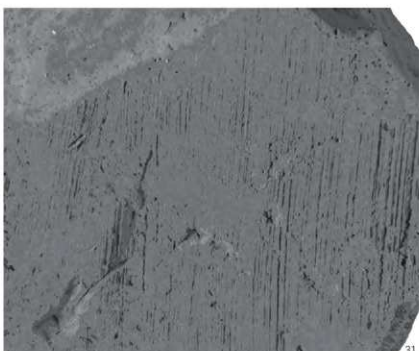
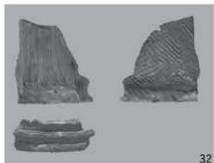
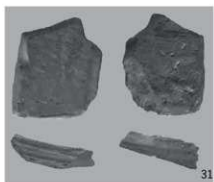
顎部粘土貼付痕 28



29



29



軒平瓦 三重弧文 B2 類



40



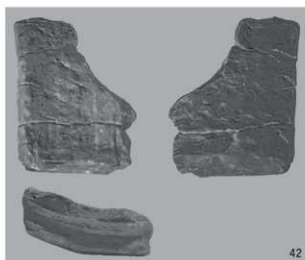
40



41



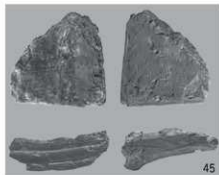
41



42



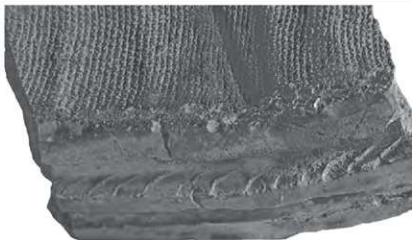
43



45

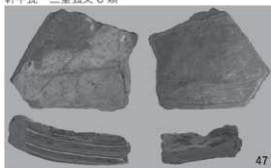


46



三重弧文施文押圧痕 43

軒平瓦 三重弧文C類



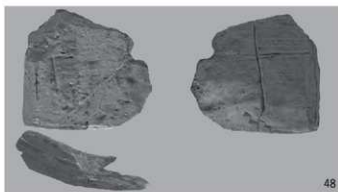
47



50



△面ヨコナ字 47



48



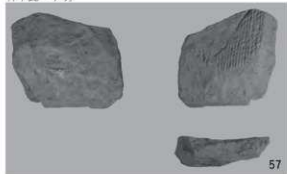
49

軒平瓦 二重弧文



51

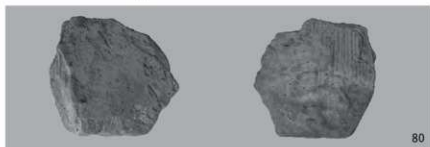
軒平瓦 不明



57



56



80



丸瓦 SX01



1



2

丸瓦 無段式 粘土板桶巻づくりⅠ類



10



10



10



11



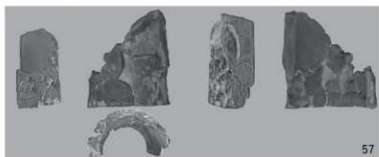
11



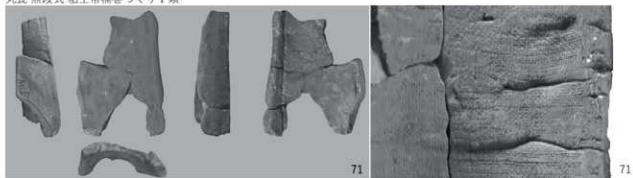
11



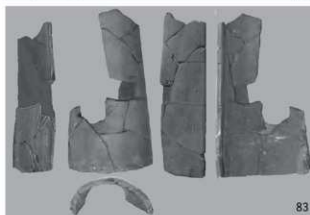
丸瓦 無段式 粘土板桶巻づくりⅡ③類



丸瓦 無段式 粘土帯桶巻づくりⅠ類



丸瓦 無段式 粘土帯桶巻づくりⅡ①類





84



97

丸瓦 無段式 粘土帶橋巻づくりⅡ②類



106



106

106

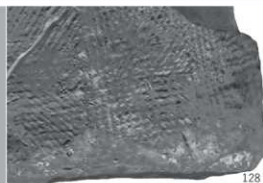
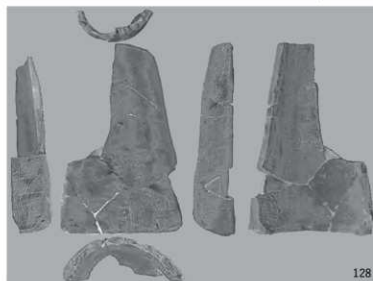
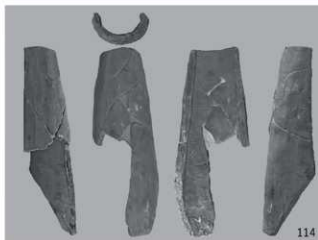
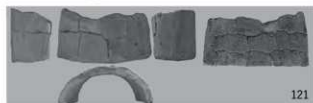
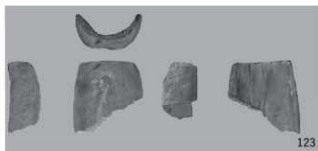
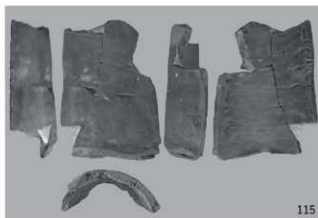


107

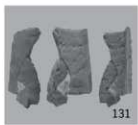
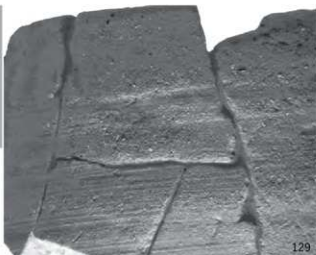


107

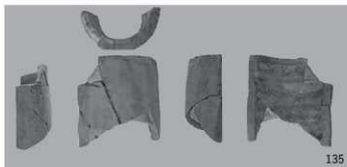
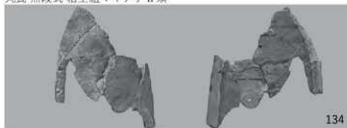
丸瓦 無段式 粘土帶桶巻づくりⅡ③類



丸瓦 無段式 粘土紐マキアゲⅠ類



丸瓦 無段式 粘土紐マキアゲⅡ類



丸瓦 有段式 粘土板桶巻づくりⅠ類



136



136



137



142

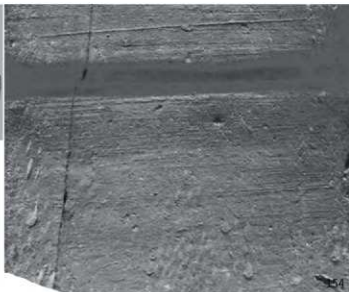
丸瓦 有段式 粘土細マキアゲⅠ類



154



154

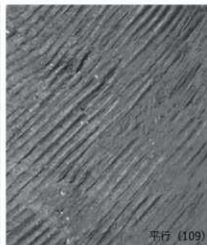


154

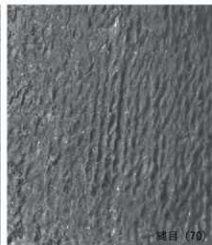
丸瓦 叩き痕



綾杉 (67)

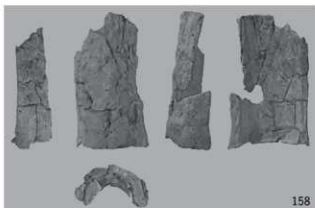


平行 (109)



碓目 (70)

軒九瓦接合九瓦 粘土板桶巻づくりⅠ類



158

九瓦集合①

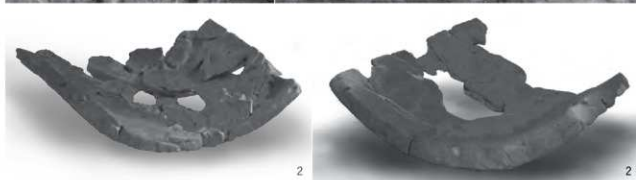
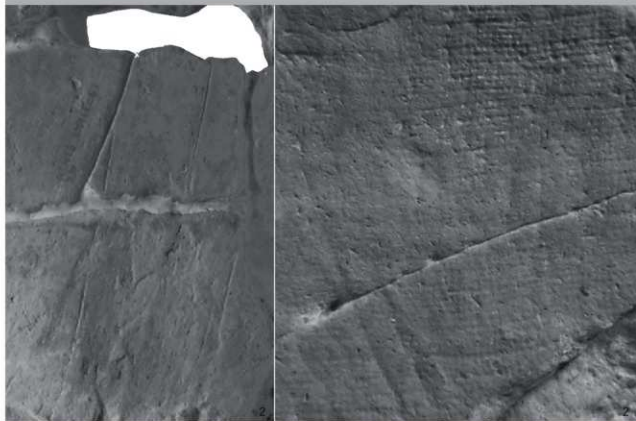
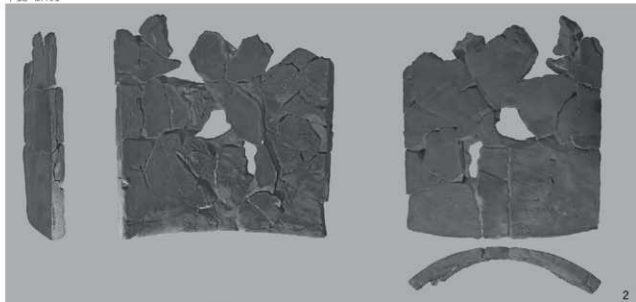


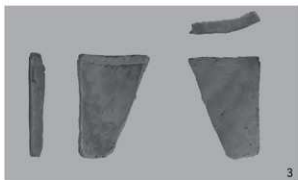
九瓦集合②





平瓦 SX01

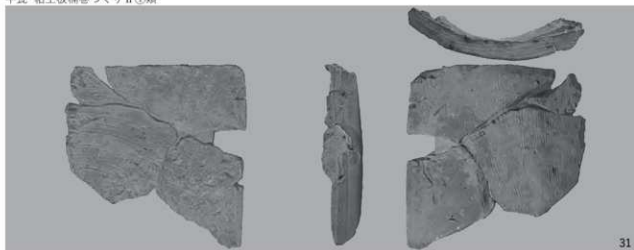




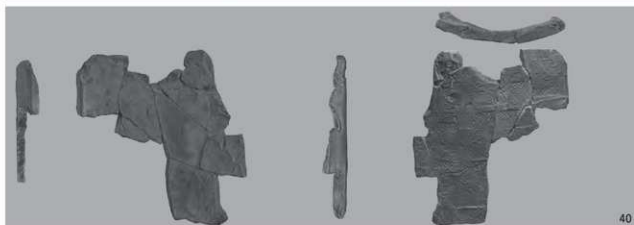
平瓦 粘土板巻づくり1類



平瓦 粘土板橋巻づくりⅡ①類



31



40

平瓦 粘土板橋巻づくりⅡ②類

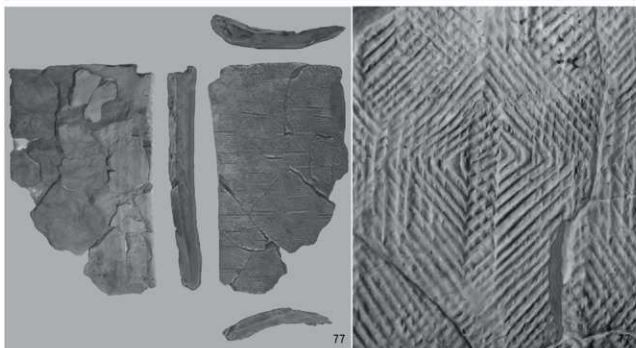
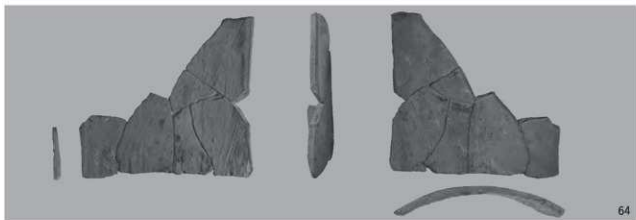
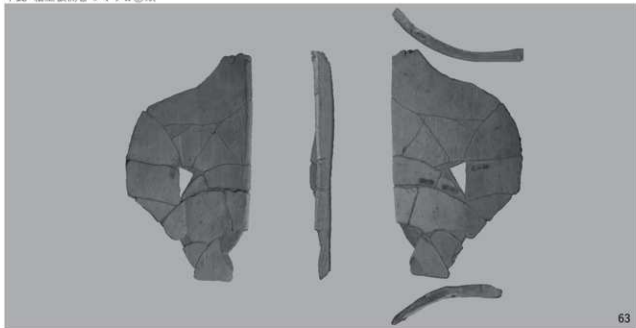


53



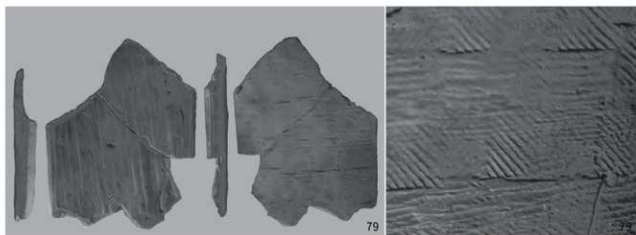
54

平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ③類





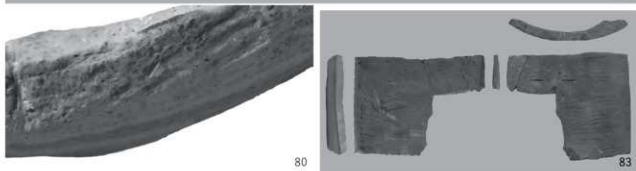
78



79

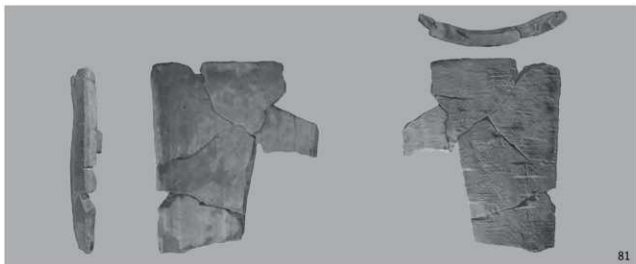


80



80

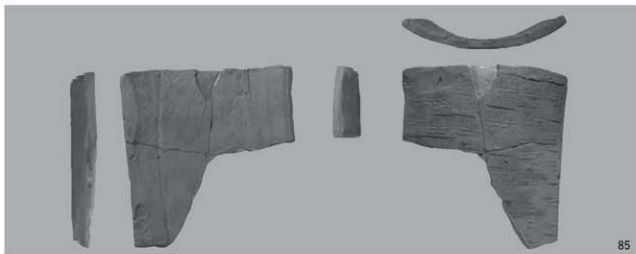
83



81



84

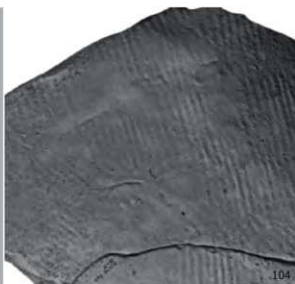
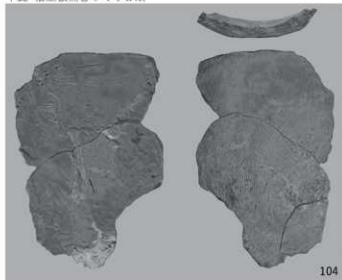


85

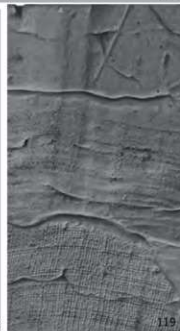
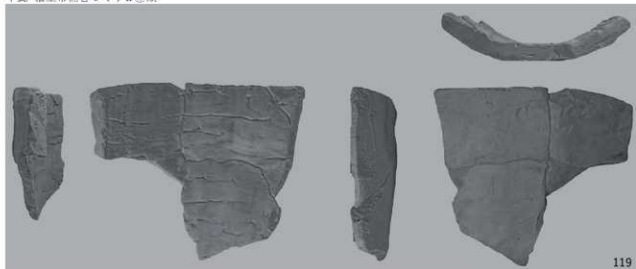


103

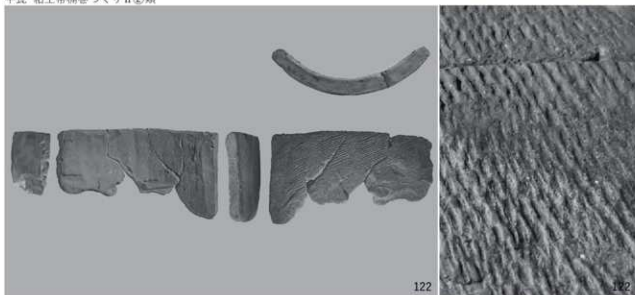
平瓦 粘土板桶巻づくりⅡ類



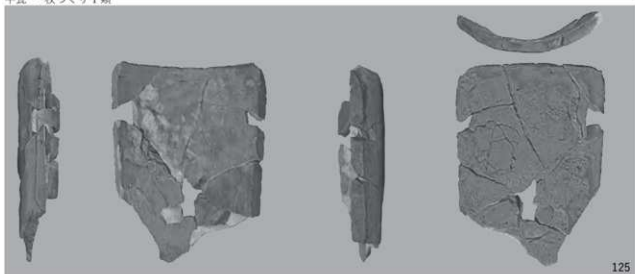
平瓦 粘土帯桶巻づくりⅡ①類



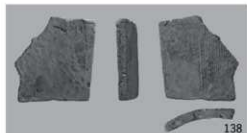
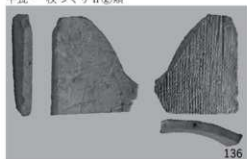
平瓦 粘土帯柄巻づくりⅡ②類



平瓦 一枚づくりⅠ類

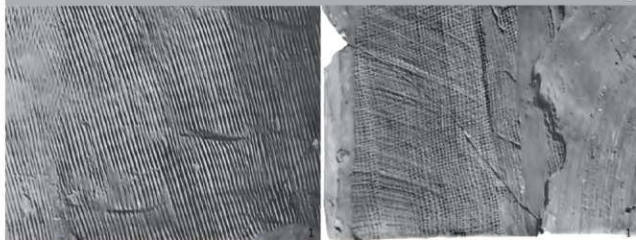


平瓦 一枚づくりⅡ②類





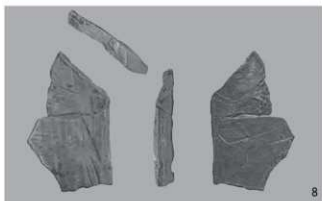
道具瓦



1



1





11



11



14



22



15

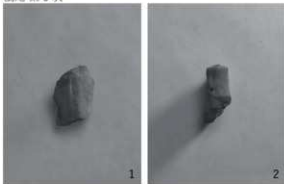


22



15

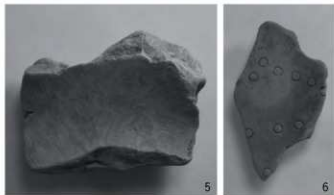
鵜尾 第5次



鵜尾 桜坂古窯址



鵜尾 第1・2次



鵜尾 桜坂古窯址



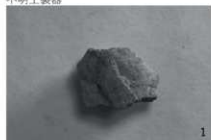
鬼瓦 第5次



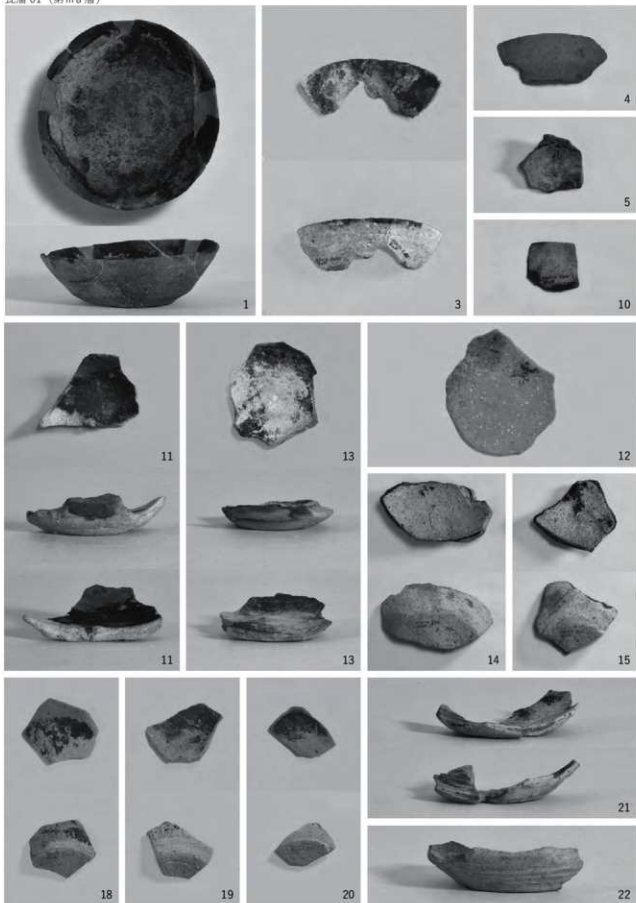
鬼瓦 第3次

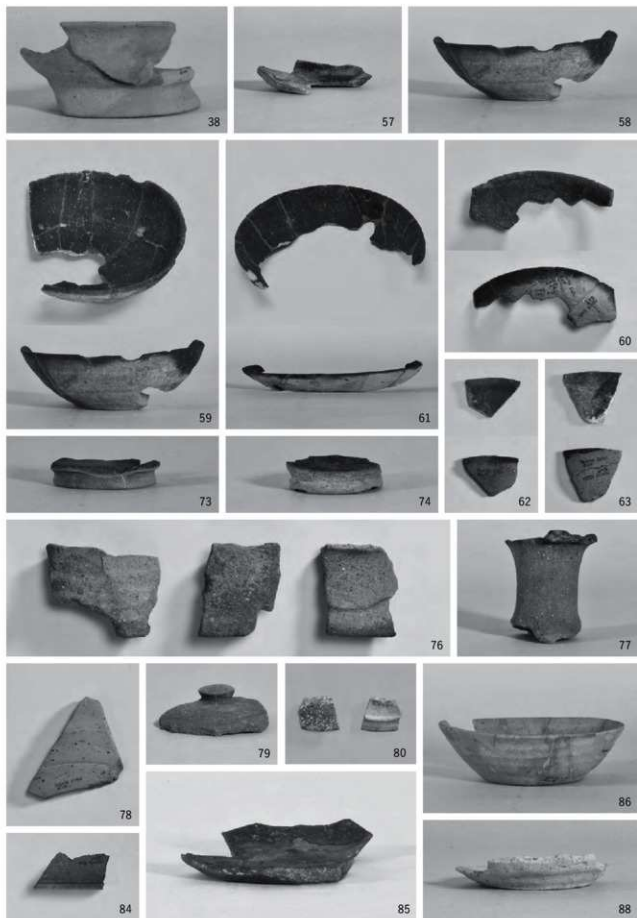


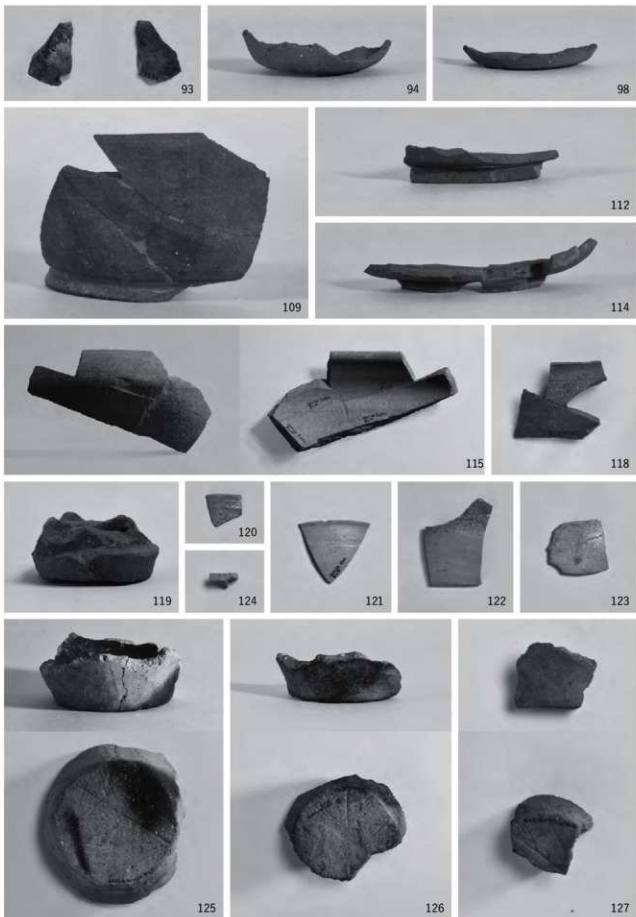
不明土製器



五瀬 01 (第Ⅲa層)











131



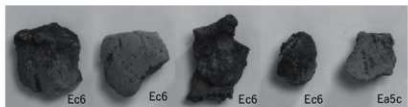
132



133



134



Ec6

Ec6

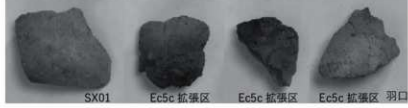
Ec6

Ec6

Ea5c



146



SX01

Ec5c 拡張区

Ec5c 拡張区

Ec5c 拡張区 羽口



147

SX01



SK01



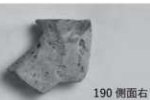
SK05



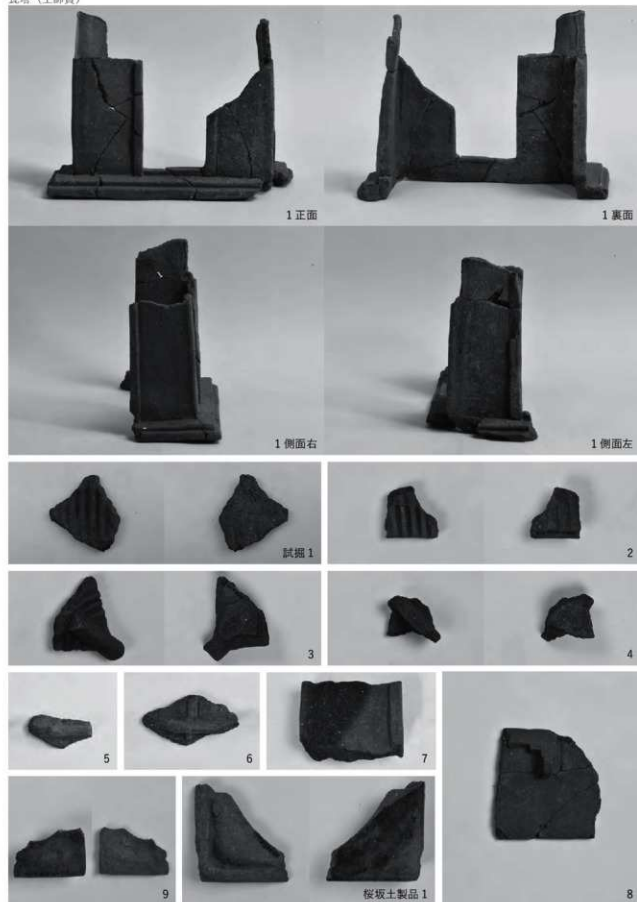
SK07



南東深掘 (第IIIa-IIIc 層)



瓦塔（土師質）



五塔第1・2次 (須恵質)



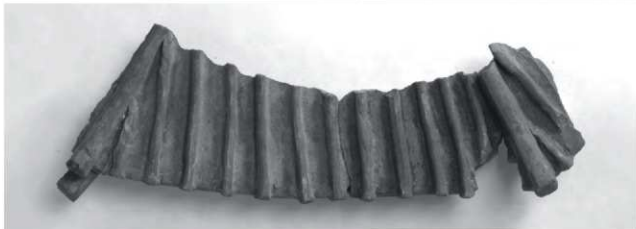
第1・2次 64-1



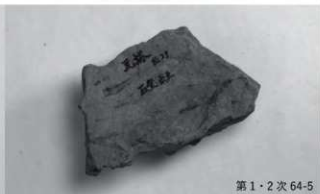
第1・2次 64-2



第1・2次 64-4



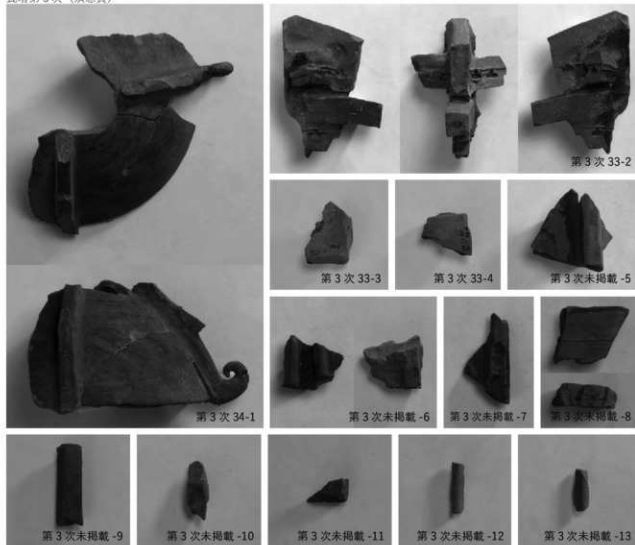
第1・2次 64-3  
第3次 33-1



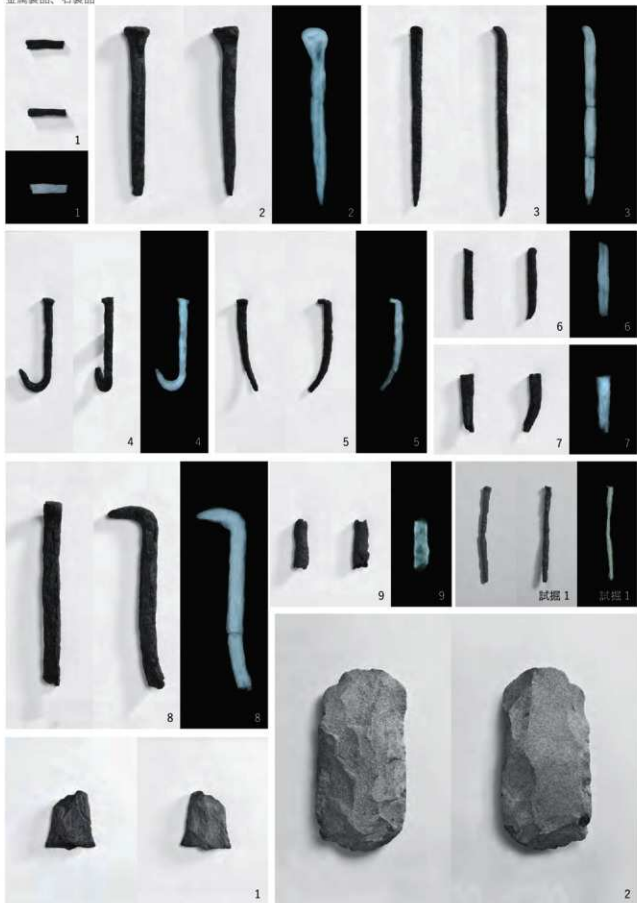
第1・2次 64-5



五塔第3次 (須恵質)



金属製品、石製品



## 引用、参考文献（五十音順）

- 愛知県陶磁資料館、五島美術館 1998 「日本の三彩と緑釉—天平に咲いた華—」五島美術館展覧会図録 No.121 五島美術館
- 愛知歴史編さん委員会 1984 「愛知歴史」別編 窯業 I 古代 猿投系 愛知県
- 青木敬 2017a 「仏教寺院と土木技術—飛鳥時代—」寺院・宮殿建築の変容—奈良時代—「土木技術の古代史」pp.112-239 吉川弘文館
- 青木敬 2017b 「寺院と土木技術—基礎構築技術を中心に—」月刊考古学ジャーナル11 No.705 pp.21-25
- 明科町史編纂会編 1984 「明科町史」上巻 明科町史刊行会
- 明科町教育委員会 1991 「はろく屋敷遺跡—川西地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第3集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 1998 「坂坂古窯址—主要地方道徳高明科線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第5集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2000a 「明科庵寺址—個人住宅建替えに伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第7集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2000b 「潮神明宮前遺跡—明科町総合福祉センター建設に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第8集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2004 「上手屋敷遺跡第2次調査—町営住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第12集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2005 「潮神明宮前遺跡Ⅱ—町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財 第13集 明科町教育委員会
- 明科町史自然編纂委員会 2007 「明科町史」自然編 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2013 「平成23年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷（第1次）・明科遺跡群采町遺跡（第3次）—」安曇野市の埋蔵文化財 第6集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2014 「平成24年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—明科遺跡群采町遺跡（第4次）—」安曇野市の埋蔵文化財 第7集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2016 「平成26年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査—」安曇野市の埋蔵文化財 第9集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017 「明科遺跡群明科庵寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財 第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019a 「平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財 第17集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019b 「潮遺跡群潮神明宮前遺跡3—安曇野市消防団第7分団第1部詰所新築工事に伴う第3次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財 第18集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2022 「明科遺跡群古殿屋敷3—安曇野市消防団第6分団第1部詰所建設に伴う第3次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財 第25集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2023 「令和3年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財 第28集 安曇野市教育委員会
- 荒井秀規 2017 「評家と白鳳寺院」『古代東国の地方官衙と寺院』pp.10-22 山川出版社
- 飯田市教育委員会 1978 「毛賀御射山遺跡」pp.14-19、33-34、図版5 遺物 飯田市教育委員会
- 飯田市教育委員会 2005 「前林遺跡—一付 前林庵寺跡—」pp.33-35 飯田市教育委員会
- 池田敏宏 2008 「初現期の瓦塔系譜—勝呂類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置付け—」『土曜考古』第32号 pp.53-72 土曜考古学研究会
- 池田敏宏 2009 「初現期の瓦塔系譜（2）—多武峯類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置付け—」『東国史論』第23号 pp.1-22 群馬考古学研究会
- 池田町誌編纂委員会 1992 「池田町誌」歴史編Ⅰ（原始～近世）池田町
- 池辺瀧 編 1981 「和名類聚抄郡郷里駅名考証」初版 吉川弘文館
- 石田成年 1997 「摂河泉の瓦塔」『河内古文化研究論集』柏原市古文化研究会 pp.263-276 和泉書院

- 出河裕典 1995 「信濃の瓦塔再考—近年の出土例を中心に—」『信濃』47-4 pp.78-97 信濃史学会
- 出河裕典 1996 「瓦塔の生産—塩尻市菟瀧沢遺跡の資料の検討を通して—」『長野県の考古学』長野県埋蔵文化財センター研究論集 1 長野県埋蔵文化財センター
- 今尾文昭 1993 「新益京横大路発掘調査報告書（関連条坊石京一条六坊および関連条坊石京北一条一坊の調査）」『奈良県遺跡調査概報1992年度第2分冊』pp.1-47 奈良県立橿原考古学研究所
- 今尾文昭 2008 「新益京の鎮祭と横大路の地鎮め遺構」『律令期陸墓の成立と都城』古代日本の陸墓と古墳 2 pp.257-269 青木書店
- 上村和直 1999 「都城における理納遺構—鎮祭遺構を中心に—」『瓦衣千年—森郁夫先生還暦記念論文集—』pp.123-161 真陽社
- 太田喜幸、河西清光 1966 「長野県東筑摩郡明科町七貫ヶ丘遺跡調査」『松本源助地区新産都市地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告』pp.139-156 長野県考古学会
- 小田富士雄 2007 「豊前・トギハ宮跡の調査—古代須恵器・瓦塔に関する研究—」福岡大学考古学研究室研究調査報告第5冊 福岡大学人文学部考古学研究室
- 梶原義実 2017 「古代地方寺院の造営と景観」pp.72・181-204 吉川弘文館
- 梶原義実編 2022 「伊保庵寺発掘調査報告書」名古屋大学大学院人文学部考古学研究室
- 岐阜県文化財保護センター 2002 「太江遺跡・寿楽寺発掘調査」岐阜県文化財保護センター調査報告書 第74集 財団法人岐阜県文化財保護センター
- 岐阜県文化財保護センター 2021 「上切寺尾古墳群・日焼遺跡」岐阜県文化財保護センター調査報告書 第154集 岐阜県文化財保護センター
- 梶原健 1989 「安曇郡四郷の考古学的同定」『信濃』41-10 pp.1-12 信濃史学会
- 梶原健 2002 「明科庵寺が提起する問題」『信濃』54-12 pp.55-61 信濃史学会
- 梶原健 2014 「附編 安曇郡に観る古墳と寺院」『長野県安曇野市穂高古墳群2013年度 発掘調査報告書』國學院大学文学部考古学実習報告 第50集 國學院大学文学部考古学研究室
- 京都大学文学部国語国文学研究室編 1981 「諸本集成倭名類聚抄」本文篇 第三版 臨川書店
- 久世康博 2004 「櫻原庵寺の再検討（上）」『研究紀要』9 pp.1-38 京都市埋蔵文化財研究所
- 興福寺 2002 「興福寺—第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅲ—」独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
- 国立国会図書館デジタルコレクション 2011 「和名類聚抄」20巻本 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2561170> (2011年3月31日)
- 小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 pp.97-158 長野県教育委員会
- 児玉利一 2016 「東八木宮跡の概要と出土遺物の特徴について」『武蔵国高麗郡建部—入間から見た高麗郡建部とその後—』pp.117-128 古代入間を考える会
- 埼玉県立歴史資料館 1994 「埼玉の瓦塔」資料館ガイドブック 11 埼玉県立歴史資料館
- 坂田敏行 2006 「製作技法からみる下宅部遺跡出土瓦塔」『下宅部遺跡Ⅱ』東村山市遺跡調査会
- 塩尻市教育委員会 1991 「菟瀧沢遺跡発掘調査報告書」塩尻市教育委員会
- 敷島町教育委員会 1990 「天狗沢瓦宮跡発掘調査報告書」敷島町教育委員会
- 柴田洋孝 2017 「長野県における古代瓦出土地点」『長野県埋蔵文化財センター年報（東北信編）』34 pp.47-54 長野県埋蔵文化財センター
- 柴田洋孝 2018 「長野県における古代瓦出土地点」『長野県埋蔵文化財センター年報（中南信編）』35 pp.42-49 長野県埋蔵文化財センター
- 柴田洋孝 2023 「信濃国の古代官衙・寺院と窯業生産」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』pp.139-150 地域と考古学の会
- 城ヶ谷和広 1999 「奈良時代の須恵器生産と金属器—法隆寺献納宝物依波理蓋を模倣した須恵器—」『愛知史研究』第3号 pp.170-190 愛知県
- 杉本一樹 2018 「正倉院の織羅製品と調遣関係銘文—松嶋順正「正倉院宝物銘文集」第三編補訂 前編」『正倉院紀要』40号



- 杉山信三 1967「櫻原廃寺跡の発掘調査概要」『佛教藝術』66佛教藝術學會編 pp.47-54 毎日新聞出版
- 須田勉 1985「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集 pp.555-578 早稲田大学出版部
- 須田勉 2006「古代村落寺院とその信仰」『古代の信仰と社会』国士館大学考古学会編 pp.35-77 六一書房
- 高崎光司 1989「瓦塔小考」『考古学雑誌』日本考古学会
- 積石塚・渡来人研究会 2018「渡来人と寺・道—ヒト・モノ・情報の交差する歴史空間—」講演会・相互討論資料集 積石塚・渡来人研究会
- 鳥羽英継 2001「古代のあかり—長野県内出土、古代の灯明具の分析—」『長野県考古学会誌』96 pp.19-48 長野県考古学会
- 豊科町教育委員会 1987「菟浦平窯跡群—77kV 安曇野作業所送電線に係る埋蔵文化財報告書—」中部電力株式会社・豊科町教育委員会
- 豊科町誌編纂委員会 1995「豊科町誌」歴史編・民俗編・水利編 豊科町誌刊行会
- 豊科町東山遺跡調査会編 1999「筑摩東山 上ノ山・菟浦平窯跡群発掘調査報告」豊科町教育委員会
- 永井邦仁 2006「東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 pp.90-98 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2008「猿投窯型瓦塔の展開（1）—信濃の猿投窯型瓦塔—」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第9号 pp.43-52 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2009「猿投窯型瓦塔の展開（2）—猿投窯型以前—」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第10号 pp.35-42 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2012「江南音楽寺遺跡出土の美濃須南窯型瓦塔」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第13号 pp.17-28 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2016「続・東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第17号 pp.109-120 愛知県埋蔵文化財センター
- 永井邦仁 2023「国府を中心とする官衙遺跡出土の瓦塔とその生産」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』pp.161-174 地域と考古学の会
- 長野県埋蔵文化財センター 1989「吉田川西遺跡—中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3（塩尻市内その2）—」長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書3 長野県埋蔵文化財センター
- 長野県埋蔵文化財センター 1993「北村遺跡—中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11（明科町内）—」長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14 長野県埋蔵文化財センター
- 長野県南安曇郡 1923『南安曇郡誌』南安曇郡教育会
- 長野市教育委員会 2008「長野遺跡群元善町遺跡善光寺門前町跡（2）」長野市の埋蔵文化財 第121集 長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センター
- 奈良国立博物館 1995「平成七年正倉院展目録」pp.72-73 奈良国立博物館
- 奈良国立文化財研究所 1978「奈良国立文化財研究所学報31 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ」奈良国立文化財研究所 pp.92-10
- 奈良国立文化財研究所 1986「4.坂田寺第5次調査」『奈良国立文化財研究所概報16』奈良国立文化財研究所 pp.68-72
- 奈良国立文化財研究所 1991「奈良国立文化財研究所学報50 平城宮発掘調査報告13」奈良国立文化財研究所 pp.370-383
- 榎崎彰一 1979「正倉院陶器」『世界陶磁全集』2 日本古代 pp.252-264 小学館
- 奈良文化財研究所 2008「大極殿院南門の調査—第148次—」『奈良文化財研究所紀要2008』pp.58-69 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
- 奈良文化財研究所 2020「古代瓦研究Ⅸ—木づくり・一枚づくりの展開1—（東日本編）」古代瓦研究会シンポジウム記録
- 奈良文化財研究所 2022「古代瓦研究Ⅹ—鴟尾・鬼瓦の展開1 鴟尾—」古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 奈良文化財研究所 2022「鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ—鬼瓦—」第21回シンポジウム発表要旨 奈良文化財研究所 古代瓦研究会事務局
- 奈良文化財研究所 2024「古代瓦研究ⅩⅢ—鴟尾・鬼瓦の展開2 鬼瓦—」独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

- 原明芳 1994 「3 信濃の施軸陶器」『古代の土器研究—律令の土器様式の西・東3施軸陶器—』古代の土器研究会 pp.27-34
- 原明芳 1996 「銅鏡考—長野県の奈良・平安時代を中心として—」『長野県の考古学』pp.241-259 長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ
- 原明芳 2003 「灰軸陶器考」『長野県考古学会誌』103・104 長野県考古学会 pp.1-34
- 原明芳 2022 「安曇郡の古代を考える—明科から安曇郡を考える—」『信濃』74-5 pp.69-85 信濃史学会
- 原嘉藤 1955 「長野県東筑摩郡明科町 明科廃寺址」『信濃』7-7 pp.50-65 信濃郷土研究会
- 飛騨市教育委員会 2012 「杉崎廃寺跡2」飛騨市文化財調査報告書 第5集 飛騨市教育委員会
- 飛騨市教育委員会 2019 「飛騨市道跡詳細分布調査報告書 飛騨市文化財調査報告書 第14集 飛騨市教育委員会
- 平尾政幸 1981 「櫻原廃寺発掘調査概要 昭和55年度」京都市埋蔵文化財調査センター 京都市埋蔵文化財研究所
- 平松良雄 2007 「八世紀の燈籠供養と灯明器」『古代中世史の探求』シリーズ多く大和Ⅰ pp.112-141 法蔵館
- 藤本誠 2017 「古代村落的「堂」研究の現状と課題」『民衆史研究』第93号 pp.3-16 民衆史研究会
- 藤本誠 2020 「二古代の説法・法会と人々の信仰」『日本宗教の信仰世界』日本宗教史5 pp.39-68 吉川弘文館
- 古川町教育委員会 1998 「杉崎廃寺跡発掘調査報告書 古川町埋蔵文化財調査報告書 第5集 古川町教育委員会
- 法隆寺 1983 「法隆寺発掘調査概報Ⅱ—昭和57年度防災工事に伴う発掘調査—」法隆寺発掘調査概報編集委員会
- 穂高町誌編集委員会 1991 「穂高町誌」歴史編上・民俗編 穂高町誌刊行会
- 堀金村誌編集委員会 1991 「堀金村誌」上巻（自然・歴史）堀金村誌刊行会
- 哲川貴之 2020 「須恵器の「捏鉢」について」『研究ノート』茨城教育財団編17 pp.17-22 茨城県教育財団
- 南安曇郡誌改訂編集会 1968 「南安曇郡誌」第二巻上 南安曇郡誌改訂編集会
- 三舟隆之 2003 「日本古代地方寺院の成立」吉川弘文館
- 三舟隆之 2013 「日本古代王権と寺院」名著刊行会
- 三舟隆之 2017 「古代東国の仏教受容と寺院」『古代東国の地方官衙と寺院』pp.69-77 山川出版社
- 三舟隆之 2020 「古代氏族と地方寺院」同成社
- 三好清超 2018 「寿楽寺廃寺跡と明科廃寺跡の軒丸瓦の範囲と先後関係について」『渡来人と寺・道—ヒト・モノ・情報の交差する歴史空間—』講演会・相互討論資料集 積石塚・渡来人研究会
- 三好清超 2020 「中部地方の一本づくり・一枚づくり」『古代瓦研究Ⅹ—一本づくり・一枚づくりの展開Ⅰ—（東日本編）』古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 三好清超 2021 「飛騨地域で出土する縦置き一本づくり軒丸瓦研究の現状」『斐太紀』研究紀要27 pp.233-1247 飛騨学の会
- 三好清超・小林新平 2022 「中部地方の鴟尾」『古代瓦研究Ⅺ—鴟尾・鬼瓦の展開Ⅰ 鴟尾—』古代瓦研究会シンポジウム記録 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 三好清超・柴田洋孝 2022 「岐阜市の鬼瓦」『鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ—鬼瓦—』第21回シンポジウム発表要旨 奈良文化財研究所 古代瓦研究会事務局
- 三好清超 2023 「飛騨の国の官衙・寺院と窯業」『東海の古代官衙・寺院と窯業生産』pp.150-160 地域と考古学の会
- 横崎祐輔 2006 「金属器模倣須恵器の出現とその意義」『筑波大学先史学・考古学研究』第17号 pp.81-102 筑波大学先史学・考古学研究編集委員会
- 森郁夫 2013 「地鎮・鎮壇」『鎮めとまじないの考古学—一鎮壇具からみる古代—』pp.7-74 雄山閣
- 山路直夫 2004 「甲斐における瓦葺き寺院の出現—天狗沢古窯出土鏡瓦の祖型をとおって—」『古代考古学フォーラム2004 古代の社会と環境』「開発と神仏とのかわり」資料集 pp.92-103 帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会
- 山路直夫 2013 「山国の寺—情報伝播からみた山国の交通—」『古代山国の交通と社会』pp.255-274 八木書店
- 山田真一 2003 「長野県のカミ・ホトケ関連遺構・遺物—「仏教関連」遺物を中心に—」『古代考古学フォーラム2003 古代の社会と環境』「道跡の中のカミ・ホトケ」資料集 pp.50-63 帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学協会
- 山田真一 2006 「長野県下出土の鉢（はつ）形土器」『信濃』58-3 pp.61-74 信濃史学会

調査報告書抄録

ふりがな	あかしないせきぐんあかしなはいじ5							
書名	明科遺跡群明科廃寺5							
副書名	個人住宅建設に伴う第5次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	田多井智恵、白居直之、山下泰永、斉藤雄太、望月裕子、増田真紀、三好清超、柴田洋孝、株式会社加速器分析研究所							
編集機関	安曇野市教育委員会							
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL 0263-71-2000							
発行年月日	西暦2024年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
あかしないせきぐん 明科遺跡群 あかしないせきぐん 明科廃寺 (第5次)	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしないせきぐん 明科中川手3779番	20220	5-409	36° 21' 14"	137° 55' 41"	20180507 ～ 20180618	40㎡	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
明科遺跡群 明科廃寺	寺院跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	瓦等の集積 不明遺構 土坑、方形柱穴	瓦、鵝尾、鬼瓦、 瓦塔、須恵器、 土師器、灰釉陶器、 金属製品、石製品		平安期の廃絶に伴う瓦等の 集積と修造期に関する遺構、 地鎖と整地を示す遺構等を 確認した。		
要約	<p>明科遺跡群明科廃寺は、筑摩山地と犀川に挟まれた河岸段丘上に所在する7世紀末から8世紀初頭に創建されたと考えられる飛鳥時代後半の寺院である。これまでに4次にわたる発掘調査が実施され、礎敷遺構の一部や倉庫、僧房等と考えられる掘立柱建物跡、掘立柱欄列などが確認されており、寺域を推定するうえで重要な成果が得られている。</p> <p>今回の調査では、平安期の廃絶に伴う瓦等の集積や、方形柱穴など修造期に関する遺構、地鎖に伴った可能性のある入れ子状の軟質の須恵器が出土し、人為的な埋め戻しと三和土状の土層による整地を示す遺構(SX01)が検出され、明科廃寺の時期的変遷を知る上で貴重な成果が得られた。</p>							

安曇野市の埋蔵文化財第30集

明科遺跡群明科廃寺 5

個人住宅建設に伴う第5次発掘調査報告書

---

発行 令和6年(2024)3月13日  
安曇野市教育委員会  
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地  
電話0263-71-2000

編集 安曇野市教育委員会  
印刷 電算印刷株式会社

